

男女共同参画に関する 第4次住民意識調査報告書

平成28年3月

岩 出 市

はじめに

市民の皆様におかれましては、日頃から市行政に対しご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成11年6月国において男女共同参画社会基本法が制定されて以来、国、県において男女共同参画社会の実現に向けたさまざまな取り組みがなされてきました。

岩出市においては、「^{ひと}女と^{ひと}男が共に生きる^{まち}社会を目指して」をスローガンに、平成15年度に男女共同参画プランを策定し、社会情勢や意識の変化に合わせ、2回の改訂を経ています。現在は、平成23年度に策定した「岩出市男女共同参画プラン“ハーモニープラン～共に歩もう 輝く未来へ～”」により、女性だけでなく男性も生きやすい社会である男女共同参画社会の実現を市施策の最重要課題の一つとしてとらえ、地域に密着した様々な推進事業や啓発に取り組んでまいりました。

平成22年に実施した前回の意識調査から、今回まで調査の間、政府では、成長戦略の1つとしての女性の活躍が推進され、「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等女子労働者の福祉の増進に関する法律」（均等法）が昭和61年に施行されてから、30年が経過した今年、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）が施行されます。また、東日本大震災被災地での女性に関する問題や、ダイバーシティ（多様性）、DVなどの暴力、多様な性に関する問題などが取り上げられ、男女共同参画に関する市民の皆様の意識も変容していると推測できます。

今回の調査は、平成28年度の男女共同参画プランの見直しに向け、市民の皆様の男女共同参画に対する意識がどのように変化しているかを把握し、今後の取り組みや方向性を見直し、新プランの施策に活かしていくことを目的としています。

最後に、本調査にご協力いただきました市民の皆様方に厚くお礼を申し上げますとともに、男女共同参画社会の実現に向けご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月

岩出市

目 次

1. 調査概要	1
2. 調査結果	3
①一般	
1 回答者自身について	3
2 仕事について	5
3 日常生活について	10
4 地域活動や老後の暮らしについて	24
5 DVについて	31
6 セクシャルハラスメントについて	38
7 女性の人権について	42
8 男女平等について	43
②子育て世帯	
1 回答者自身について	52
2 仕事について	53
3 日常生活や子育てについて	58

1. 調査概要

1. 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、平成 22 年度に「男女共同参画に関する第 3 次住民意識調査」を実施してから 5 年が経過した平成 27 年度に、改めて岩出市民の意識変化を調査することにより、家庭や職場、学校など日常生活のさまざまな場面における、男女共同参画社会についての意識や意見等を把握し、第 4 次プラン策定の基礎資料とすることを目的とする。

(2) 調査対象

- ①一般：平成 27 年 10 月 1 日を基準日とした、20 歳以上の岩出市民 2,500 人
- ②子育て世帯：乳幼児健診受診児童保護者、公立保育所年長児、市内小中学生保護者 1,028 人

(3) 抽出方法

- ①一般：住民基本台帳に基づく無作為抽出（男女各 1,250 人を年齢層を均等に抽出）
- ②子育て世帯：平成 27 年 11 月乳幼児健診受診児童保護者（悉皆）、公立保育所年長児保護者（悉皆）、市内各小学 2・4・6 年、中学 2 年保護者 1 クラス抽出（クラス無作為）

(4) 調査方法

- ①一般：郵送による調査票の配布及び郵便受取人払いによる回収
- ②子育て世帯：検診場所での手渡し又は児童生徒による持ち帰りによる調査票の配布、郵便受取人払いによる回収

(5) 調査期間 平成 27 年 11 月 6 日～12 月 10 日

(6) 回収結果

- ①一般：889 件（有効回収率 35.6%）
- ②子育て世帯：367 件（有効回収率 35.7%）

(7) 報告書の見方、注意点

- 1 設問によっては「単純集計」の結果を記載したあとで、「男女別」、「年齢別」あるいは「他の設問」との「クロス集計」を記載しています。
- 2 図中の N は、設問に対する回答者数のことです。
- 3 回答比率は、回答者数（N）を 100% として算出し、小数点第 2 位を四捨

五入して表示しています。そのため、内訳の合計が計に一致しない場合があります。また、複数回答の設問の場合は、回答比率（%）の計100.0%を越えます。

なお、回答が少数である場合の比率については、特定の意向が強く反映される場合があることに留意が必要です。

- 4 図中に次のような表示がある場合は、複数回答を依頼した質問です。
 - ・MA%：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
 - ・3LA%：回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合
 - ・2LA%：回答選択肢の中からあてはまるものを2つ以内で選択する場合
- 5 図表の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載していますが、一部簡略化した表現を用いている場合もあります。

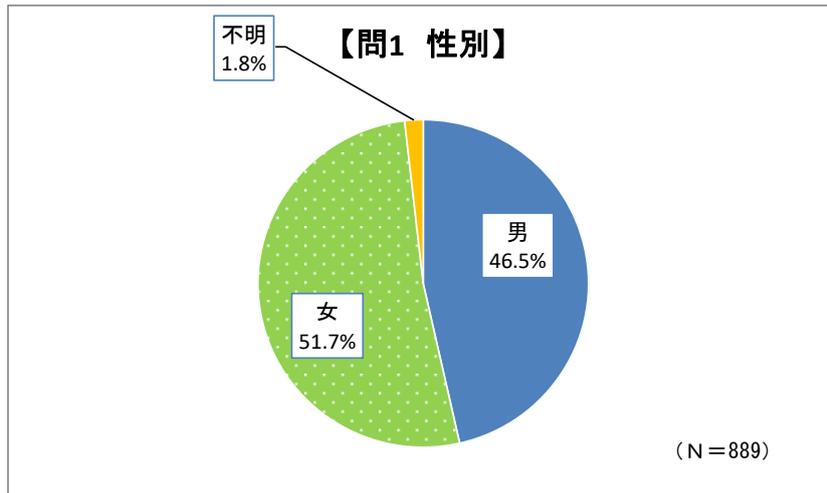
2. 調査結果

2. 調査結果

①一般

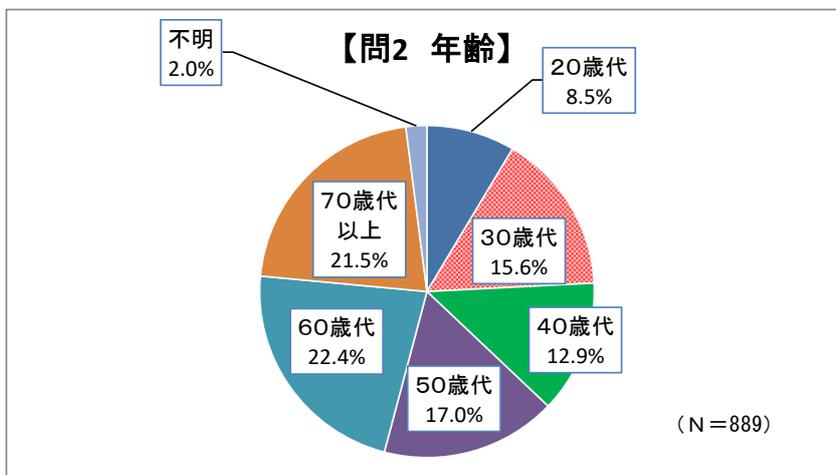
1 回答者自身について

問1. あなたの性別は？（1つだけに○を）



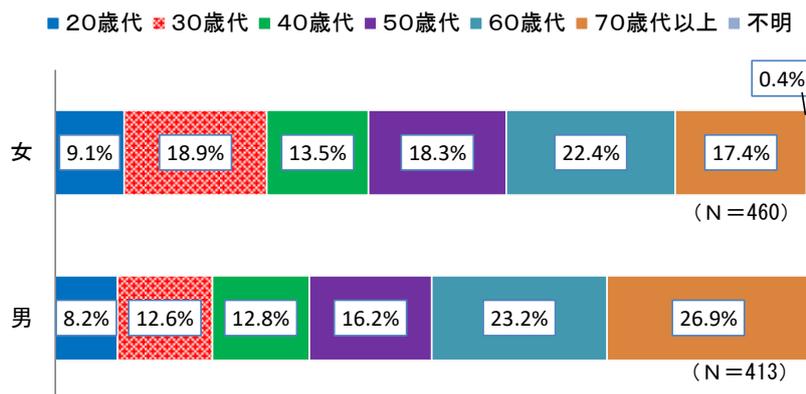
性別としては、「男性」が46.5%に対し、「女性」が51.7%となっている。

問2. あなたの年齢は？（1つだけに○を）



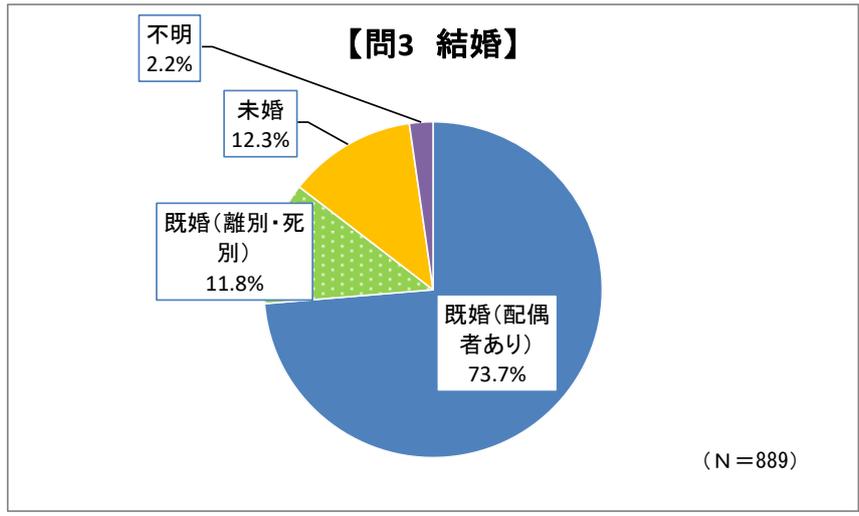
年齢としては、「60歳代」が22.4%と最も多く、次いで、「70歳代」21.5%、「50歳代」17.0%となっている。

【問2-① 性別 年齢】



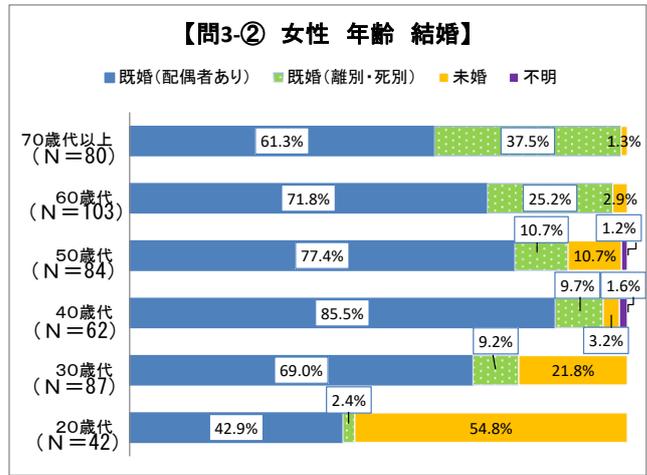
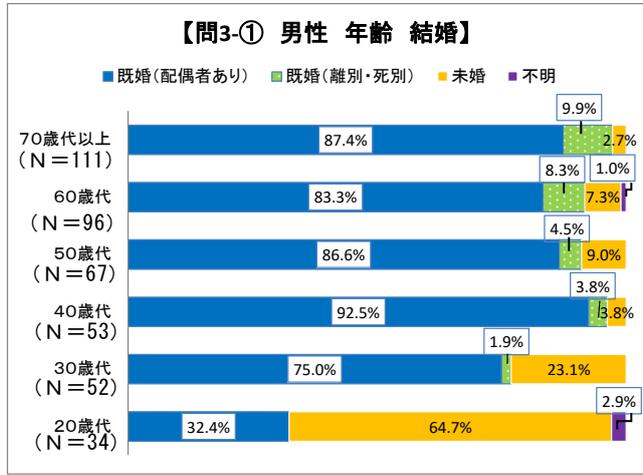
性別にみると、女性では、「60歳代」が22.4%と最も多く、「30歳代」が18.9%の順となっている。男性では「70歳代」が26.9%と最も多く、「60歳代」が23.2%の順となっている。

問3. あなたは結婚（事実婚を含む）していますか？（1つだけに○を）

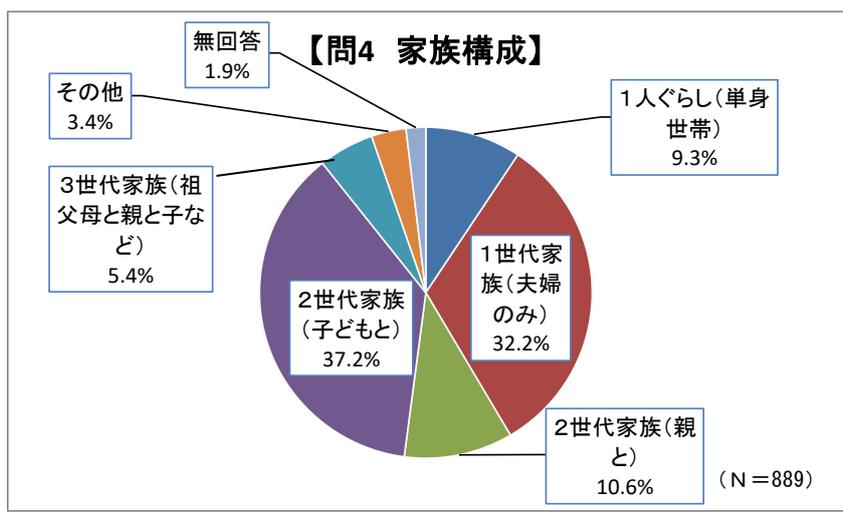


結婚については、「既婚（配偶者あり）」が73.7%と最も多い。

性別・年代別では、男女とも20歳代では、「未婚」が最も多く、30歳代以上では、「既婚（配偶者あり）」が、最も多い。すべての年代で、男性より女性の方が、「既婚（離別・死別）」が多い。



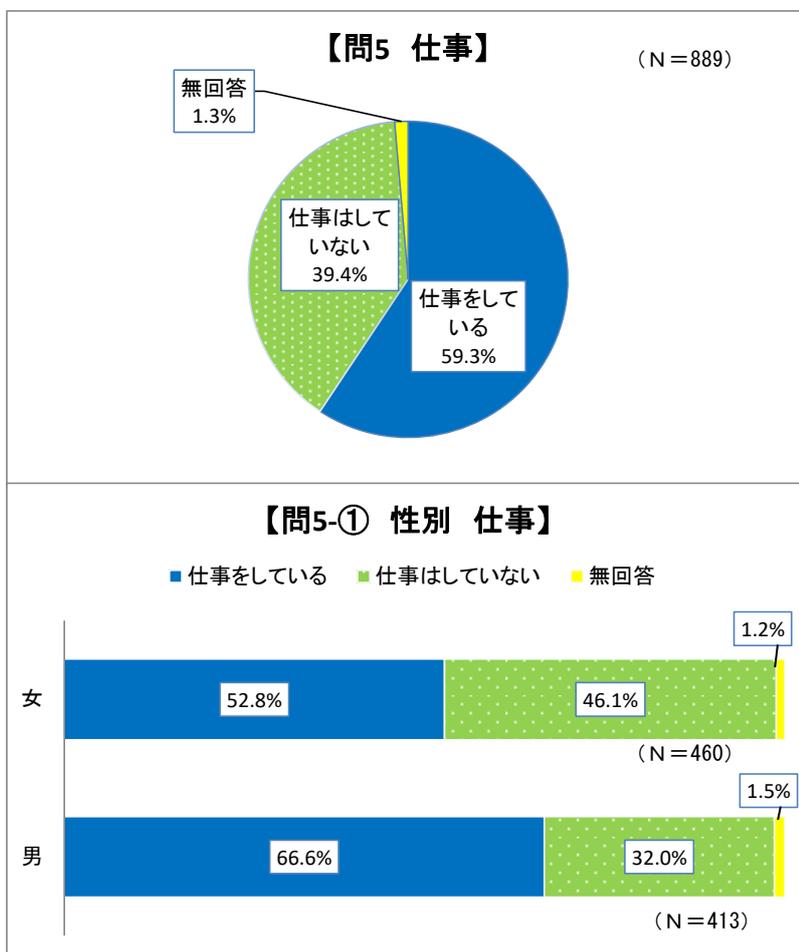
問4. あなたが現在生活しているご家庭の家族構成は？（1つだけに○を）



家族構成としては、「2世代家族（子どもと）」が37.2%と最も多く、次いで「1世代家族（夫婦のみ）」が32.2%、「2世代家族（親と）」が10.6%となっている。

2 仕事について

問5. あなたは、現在収入を得る仕事をしていますか。(1つだけに○を)

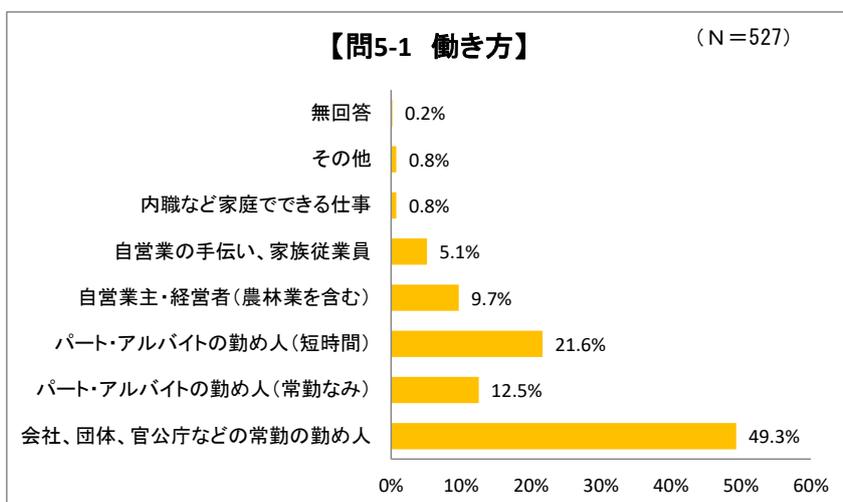


仕事については、「仕事をしている」が約6割を占める。

性別では、男女とも「仕事をしている」が最も高く、男性で66.6%、女性で52.8%となっており、次いで、「仕事をしていない」が女性で46.1%、男性で32.0%となっている。

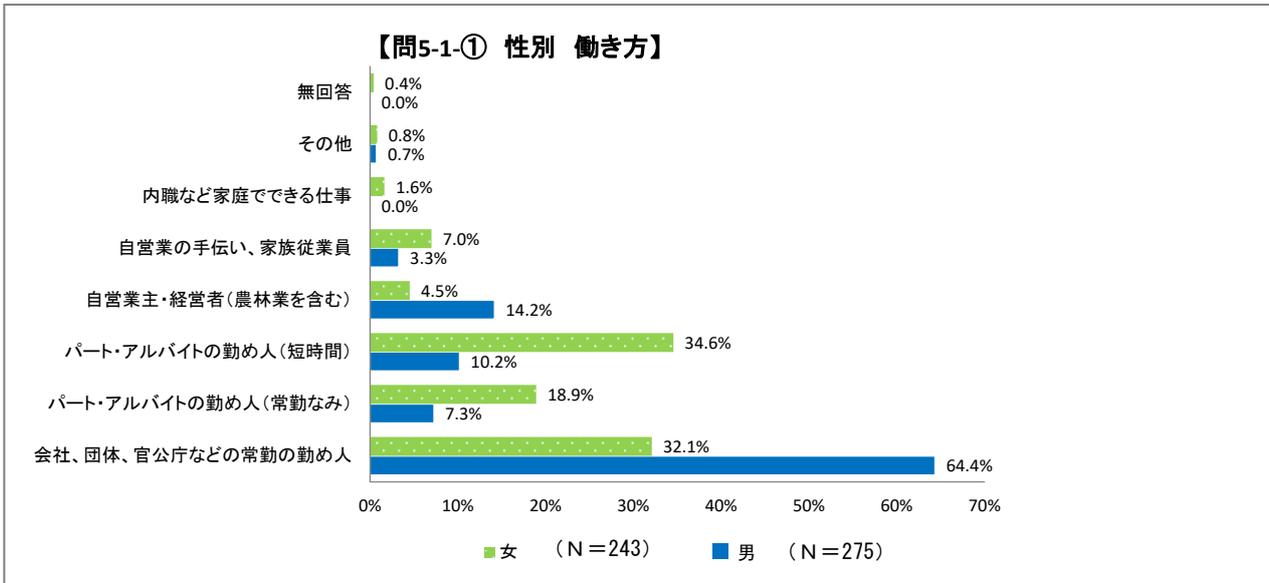
問5で仕事をしていると答えた方に伺います。

問5-1. それは、どのような働き方ですか。(1つだけに○を)



働き方については、「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が約5割を占める。

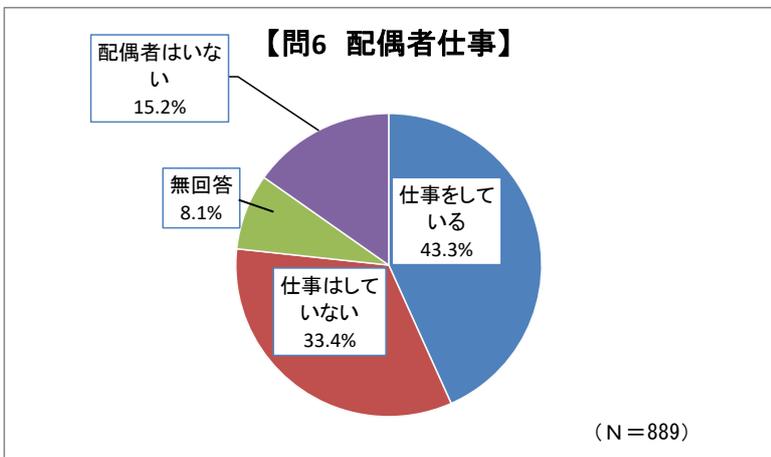
次いで、「パート・アルバイトの勤め人(短時間)」が21.6%、「パート・アルバイトの勤め人(常勤なみ)」が12.5%となっている。



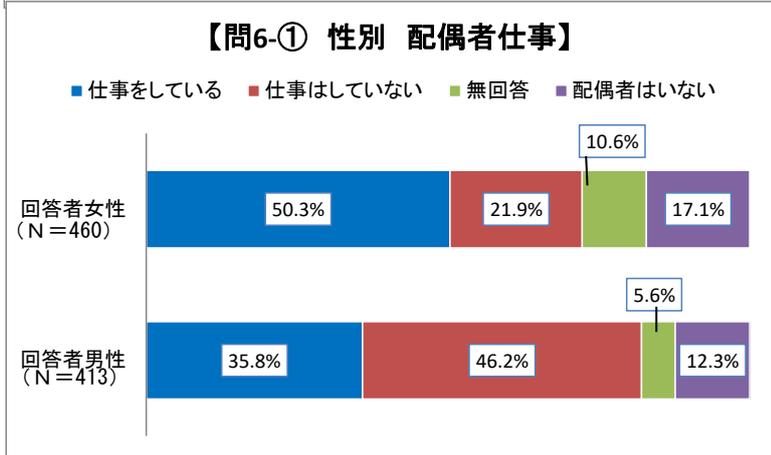
性別にみると、女性は、「パート・アルバイトの勤め人（短時間）」と「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」がそれぞれ3割を超え、次いで、「パート・アルバイトの勤め人（常勤なみ）」が18.9%となっている。男性では、「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が64.4%と最も多く、次いで、「自営業主・経営者（農林業を含む）」が14.2%となっている。

男女間で最も差が見られた回答項目は、「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」で、男性の方が女性より、32.3ポイント上回った。

問6. あなたの配偶者またはパートナーは、収入を得る仕事をしてしていますか。（1つだけに○を）



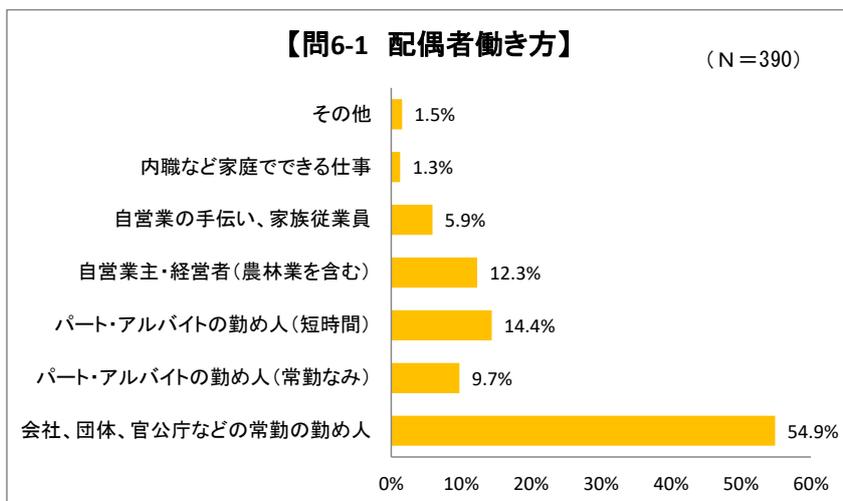
配偶者またはパートナーの仕事については、「仕事をしている」が43.3%と最も高く、次いで、「仕事はしていない」が、33.4%となっている。



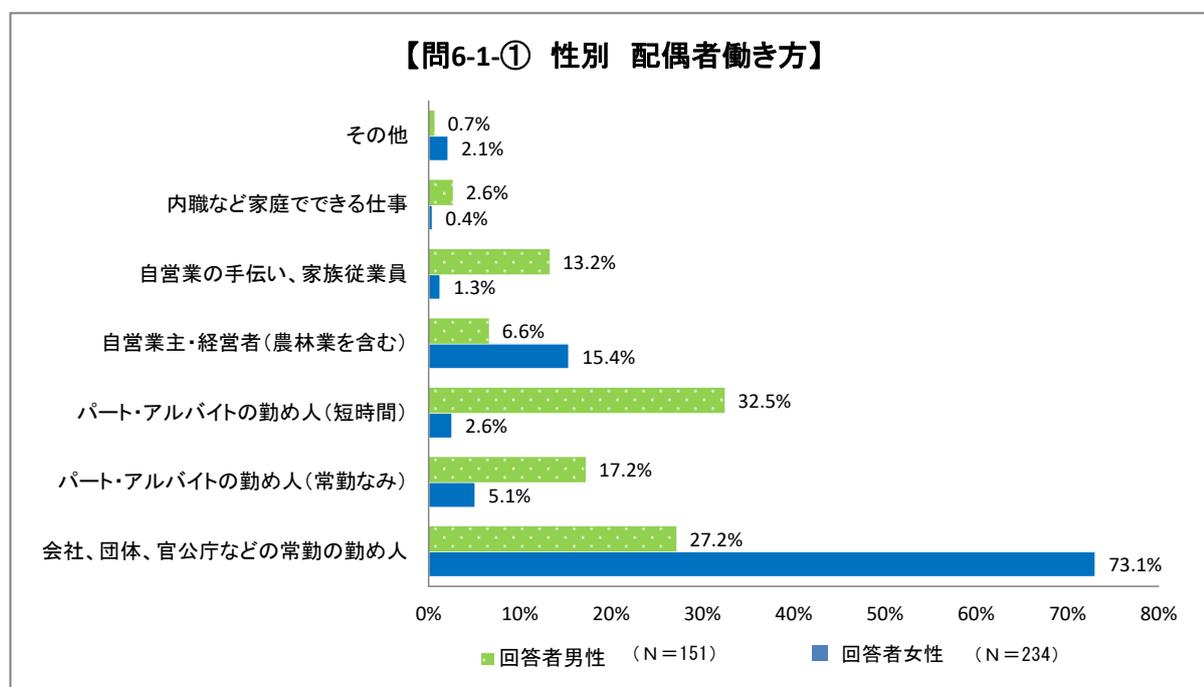
性別では、回答者が女性の場合は、配偶者は「仕事をしている」が5割を占め、回答者が男性の場合は、配偶者は「仕事をしていない」が約5割を占める。

問6で配偶者又はパートナーが仕事をしていると答えた方に伺います。

問6-1. あなたの配偶者またはパートナーの働き方は、どれですか。(1つだけに○を)



配偶者またはパートナーの働き方としては、「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が54.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイトの勤め人(短時間)」が14.4%、「自営業主・経営者(農林業を含む)」が12.3%となっている。

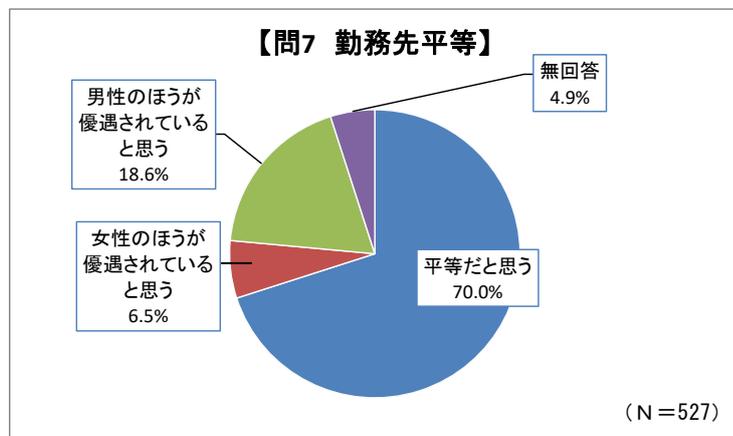


性別にみると、回答者が男性の場合は、配偶者の働き方が「パート・アルバイトの勤め人(短時間)」と「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」がそれぞれ約3割を占め、回答者が女性の場合は、配偶者の働き方が「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」が約7割を占める。

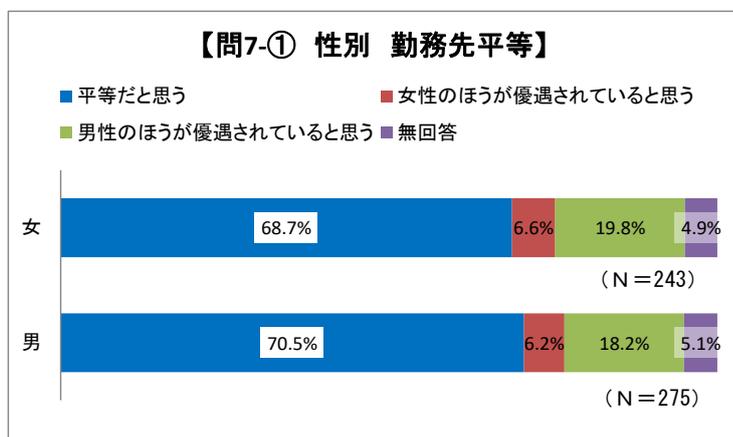
男女間で最も差が見られた回答項目は、「会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人」で、女性の配偶者の方が、男性の配偶者より、45.9ポイント上回った。

問5で仕事をしていると答えた方に伺います。

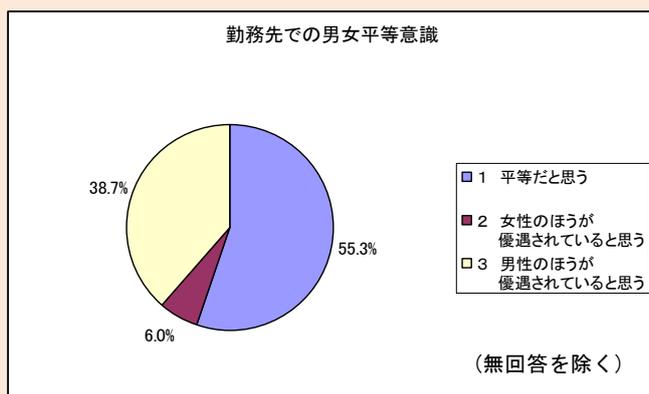
問7. あなたの現在の勤務先では、女性と男性は平等だと思いますか？（1つだけに○を）



勤務先での女性と男性は平等だと思うかについては、「平等だと思う」が7割を占め、次いで、「男性のほうが優遇されていると思う」が、18.6%となっている。



性別で見ると、男性も女性も「平等だと思う」が約7割を占め、次いで、「男性のほうが優遇されていると思う」が、約2割となっている。

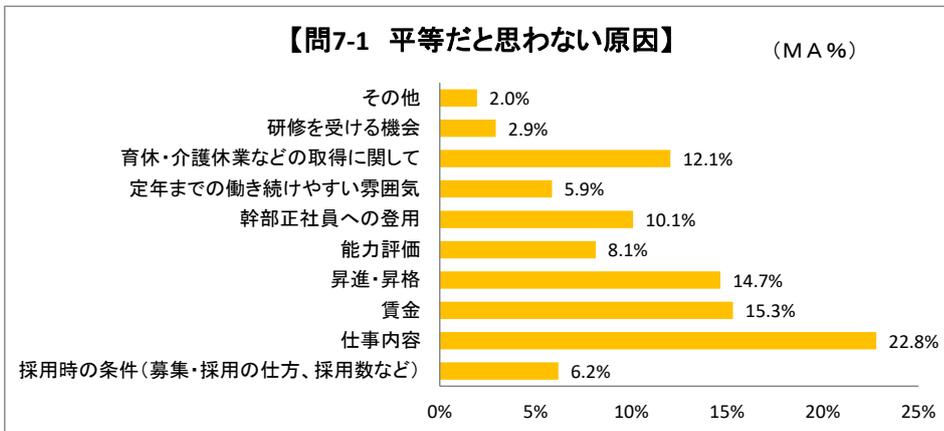


【参考】

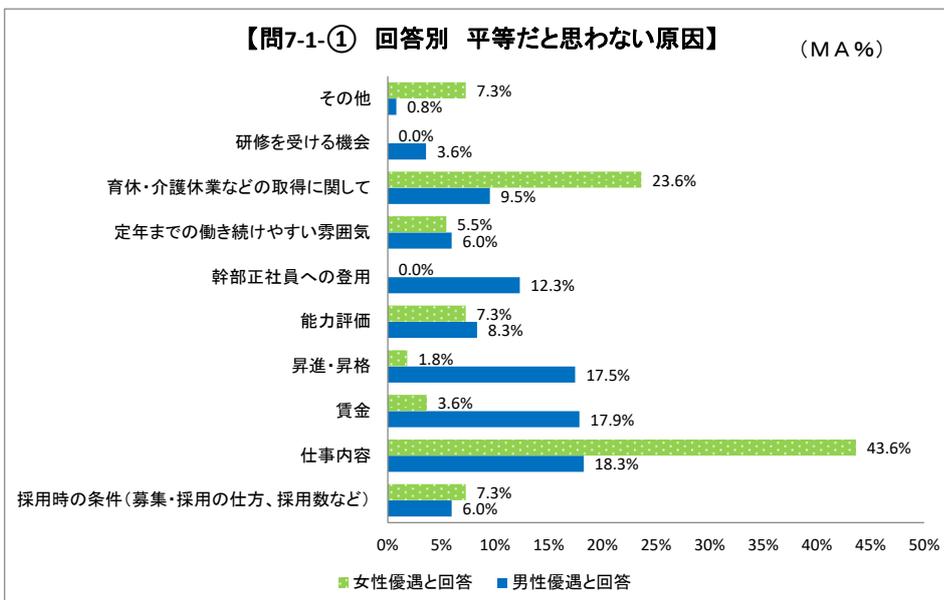
前回調査（平成22年）結果について、無回答を除いているため、左図は、参考に掲載します。

問7で女性、男性どちらかが優遇されていると思うと答えた方に伺います。

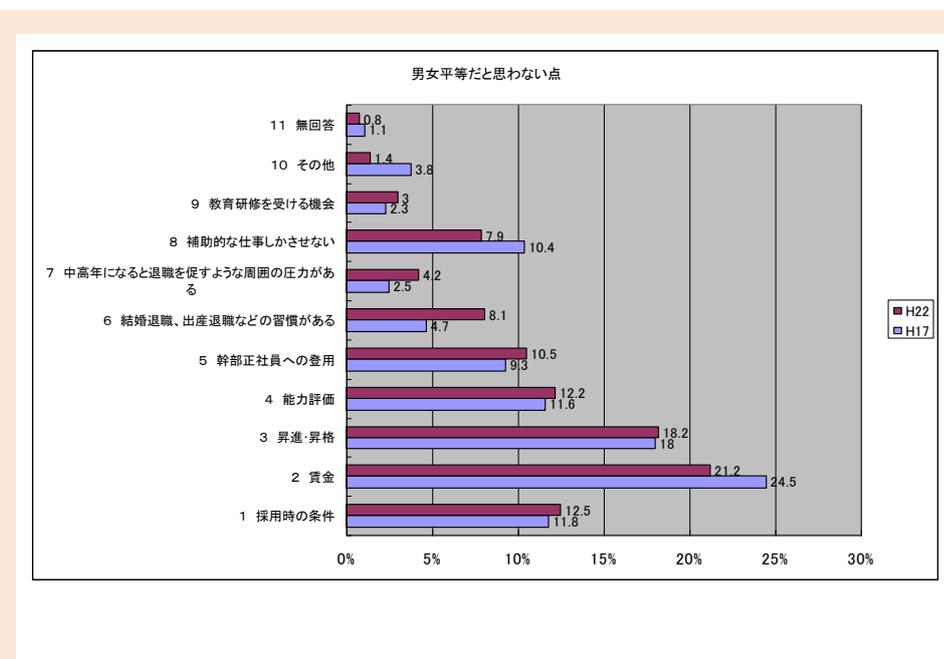
問7-1. 平等だと思わないのは、どのようなことですか？（あてはまるものすべてに○を）



平等だと思わない原因として、「仕事内容」が22.8%と最も高く、「賃金」が15.3%、「昇進・昇格」が14.7%と続く。



女性が優遇されている原因としては、「仕事内容」が43.6%と最も高く、「育休・介護休業などの取得に関して」が23.6%と続く、男性が優遇されている原因としては、「仕事内容」、「賃金」、「昇進・昇格」がそれぞれ約2割を占める。

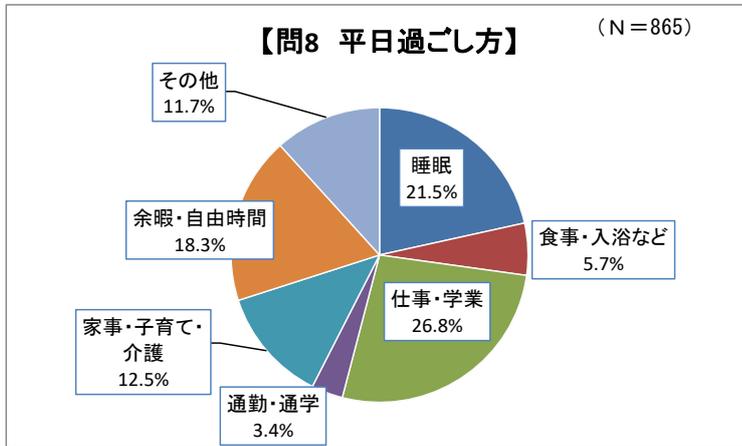


【参考】

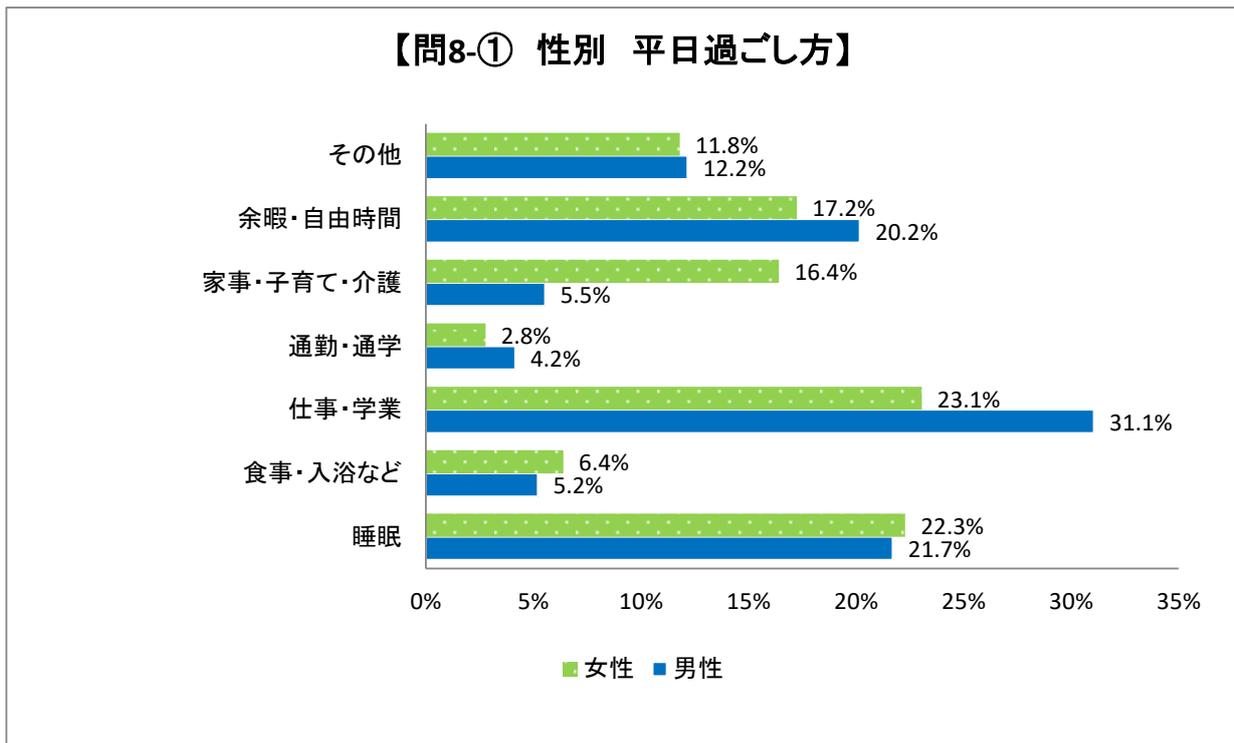
前回調査（平成22年）から、回答選択項目を一部変更したため、比較できません。左図は、参考掲載です。

3 日常生活について

問8. あなたは、普段の平日をどのように過ごしていますか。①～⑦の各項目に使うおおよその時間をご記入ください。



平日の過ごし方については、24時間計算で、各項目回答時間合計から、各項目回答者数で除した平均では、「仕事・学業」が26.8%と一番高く、次いで「睡眠」が21.5%、「余暇・自由時間」が18.3%となっている。

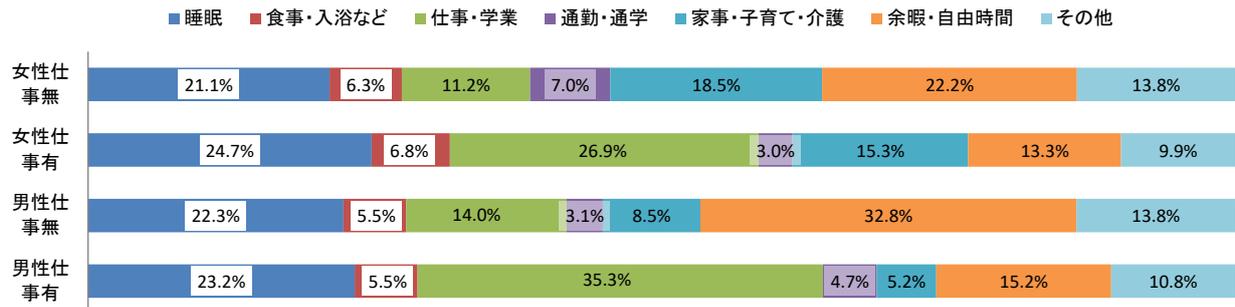


性別にみると、女性では、「仕事・学業」と「睡眠」が約2割を占め、次いで、「余暇・自由時間」、「家事・子育て・介護」となっている。

男性では、「仕事・学業」が31.1%と最も多く、次いで、「睡眠」と「余暇・自由時間」が2割を占める。

男女間で最も差が見られた回答項目は、「家事・子育て・介護」で、女性の方が男性より10.9ポイント上回った。

【問8-1-② 性別 就業別 平日過ごし方】



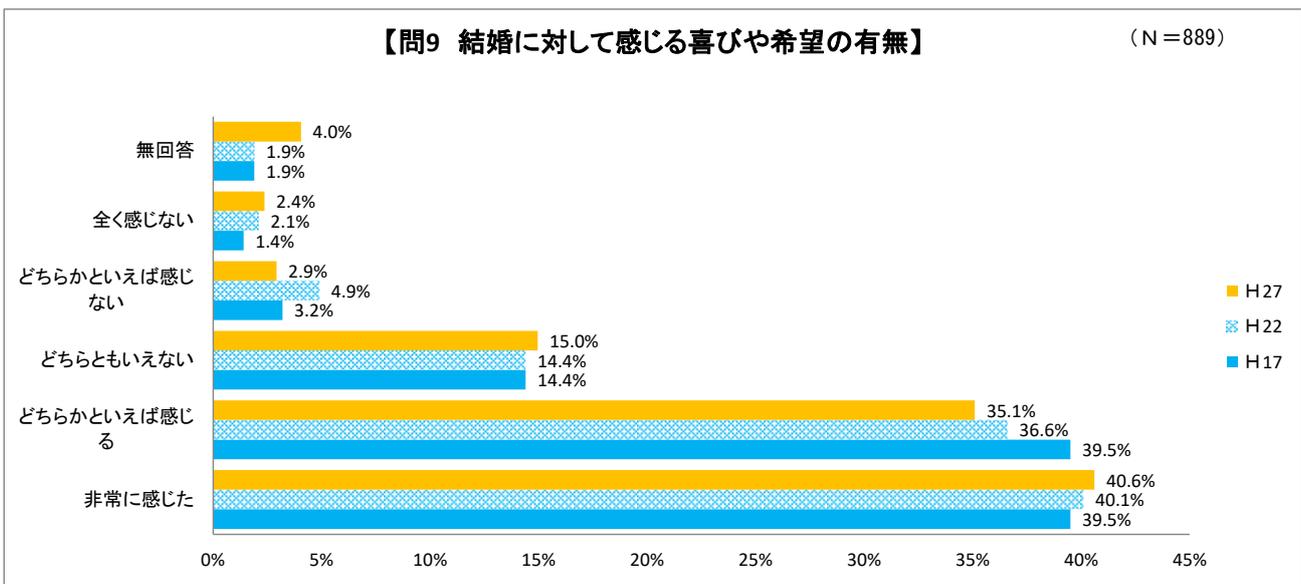
性別及び就業の有無別（学生は仕事無に含む）にみると、女性仕事無では、「余暇・自由時間」と「睡眠」が約2割を占めている。

女性仕事有では、「仕事・学業」が26.9%と一番高く、「睡眠」24.7%と続く。

男性仕事無では、「余暇・自由時間」が約3割を占め、次いで「睡眠」が22.3%となっている。

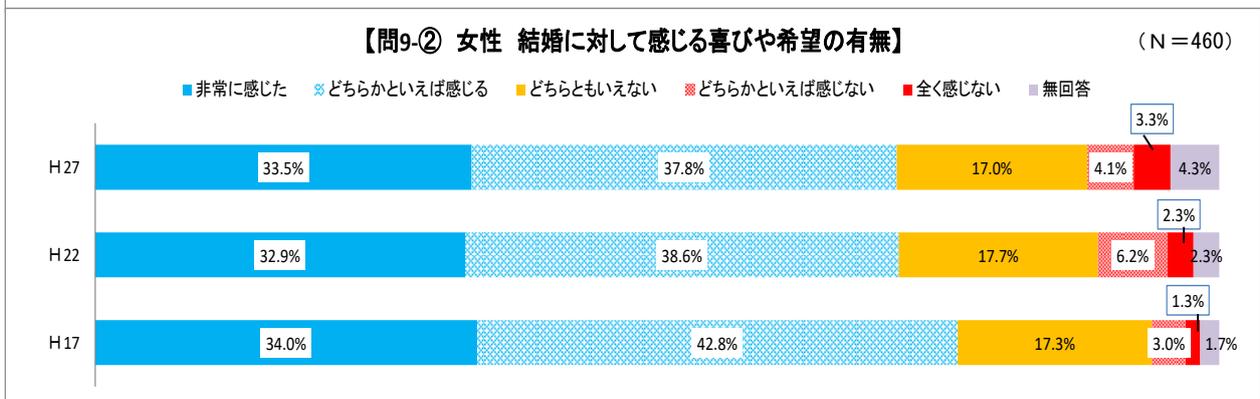
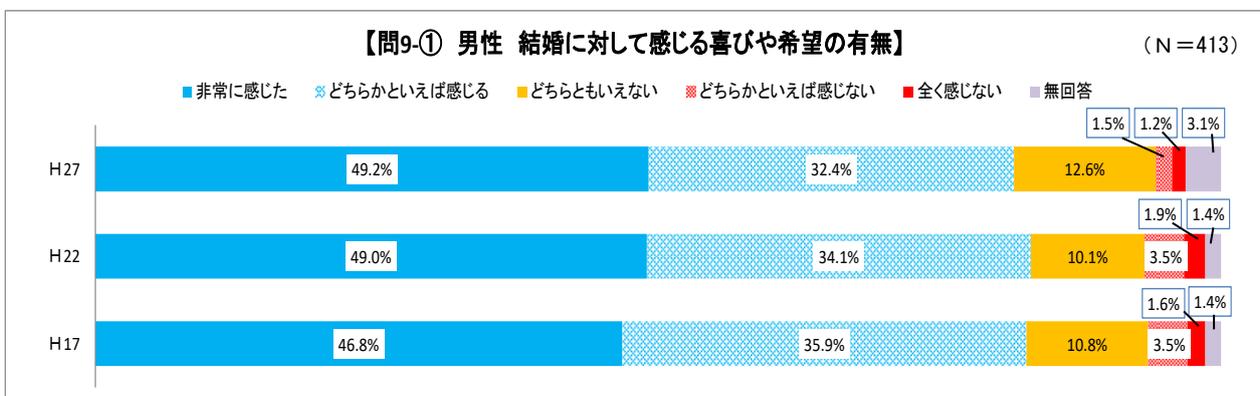
男性仕事有では、「仕事・学業」が35.3%と最も多く、「睡眠」が23.2%と続く。

問9. あなたは、結婚に対して喜びや希望を感じますか（結婚されている方は、結婚したときに喜びや希望を感じましたか）？（1つだけに○を）



結婚に対して喜びや希望を感じる（感じた）人は、前回、前々回調査結果と同じ約8割を占める。

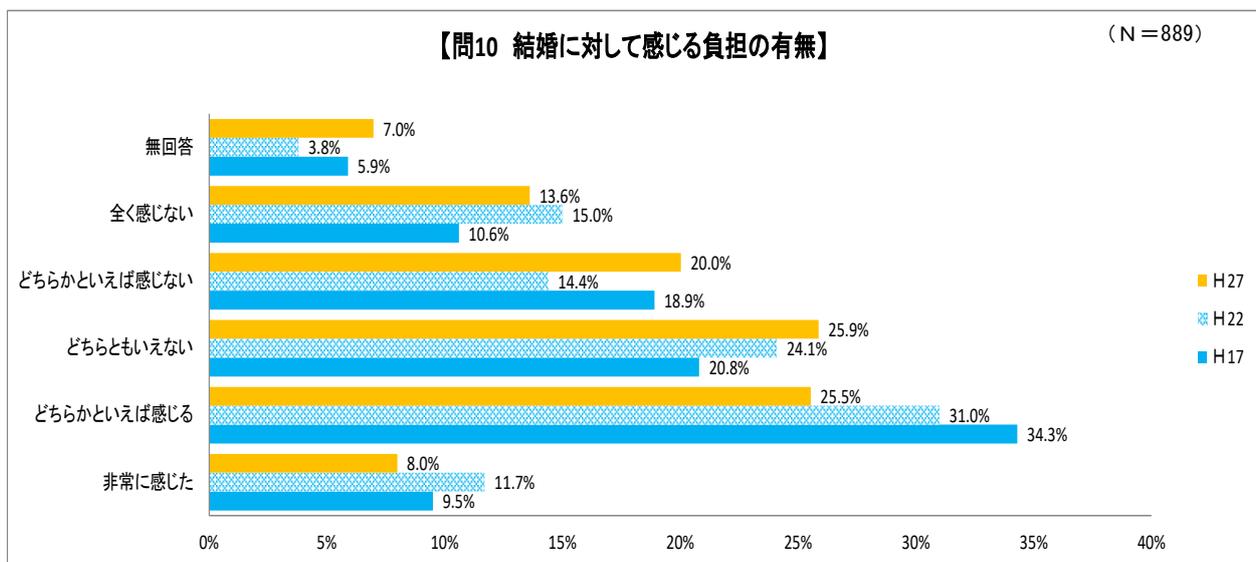
「非常に感じた」が40.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば感じる」が35.1%となっている。「非常に感じる」、「どちらかといえば感じる」をあわせた『結婚に関して喜びや希望を感じる』人は76.1%、一方「全く感じない」、「どちらかといえば感じない」をあわせた『結婚に関して負担を感じていない』人は5.3%となっている。



前回、前々回調査結果とほぼ同じ結果となっている。

「非常に感じる」「どちらかといえば感じる」をあわせ、女性では約7割を占め、男性では約8割を占める。

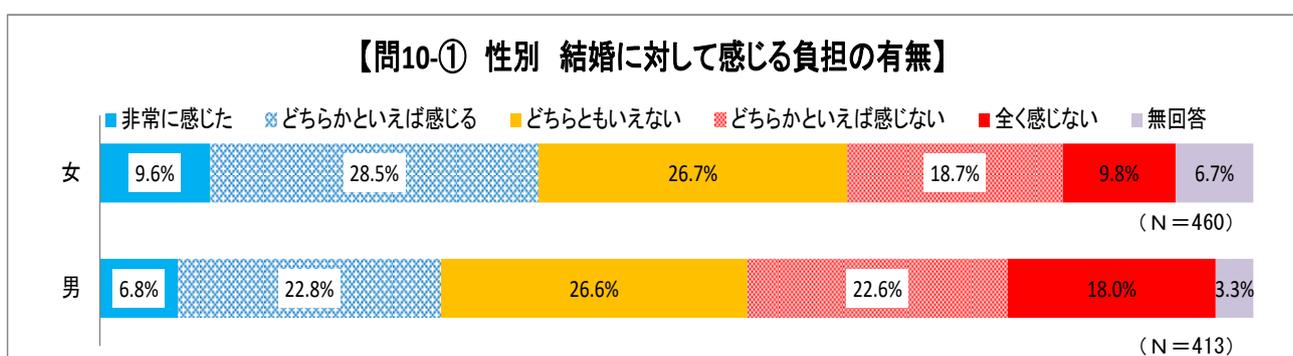
問10. あなたは、結婚に対して負担を感じますか（結婚されている方は、負担を感じていますか）？（1つだけに○を）



「どちらともいえない」が25.9%、「どちらかといえば感じる」が25.5%、「どちらかといえば感じない」が20.0%の順で多い。

結婚に対して感じる負担については、約3割の人が何らかの負担を感じ、ほぼ同率の約3割が負担を感じていない。

「非常に感じる」、「どちらかといえば感じる」をあわせた『結婚に関して負担を感じている』人は33.5%、一方「全く感じない」、「どちらかといえば感じない」をあわせた『結婚に関して負担を感じていない』人は33.6%となっている。



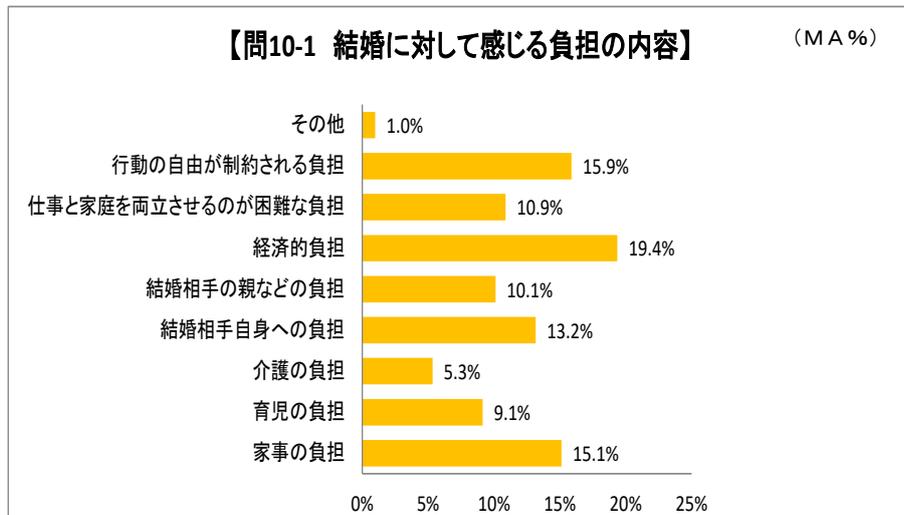
性別にみると、女性では、「どちらかといえば感じる」が28.5%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が26.7%となっている。

男性では、「どちらともいえない」が25.7%と最も高く、次いで、「どちらかといえば感じる」が22.0%となっている。

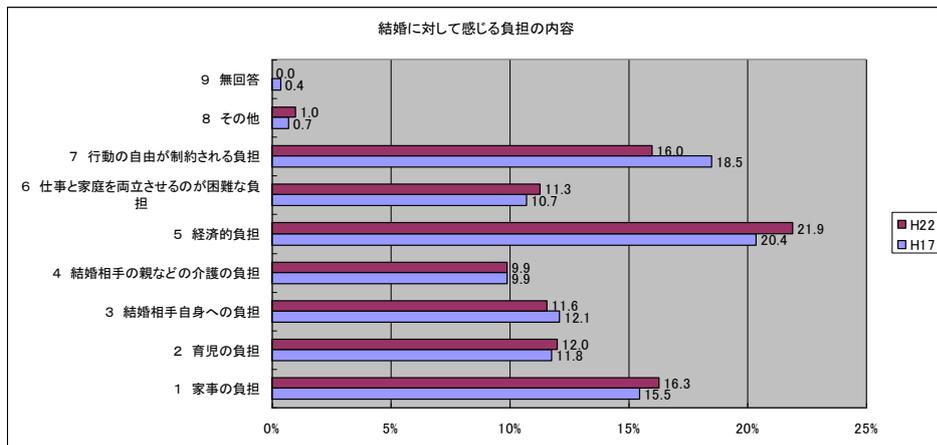
男女間で最も差が見られた回答項目は、「全く感じない」で、男性の方が女性より、8.2ポイント上回った。

問10で「1非常に感じる」「2どちらかといえば感じる」と答えた方に伺います。

問10. あなたは、結婚に対して負担を感じますか（結婚されている方は、負担を感じていますか）？（1つだけに○を）



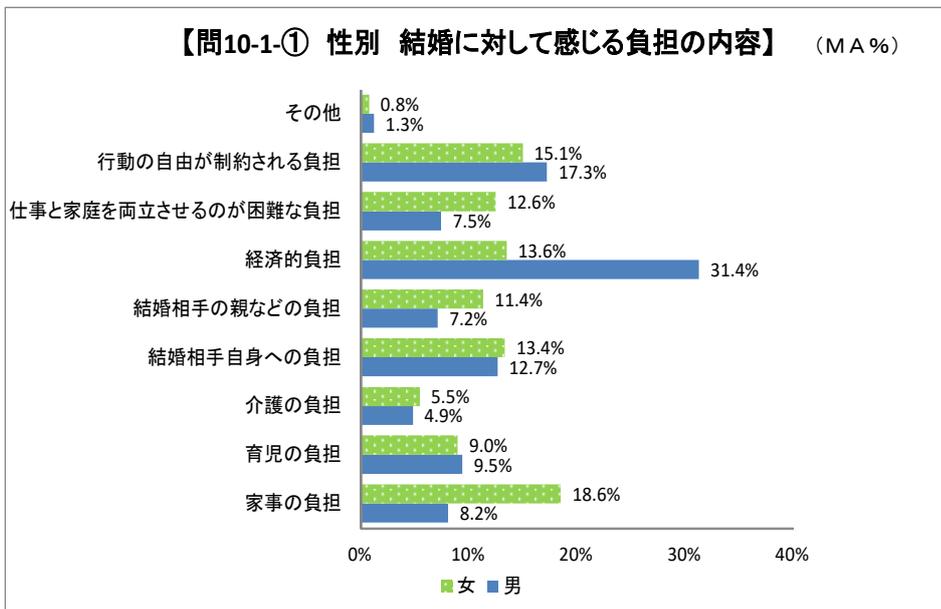
負担の内容としては、「経済的負担」が19.4%と最も高く、次いで、「行動が制約される負担」15.9%、「家事の負担」15.1%となっている。



【参考】

前回調査（平成22年）から、回答選択項目の内容を変更したため、比較できません。

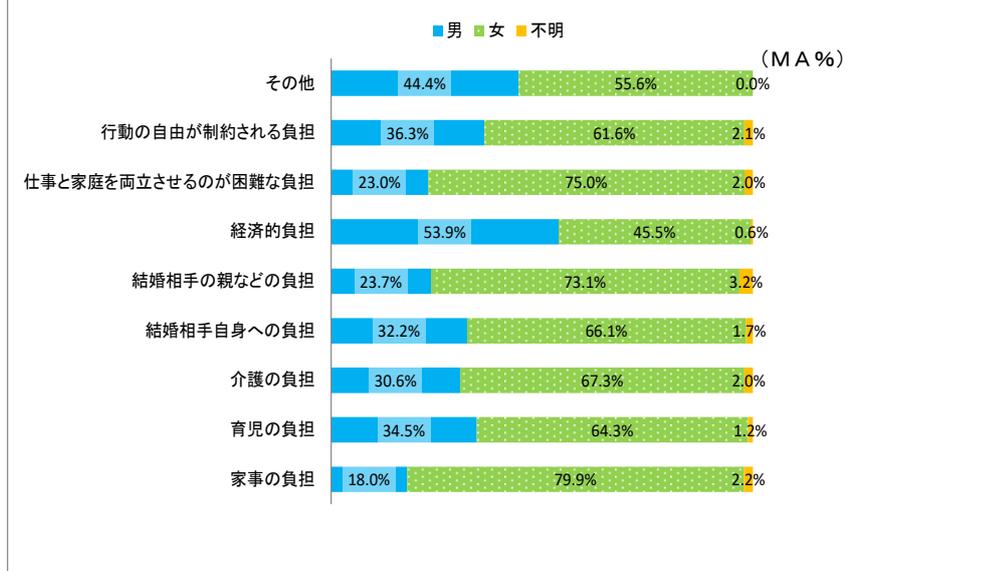
左図は、参考掲載です。



性別にみると、女性では、「家事の負担」が18.6%と最も高く、次いで、「行動が制約される負担」が15.1%となっている。

男性では、「経済的負担」が31.4%と最も高く、「行動の自由が制約される負担」が17.3%と続く。

【問10-1-②】性別割合 結婚に対して感じる負担の有無



負担の項目の回答者の性別割合では、男性では、「経済的負担」の率が最も高く、「その他」が続く。

女性では、「家事の負担」の率が最も高く、次いで「仕事と家庭を両立させるのが困難な負担」となっている。

結婚している方（事実婚含む）に伺います。

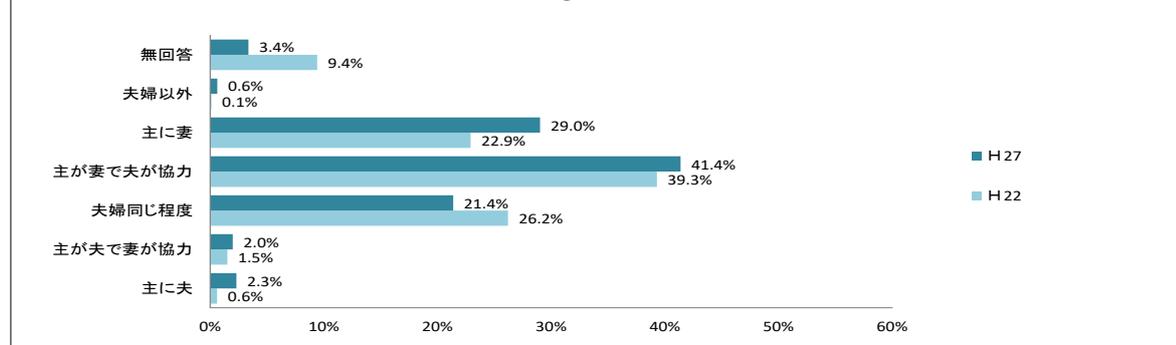
問 11. 家庭に関する男女の役割についておたずねします。

(1) あなたは、男女の役割はどのように分担するのがよいと思いますか？（①～⑨のそれぞれについて、1つだけに○を）

(2) それでは実際、あなたの家庭ではどのように分担していますか？（①～⑨のそれぞれについて、1つだけに○を）

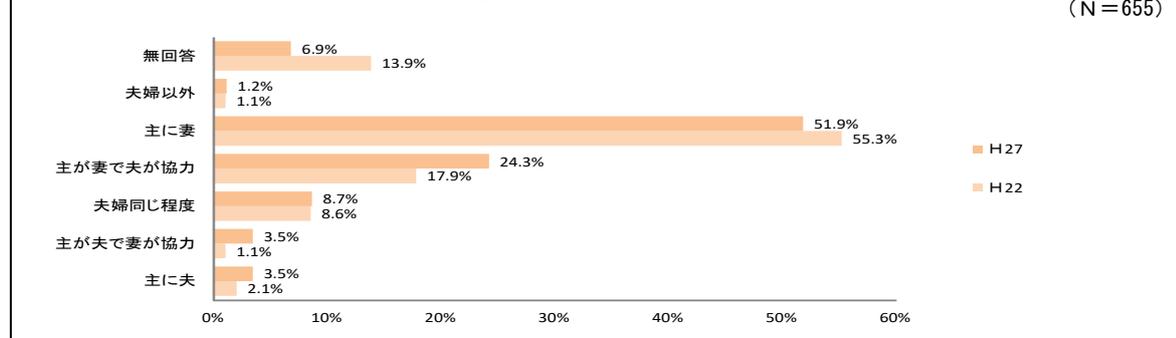
【問11 ①掃除(理想)】

(N=655)

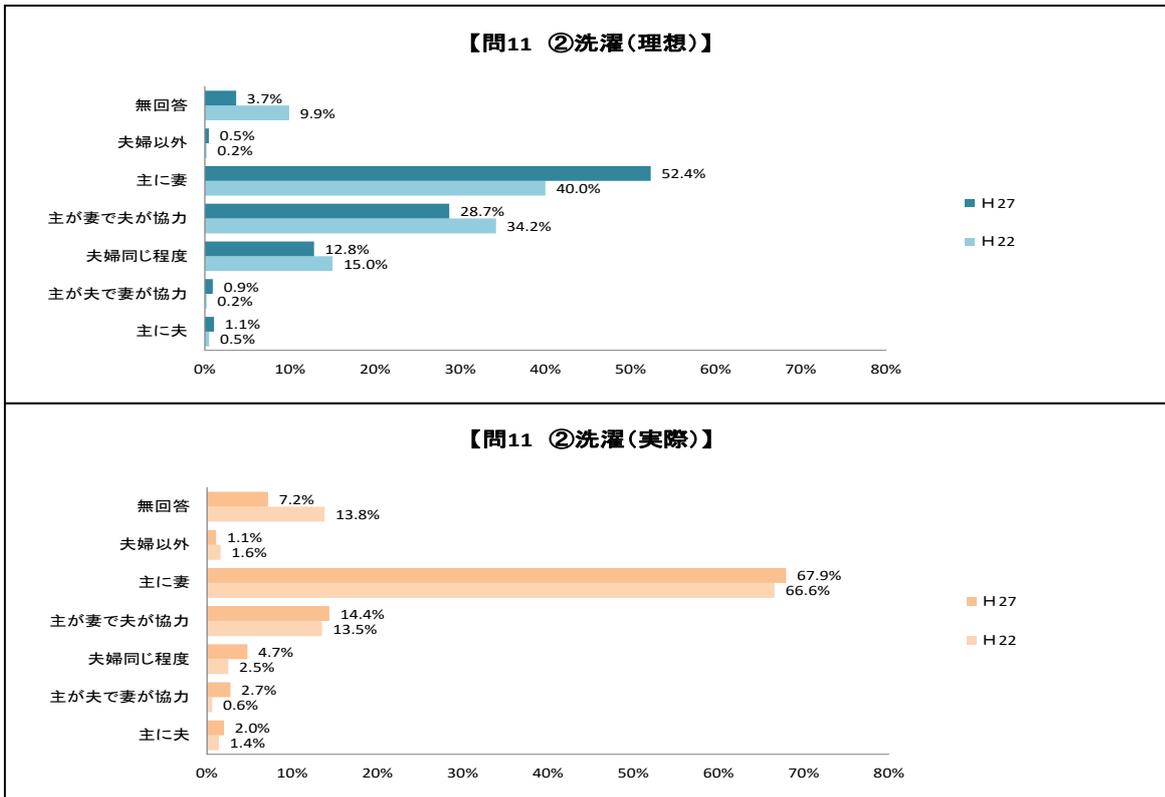


【問11 ①掃除(実際)】

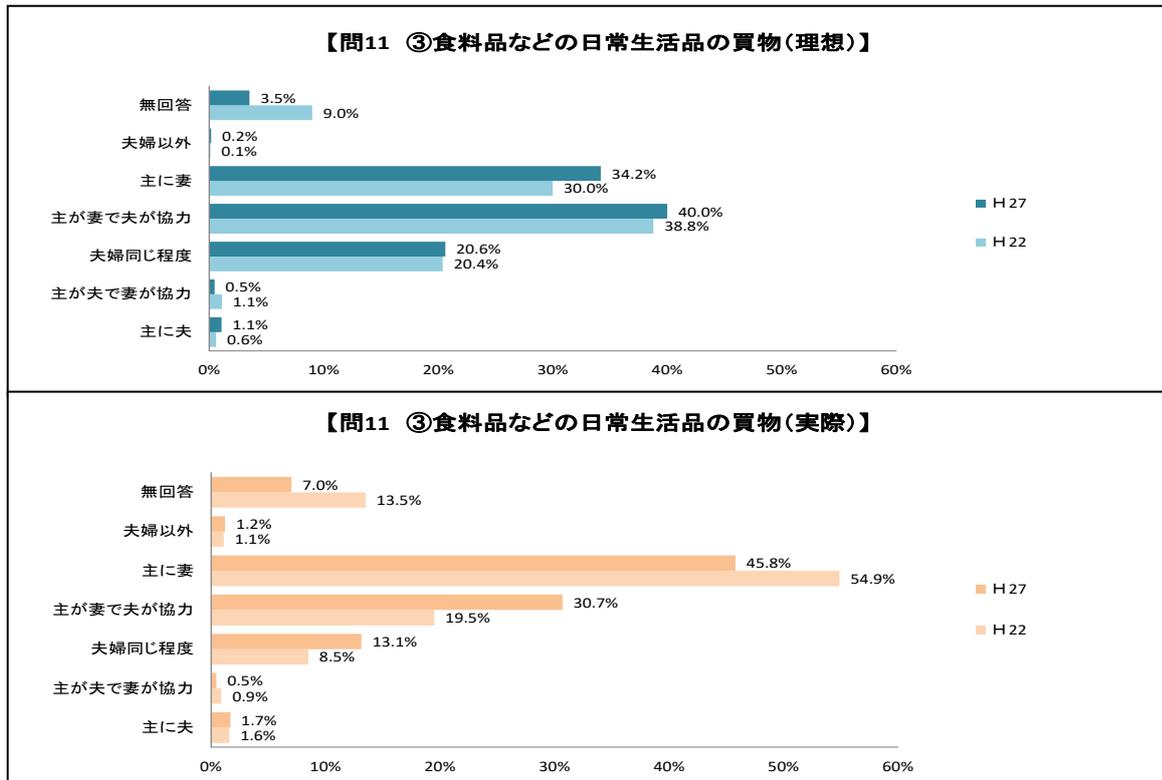
(N=655)



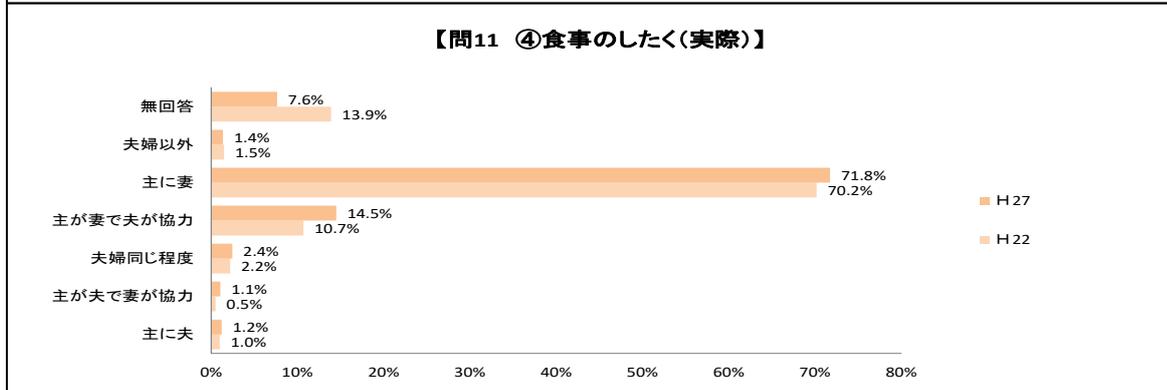
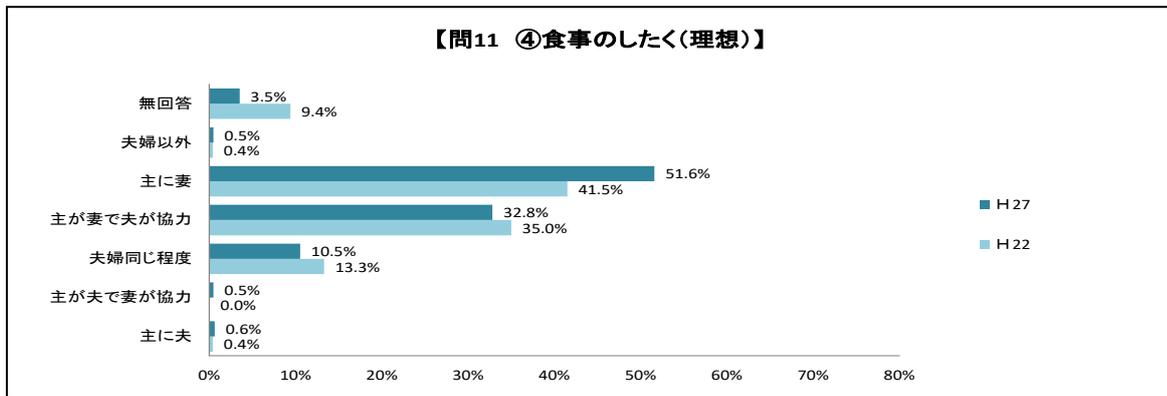
①掃除では、「主が妻で夫が協力」を（理想）とする方が最も多い。（実際）は、「主に妻」が最も多い。前回調査（平成22年）との差が最も大きいのは（無回答除く）、「主が妻で夫が協力」で、6.4ポイント増えている。



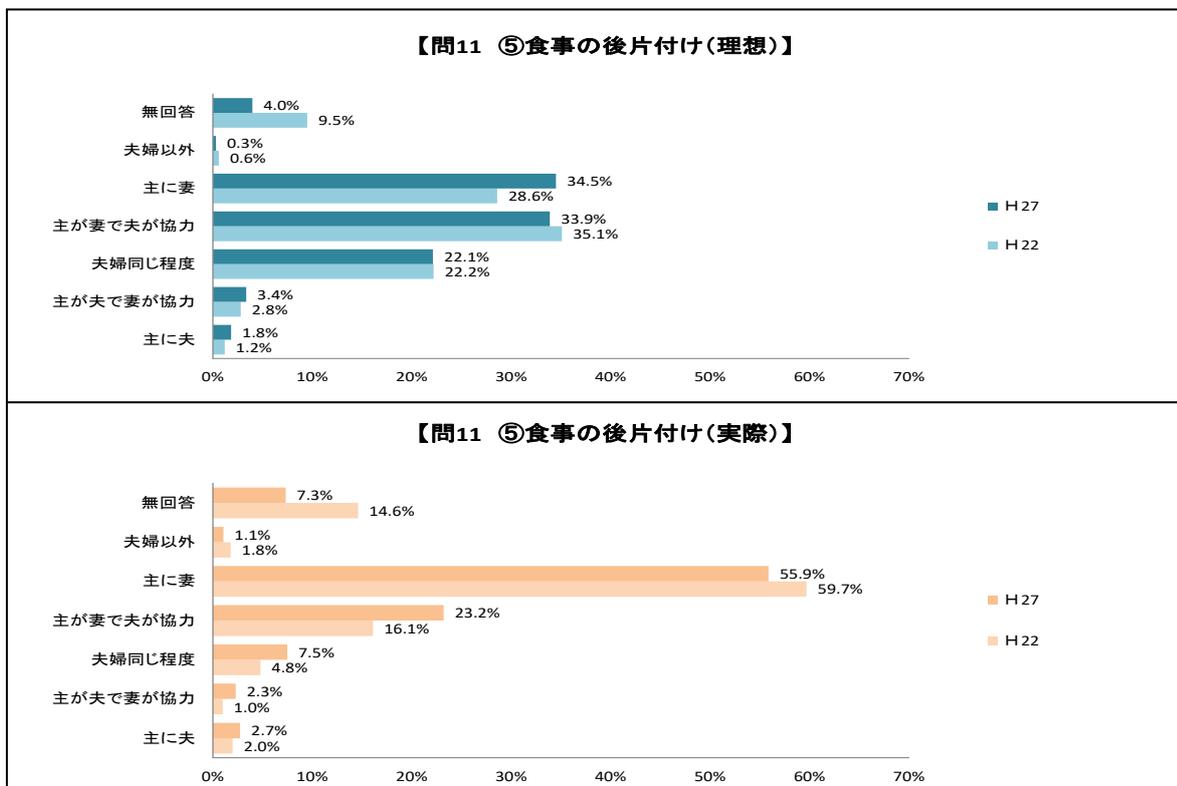
②洗濯では、「主に妻」を（理想）とする方が最も多く、（実際）も、「主に妻」が最も多い。



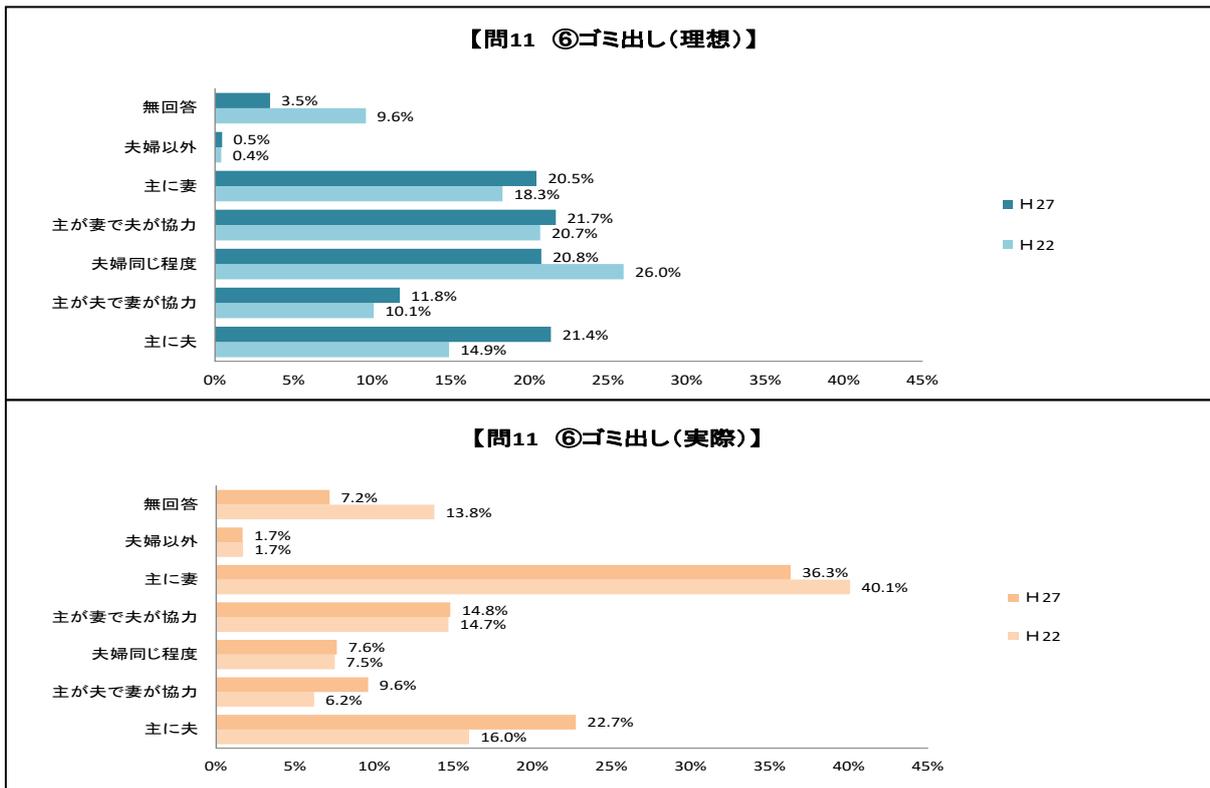
③食料品などの日常生活品の買物では、「主に妻で夫が協力」を（理想）とする方が最も多く、（実際）は、「主に妻」が最も多い。（実際）の前回調査（平成22年）との差が最も大きいのは「主が妻で夫が協力」で、11.2ポイント増えている。



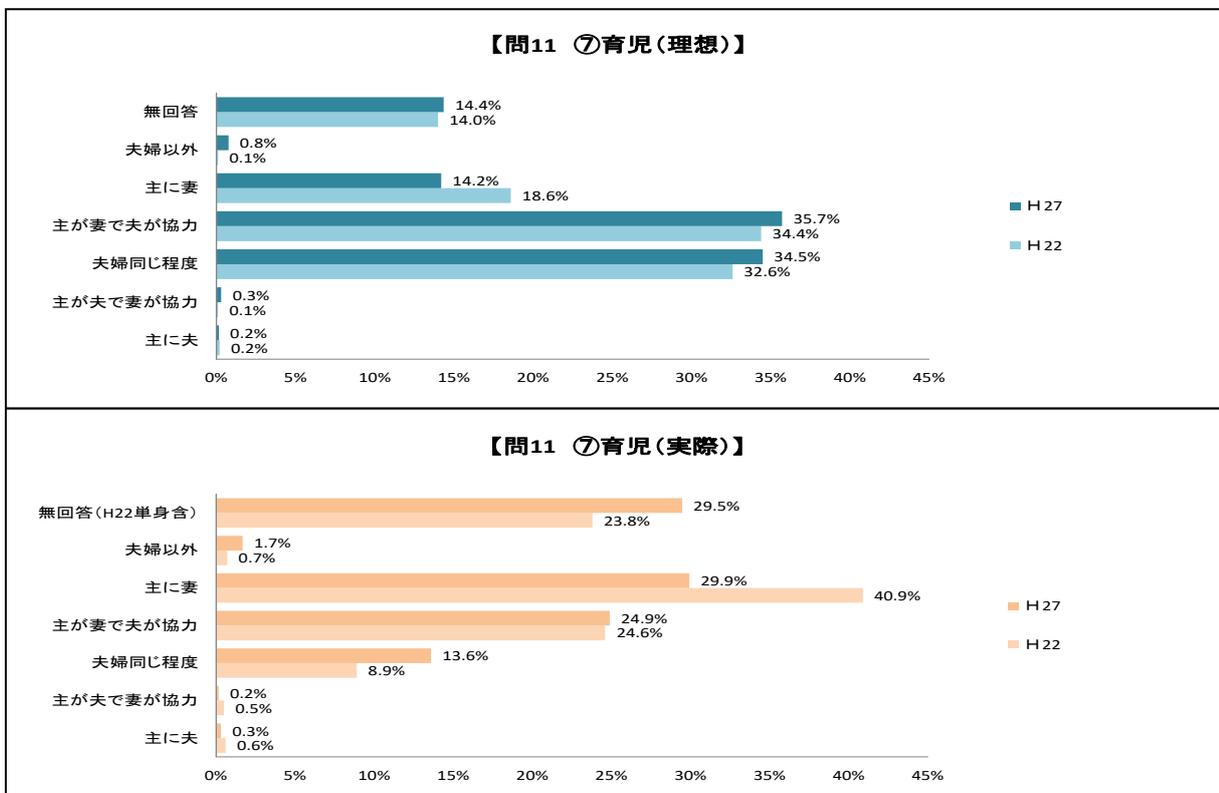
④食事のしたくでは、「主に妻」を（理想）とする方が最も多く、（実際）も「主に妻」が最も多い。前回調査との差が最も大きいのは、「主が妻で夫が協力」で、3.8ポイント増えた。



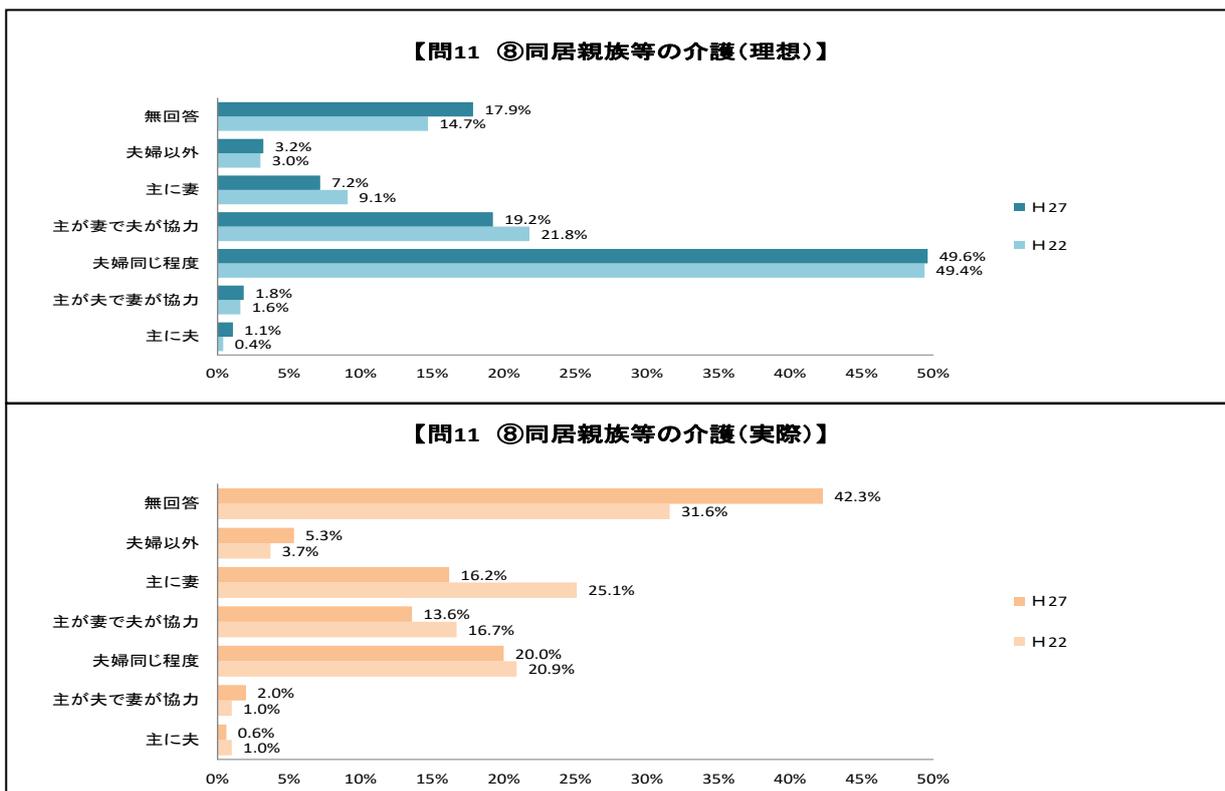
⑤食事の後片付け（理想）では、前回調査（平成22年）では、「主が妻で夫が協力」が最も高く、今回調査では、「主に妻」が最も高い。（実際）は、前回同様「主に妻」が最も高く、前回調査との差が最も大きいのは（無回答除く）、「主が妻で夫が協力」で、7.1ポイント増えている。



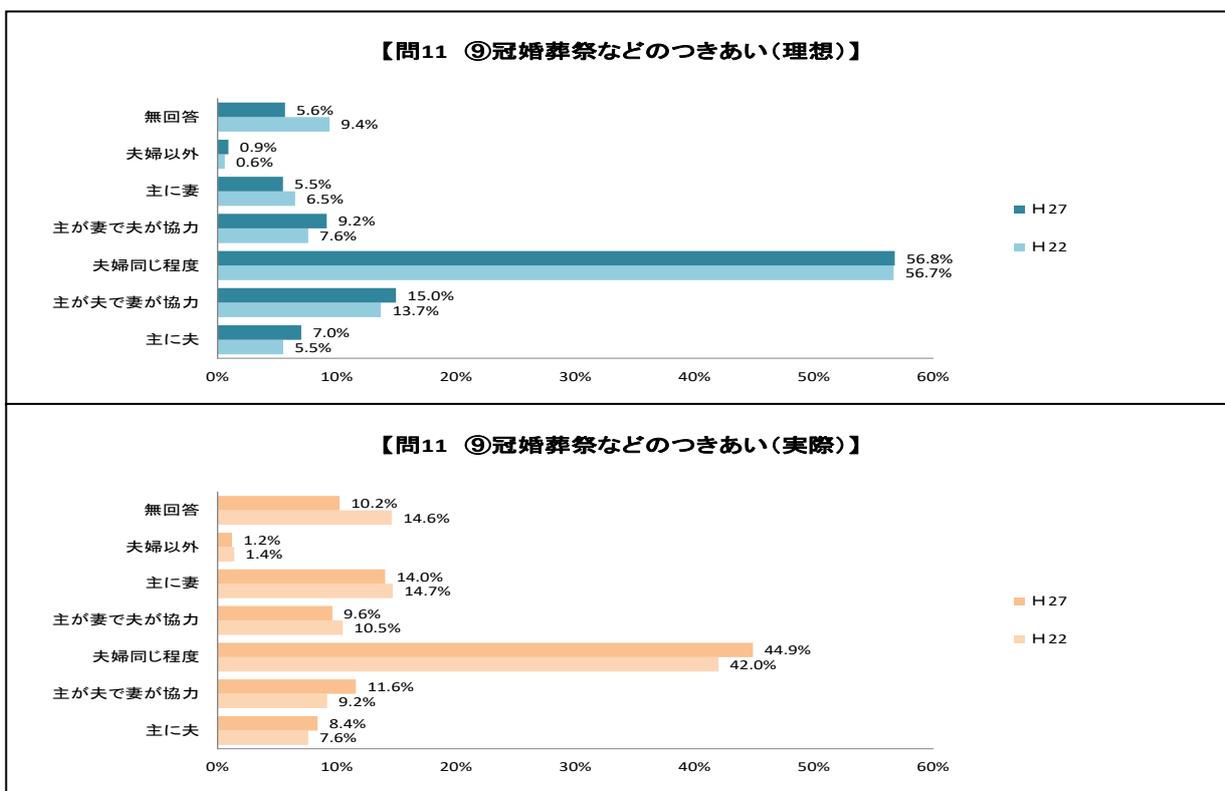
⑥ゴミ出しでは、前回調査（平成 22 年）では、「夫婦が同じ程度」が最も高く、今回調査では、「主が妻で夫が協力」が最も高い。（実際）は、前回同様「主に妻」が最も高く、前回調査との差が最も大きいのは、「主に夫」で、6.7 ポイント増えている。



⑦育児では、「主が妻で夫が協力」を（理想）とする方が最も多く、（実際）は、「主に妻」が最も多く、前回調査との差が最も大きいのは、「主に妻」で、11 ポイント減っている。



⑧同居親族等の介護では、「夫婦同じ程度」を（理想）とする方が最も多く、（実際）は、「主に妻」が最も多い（無回答除く）、前回調査との差が最も大きい（無回答除く）のは、「主に妻」で、8.9ポイント減っている。



⑨冠婚葬祭などのつきあいでは、「夫婦同じ程度」を（理想）とする方が最も多く、（実際）も、「夫婦同じ程度」が最も多い、前回調査との差が最も大きいのは、「夫婦同じ程度」で、2.9ポイント増えている。

理想では、「洗濯」「食事のしたく」「食事の後片付け」の項目で、「主に妻」が最も多く、「同居親族等の介護」の項目で、「夫婦同じ程度」が最も多い、その他の項目では、「主が妻で夫が協力」が最も多くなっている。

実際では、無回答を除くと、「同居親族等の介護」の項目で「夫婦同じ程度」が最も多いが、その他の全ての項目では、「主に妻」が最も多い。

前回調査と比較し、「主に妻で夫が協力」や「主に夫」のポイントが増え、「主が妻」のポイントが減っていることがみられ、夫の家庭での分担や協力が上がっていることがうかがえる。

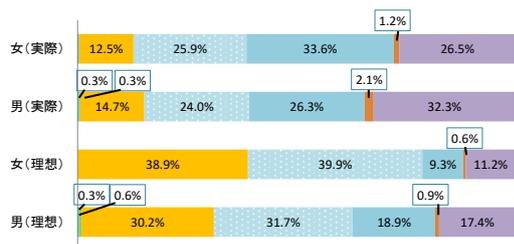
回答者性別回答率

回答者の性別による選択項目の率を、(理想)と(実際)の順で比較した。



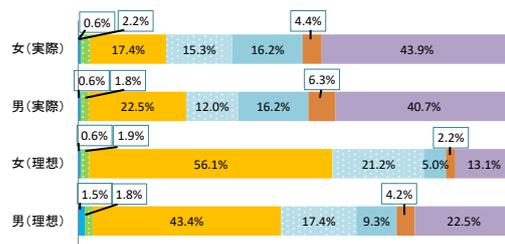
【問11-① 性別 ⑦育児】

■主に夫 ■主が夫で妻が協力 ■夫婦同じ程度 ■主が妻で夫が協力 ■主に妻 ■夫婦以外 ■無回答



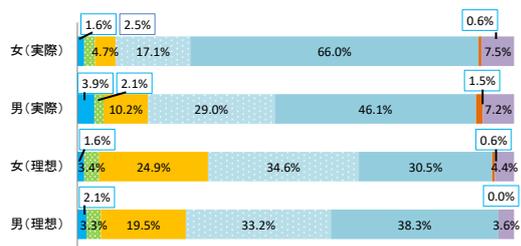
【問11-① 性別 ⑧同居の親族等の介護】

■主に夫 ■主が夫で妻が協力 ■夫婦同じ程度 ■主が妻で夫が協力 ■主に妻 ■夫婦以外 ■無回答



【問11-① 性別 ⑨冠婚葬祭などのつきあい】

■主に夫 ■主が夫で妻が協力 ■夫婦同じ程度 ■主が妻で夫が協力 ■主に妻 ■夫婦以外 ■無回答



性別にみた回答割合では、女性の方が、(理想)と(実際)の差が大きい。

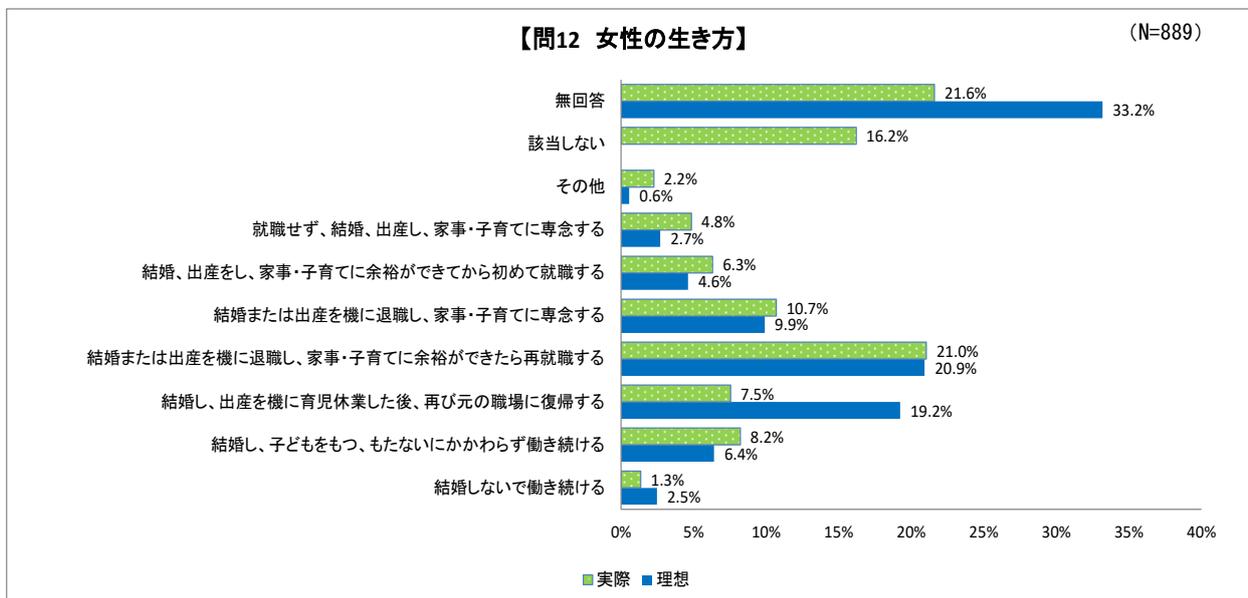
実際では、全ての質問を通じて、男性より女性の方が、「主に妻」と答える率が高く、家庭での役割の負担感が高いことがうかがえる。

問12. あなたは、女性の生き方について、

(1) どのような生き方が理想ですか。(男性もお答えください。)

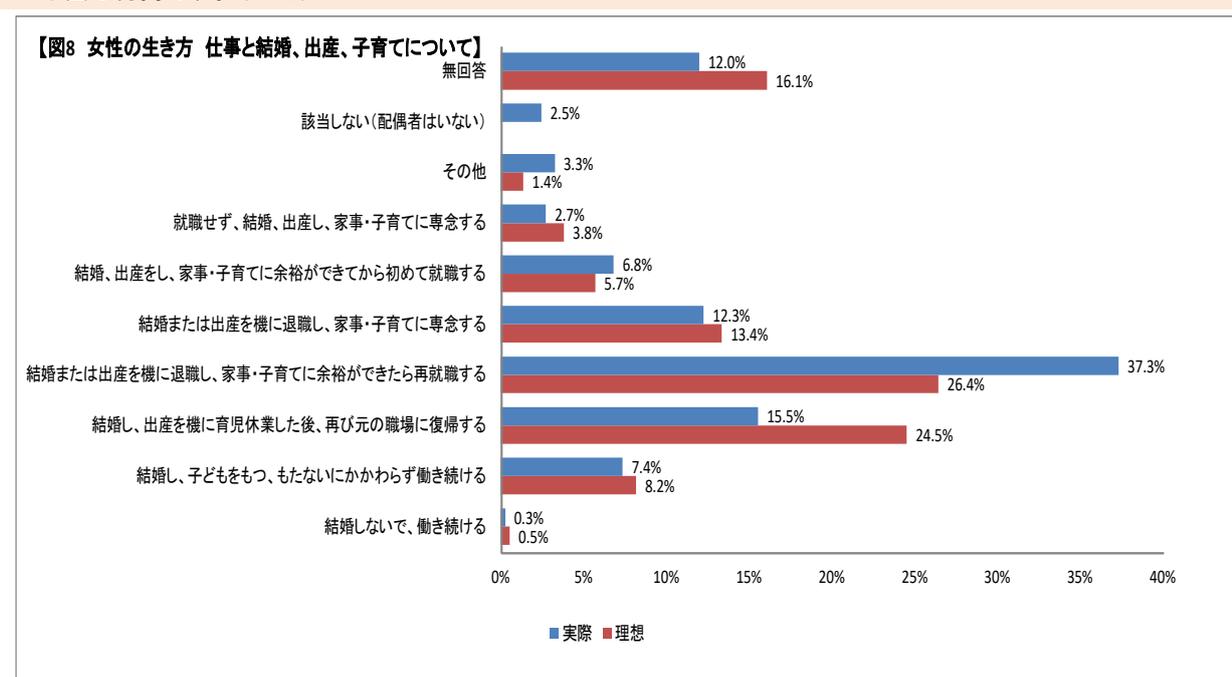
(2) あなた(女性)の実際の生き方は、次のどれにあたりますか。(男性は、あなたの配偶者についてお答えください。配偶者のおられない方は⑨を選択してください。)

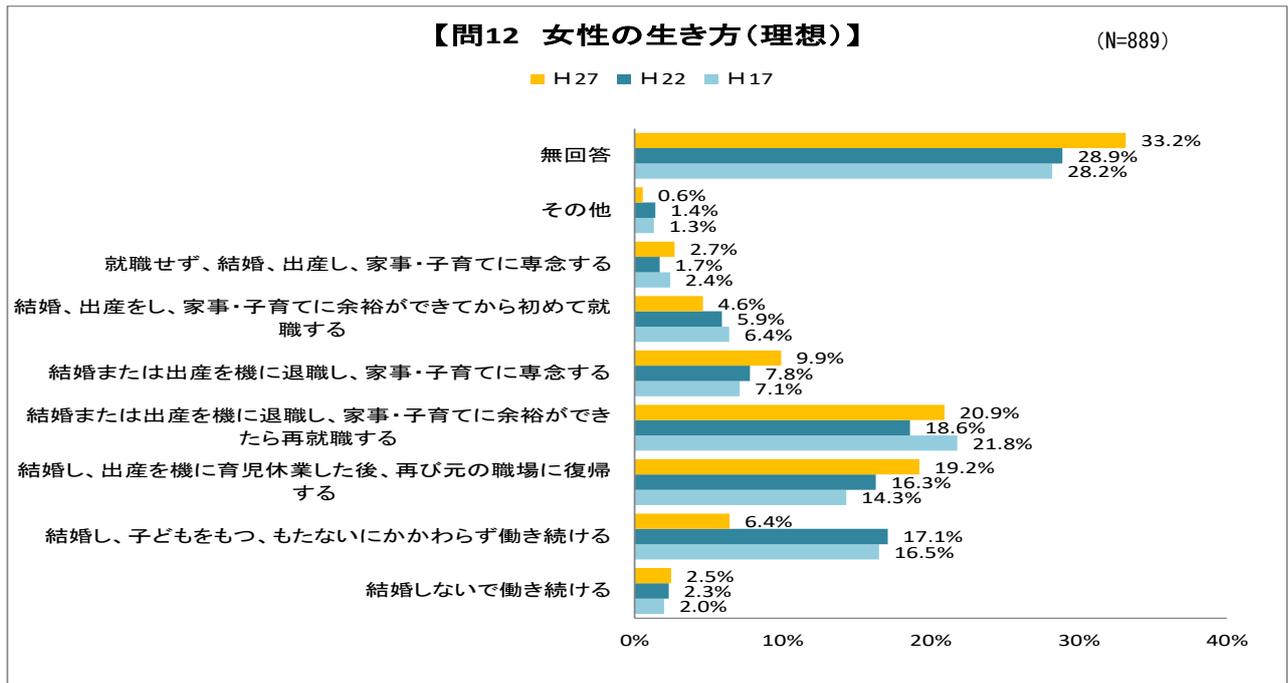
((1)(2)それぞれに○は1つずつ)



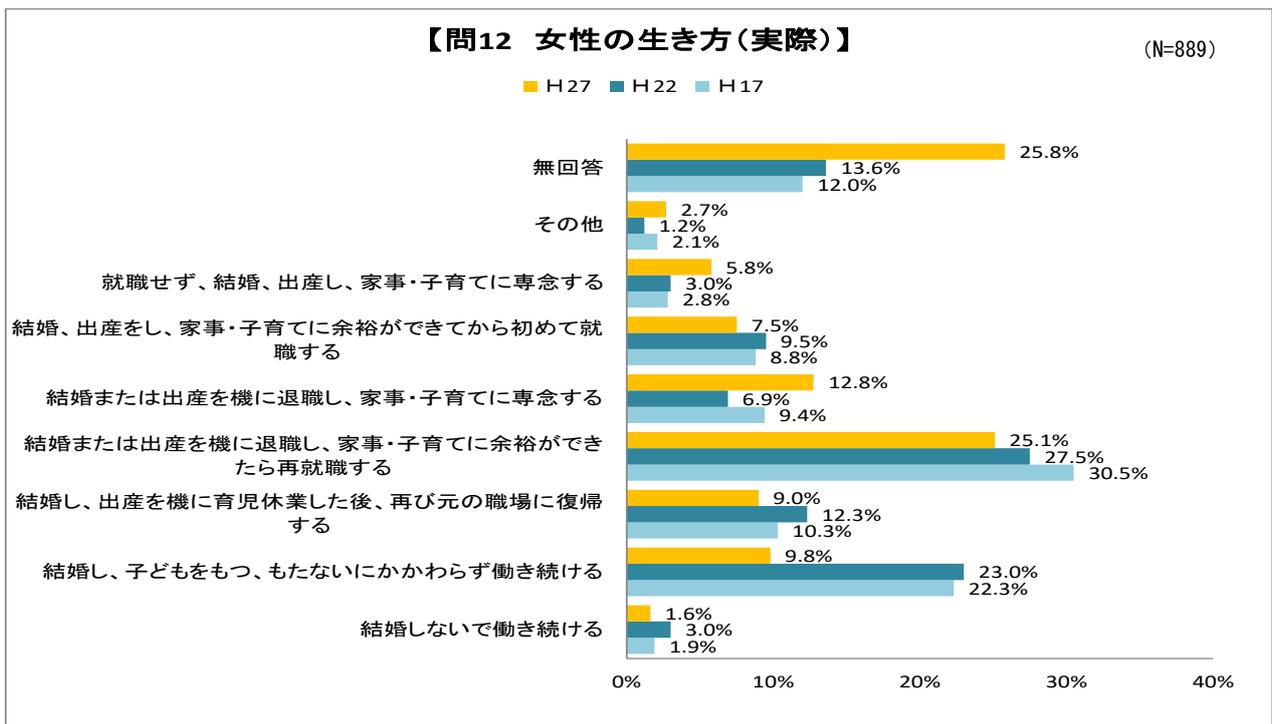
女性の生き方では、無回答を除き、理想も実際も、「結婚または出産を機に退職し、家事・子育てに余裕がきたら再就職する」が最も高い。次いで理想では、「結婚し、出産を機に育児休業した後、再び元の職場に復帰する」が19.2%、実際では、「結婚または出産を機に退職し、家事・子育てに専念する」が10.7%となっている。

【参考】女性の生き方理想と実際について、子育て世帯を対象にも、質問をしています。子育て世帯の結果下図は再掲です。(P59)





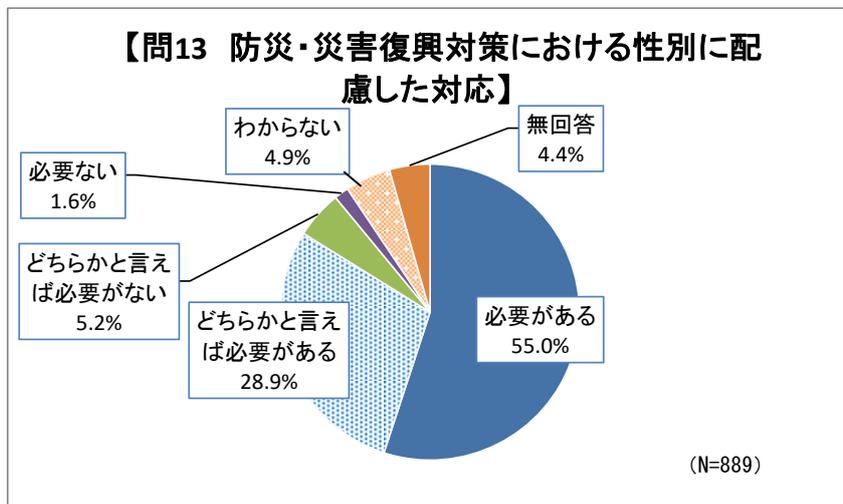
(理想)では、前回、前々回と比較し、「結婚し、子どもをもつ、もたないにかかわらず働き続ける」が、最も変化が大きく、10ポイント以上上げている。



(実際)では、前回、前々回調査では、実際の選択項目に「該当しない」がないため、「無回答」に含め、比較しています。無回答を除き、「結婚し、子どもをもつ、もたないにかかわらず働き続ける」が、最も変化が大きく、約15ポイント下げている。

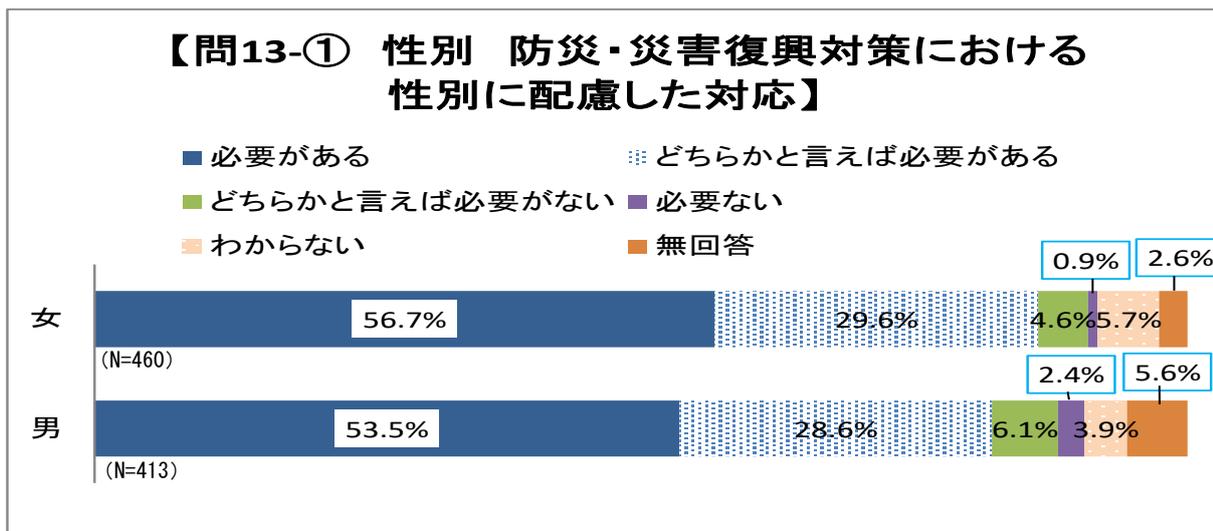
4 地域活動や老後の暮らしについて

問13. 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要だと思いますか？（1つだけに○を）



「必要がある」が、55.0%と最も高く、次いで、「どちらかと言えば必要がある」が28.9%となっている。

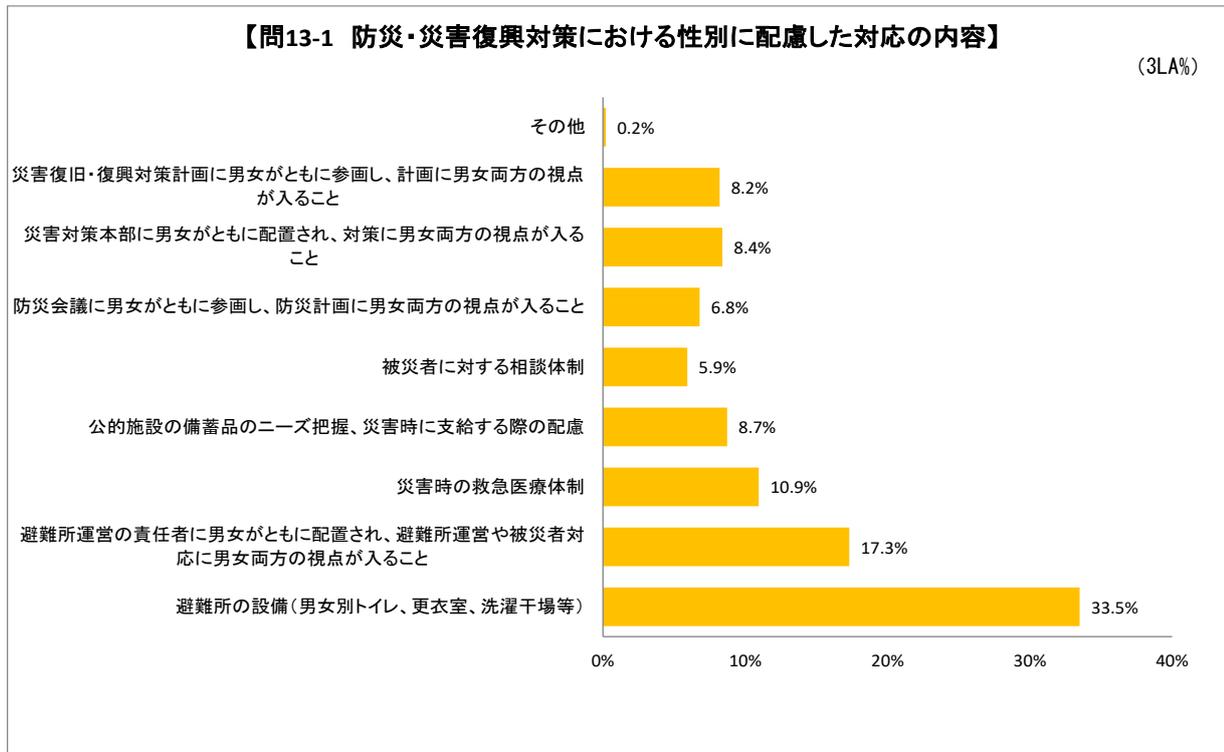
「必要がある」「どちらかと言えば必要がある」と回答した方は、8割を超える。



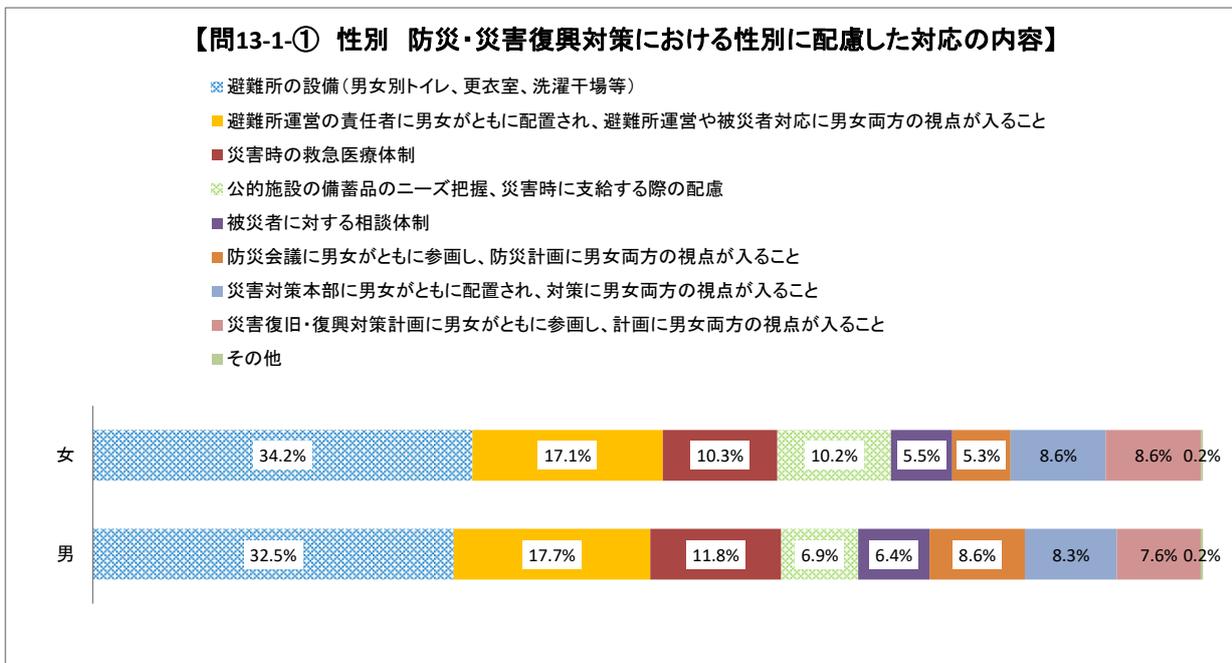
性別で見ると、男性より女性の方が「必要がある」「どちらかと言えば必要がある」「わからない」の回答率が高い。

問13で「1 必要がある」「2 どちらかといえば必要がある」と答えた方に伺います。

問13-1. 防災・災害復興対策において、性別に配慮した対応が必要なことは何ですか？（特に必要と思うもの3つまでに○を）

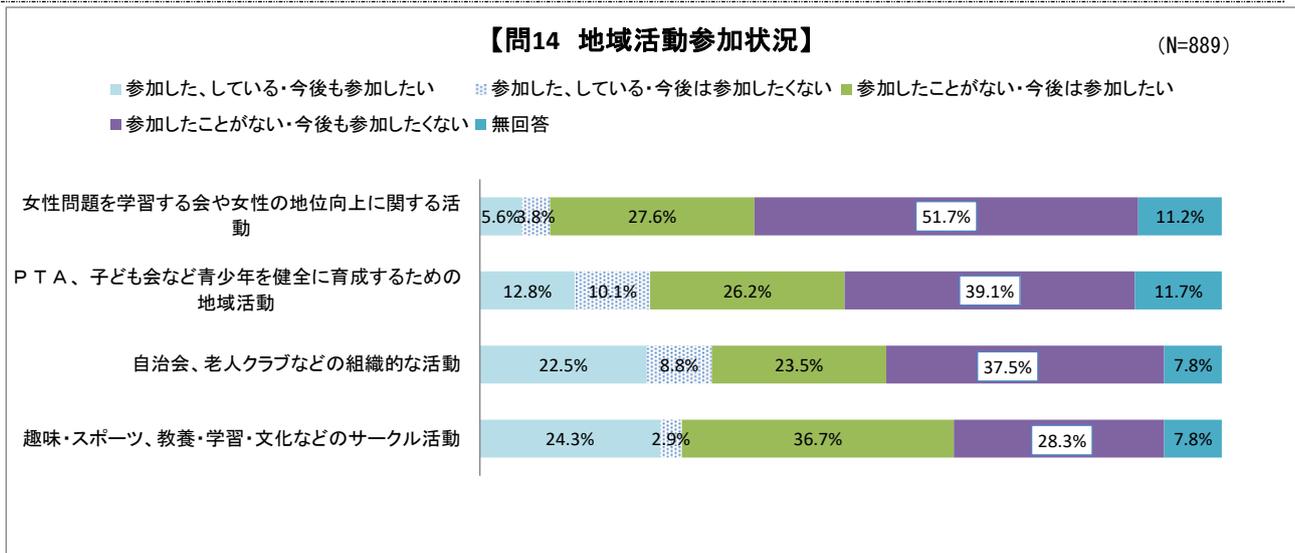


必要な配慮としては、「避難所の設備（男女別トイレ、更衣室、洗濯干場等）」が33.5%と最も高く、次いで、「避難所運営の責任者に男女がともに配慮され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」が17.3%、「災害時の救急医療体制」が10.9%となっている。



性別にみると、男女とも「避難所の設備（男女別トイレ、更衣室、洗濯干場等）」が最も高く、次いで、「避難所運営の責任者に男女がともに配慮され、避難所運営や被災者対応に男女両方の視点が入ること」となっている。

問14. 次の地域活動について、あなたの参加状況に近いものについて○をつけてください。
(項目ごとに○は1つずつ)



「趣味・スポーツ、教養・学習・文化などのサークル活動」では、「参加したことがない・今後は参加したい」が36.7%と最も高く、次いで「参加したことがない・今後も参加したくない」が28.3%となっている。今後参加の希望がある方は、61%、今後参加したくない方は、約31.2%となっている。

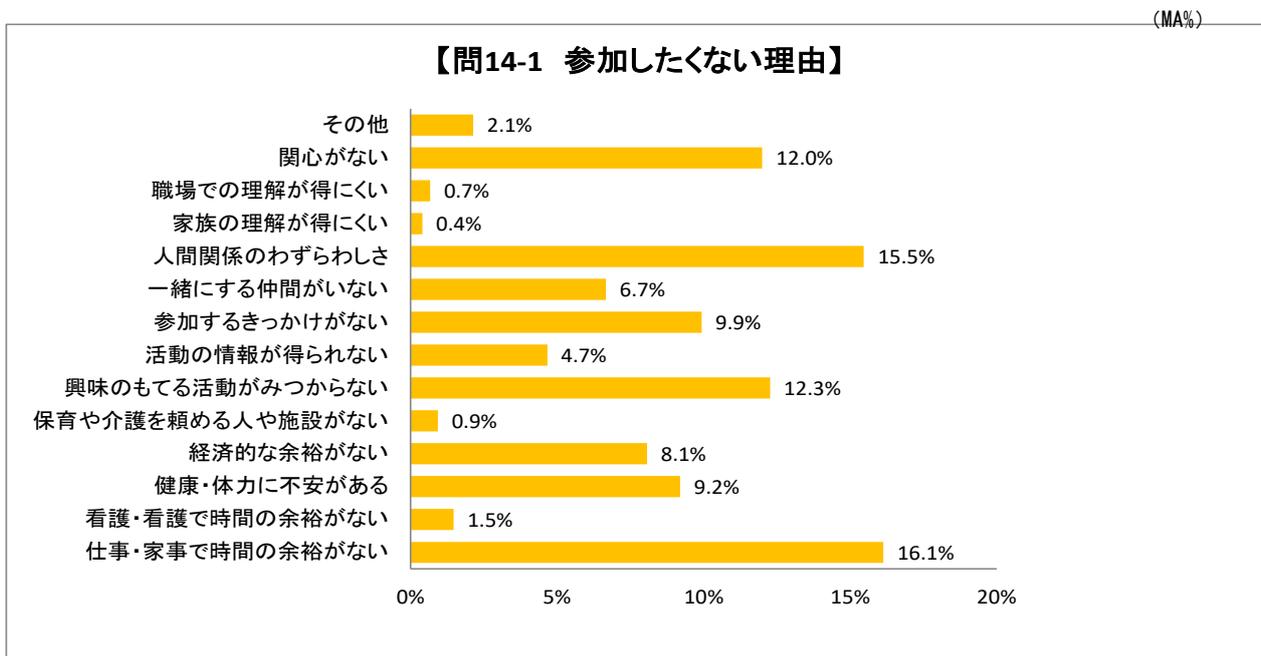
「自治会、老人クラブなどの組織的な活動」では、「参加したことがない・今後も参加したくない」が37.5%と最も高く、次いで「参加したことがない・今後は参加したい」23.5%となっている。今後参加の希望がある方は、46%、今後参加したくない方は、46.3%となっている。

「P T A、子ども会など青少年を健全に育成するための地域活動」では、「参加したことがない・今後も参加したくない」が39.1%と最も高く、次いで「参加したことがない・今後は参加したい」26.2%となっている。今後参加の希望がある方は、39%、今後参加したくない方は、49.2%となっている。

「女性問題を学習する会や女性の地位向上に関する活動」では、「参加したことがない・今後も参加したくない」が51.7%と最も高く、次いで「参加したことがない・今後は参加したい」27.6%となっている。今後参加の希望がある方は、33.2%、今後参加したくない方は、55.5%となっている。

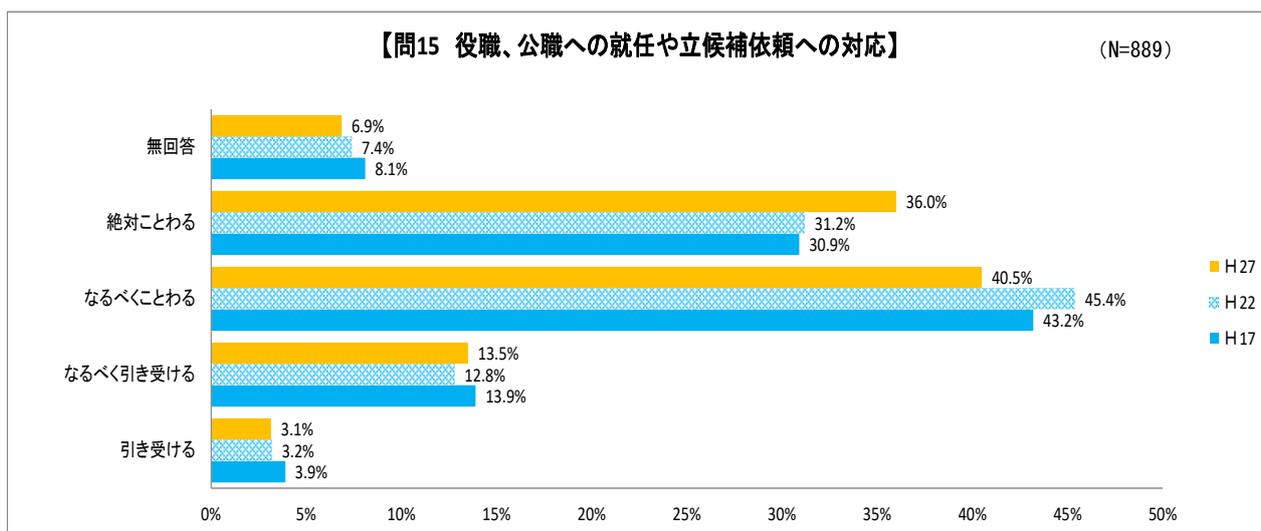
問14で「2 今後は参加したくない」「4 今後も参加したくない」に1つ以上答えた方に伺います。

問14-1. それはどうしてですか？（あてはまるものすべてに○を）



今後参加しない理由としては、「仕事・家事で時間の余裕がない」が16.1%と最も高く、次いで、「人間関係のわずらわしさ」が15.5%、「興味のもてる活動が見つからない」が12.3%となっている。

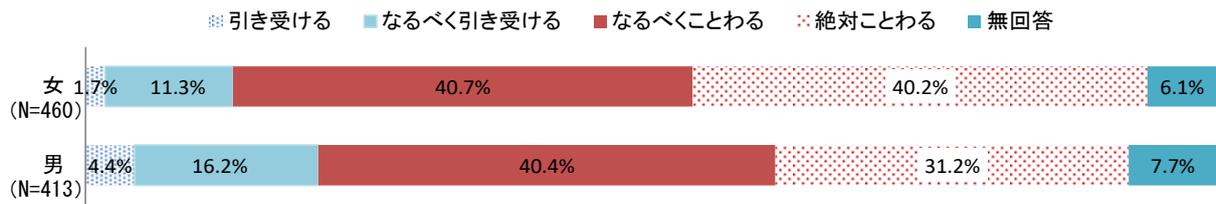
問15. 仮に、あなたが役職、公職への就任や立候補を依頼されたらどうしますか？（1つだけに○を）



「なるべくことわる」が40.5%と最も高く、「絶対ことわる」が36.0%、「なるべく引き受ける」が13.5%の順となっている。

前回、前々回調査同様、「なるべくことわる」が最も高く、次いで、「絶対ことわる」「なるべく引き受ける」となっている。

【問15-① 性別 役職、公職への就任や立候補依頼への対応】

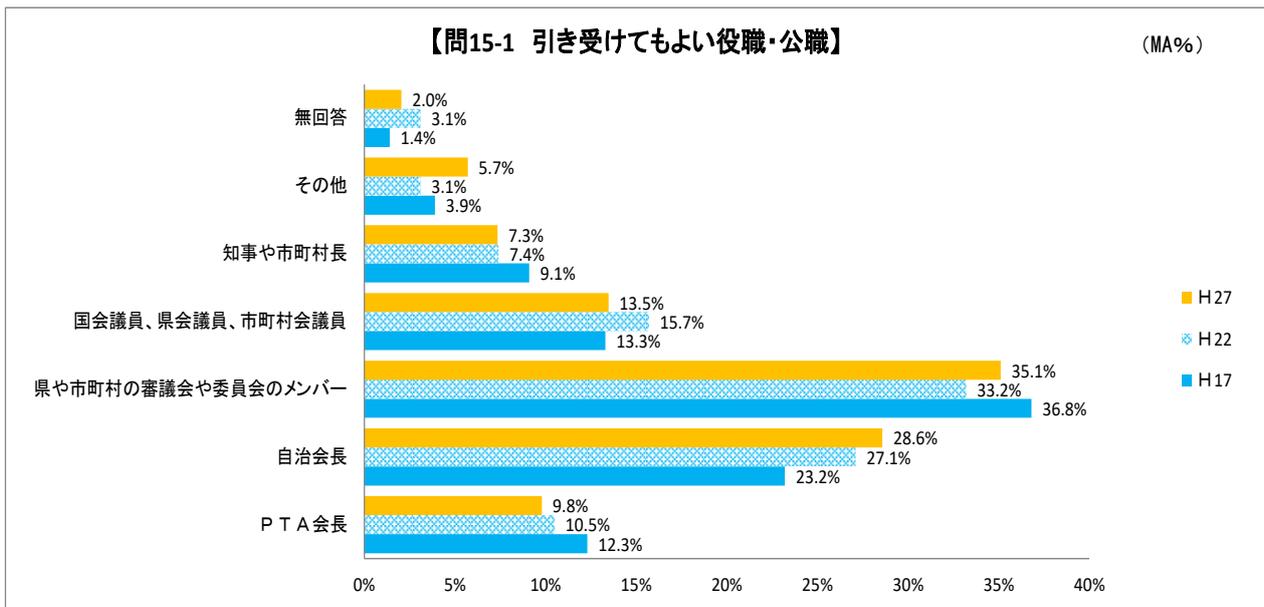


性別では、男女とも、「なるべくことわる」と回答した方が最も多く、「絶対ことわる」が続く。

「引き受ける」「なるべく引き受ける」を合わせると、男性では、20.6%、女性では、13%となり約7ポイント低い、「なるべくことわる」「絶対ことわる」を合わせると、男性では、71.6%、女性では、80.9%と約9ポイント高い。

問15で「1積極的に引き受ける」「2なるべく引き受ける」と答えた方に伺います。

問15-1. 引き受けてもよい役職、公職はどれですか？（あてはまるものすべてに○を）

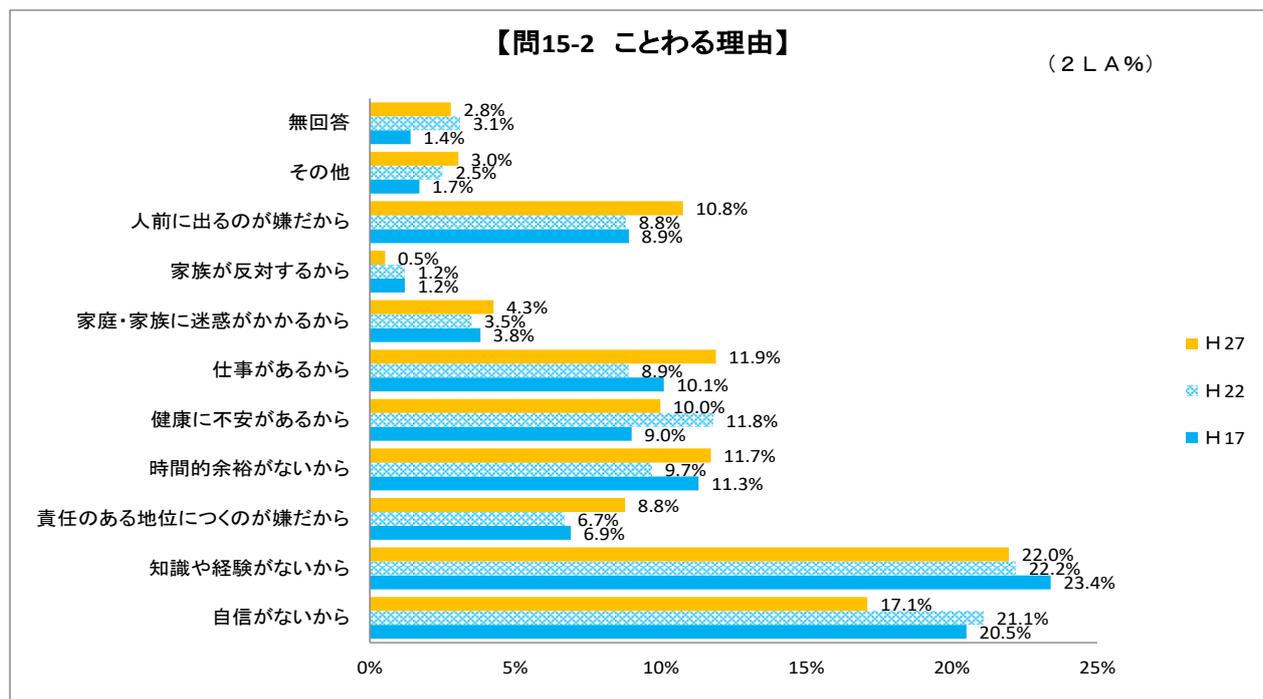


「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」が35.1%と最も高く、次いで「自治会長」が28.6%となっている。

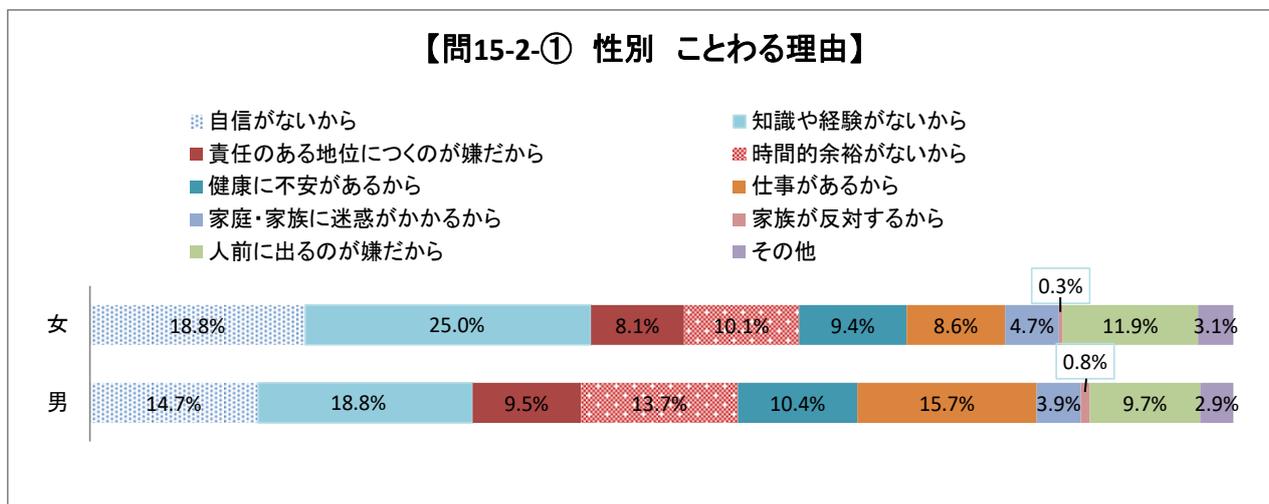
前回、前々回調査同様、「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」が最も高く、次いで、「自治会長」「国会議員、県会議員、市町村会議員」となっている。

問15で「3なるべくことわる」「4絶対にことわる」と答えた方に伺います。

問15-2.「ことわる」のはなぜですか？（2つまでに○を）



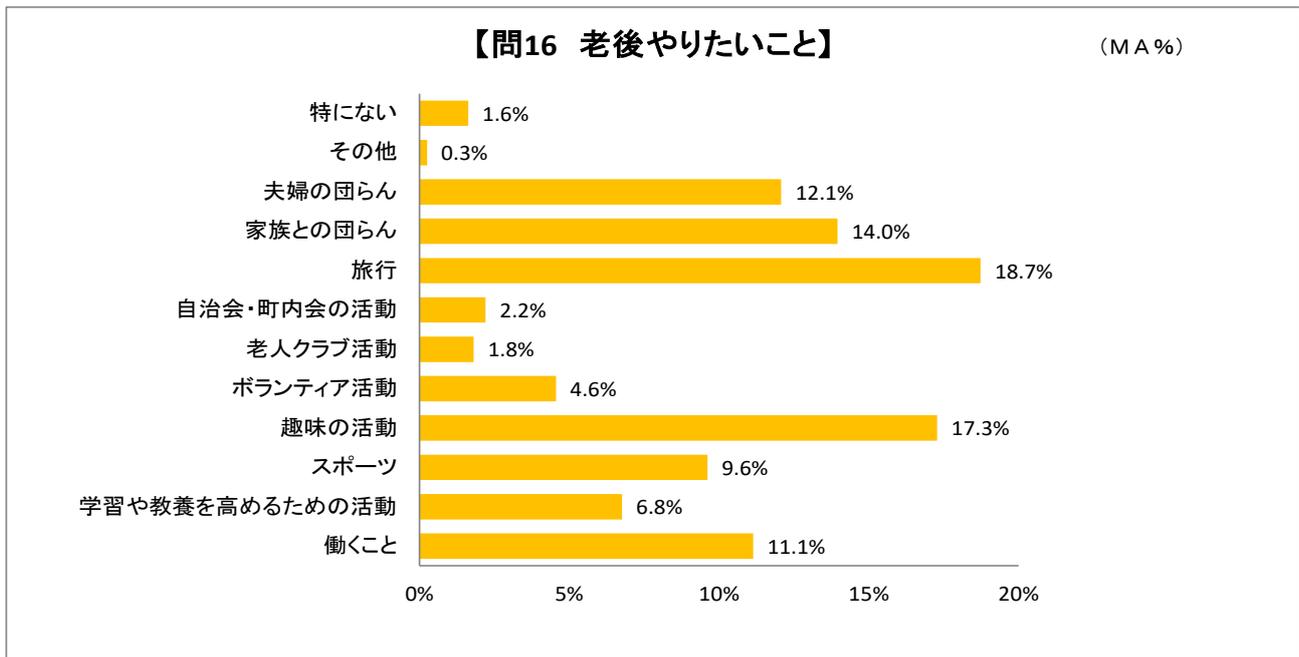
「知識や経験がないから」が22.0%と最も高く、次いで「自信がないから」が17.1%、「仕事があるから」が11.9%、「時間的余裕がないから」が11.7%の順となっている。



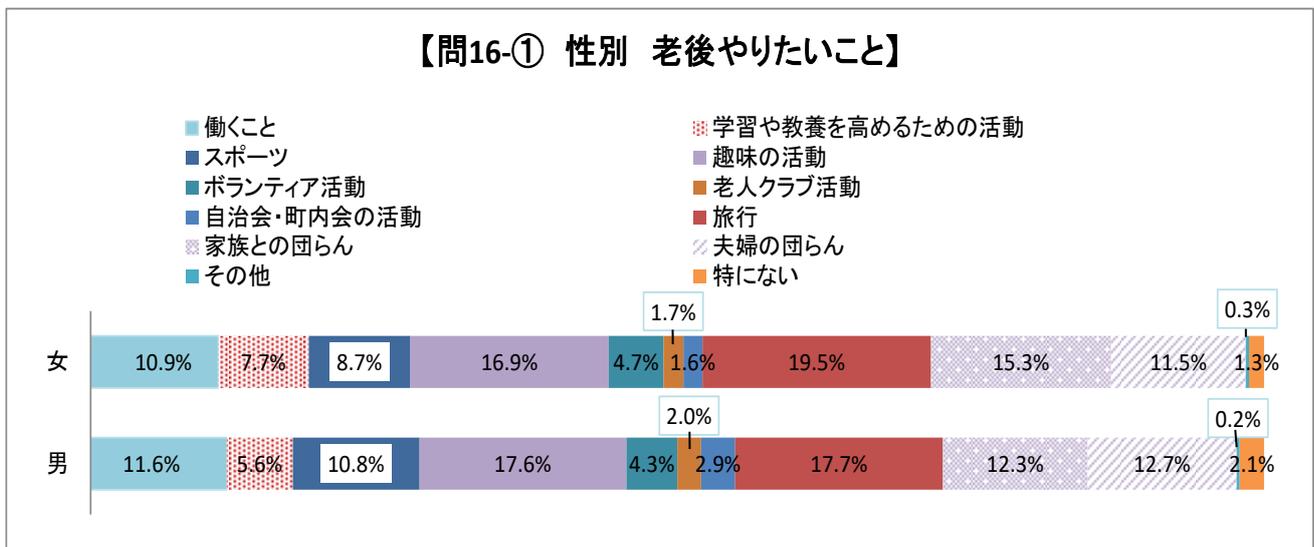
性別で見ると、女性では、「知識や経験がないから」25.0%、「自信がないから」18.8%、「人前に出るのが嫌だから」11.9%の順となっている。

男性では、「知識や経験がないから」18.8%、「仕事があるから」が15.7%、「時間的余裕がないから」13.7%の順となっている。

問16. あなたは、老後をいきいきと暮らすためにやりたいことがありますか？（あてはまるものすべてに○を）



「旅行」が18.7%と最も高く、次いで「趣味の活動」が17.3%、「家族との団らん」が14.0%となっている。

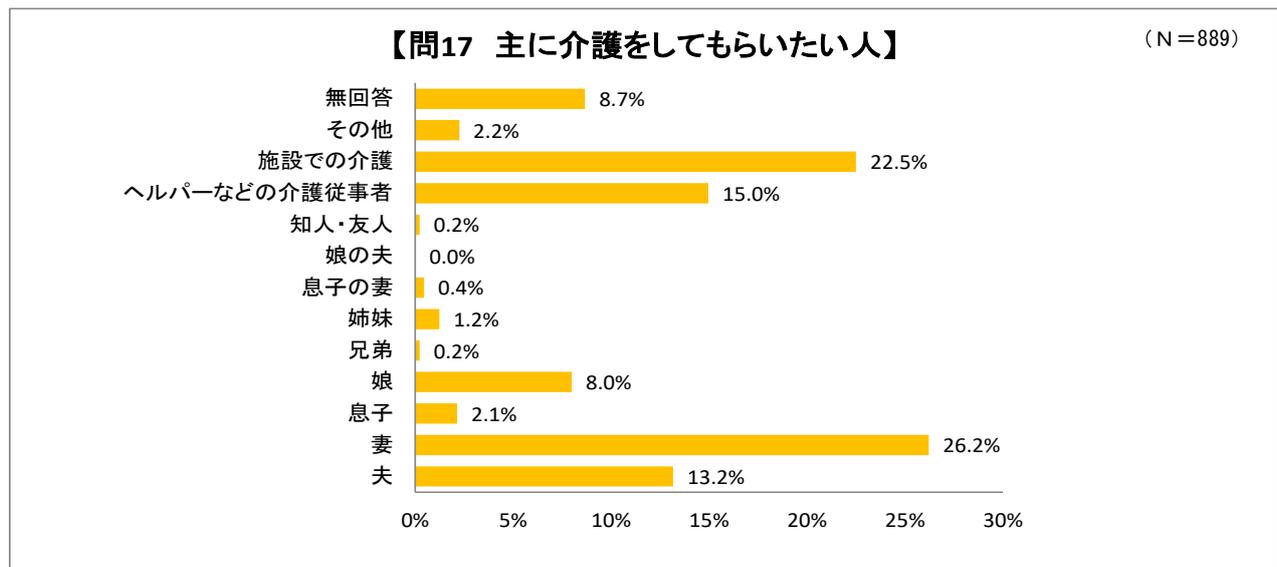


性別で見ると、女性では、「旅行」が19.5%と最も高く、次いで「趣味の活動」16.9%、「家族との団らん」15.3%となっている。

男性では「旅行」が17.7%と最も高く、次いで「趣味の活動」17.6%、「夫婦の団らん」12.7%となっている。

男女間で最も差が見られた回答項目は、「家族との団らん」で、女性の方が男性より、3ポイント上回った。

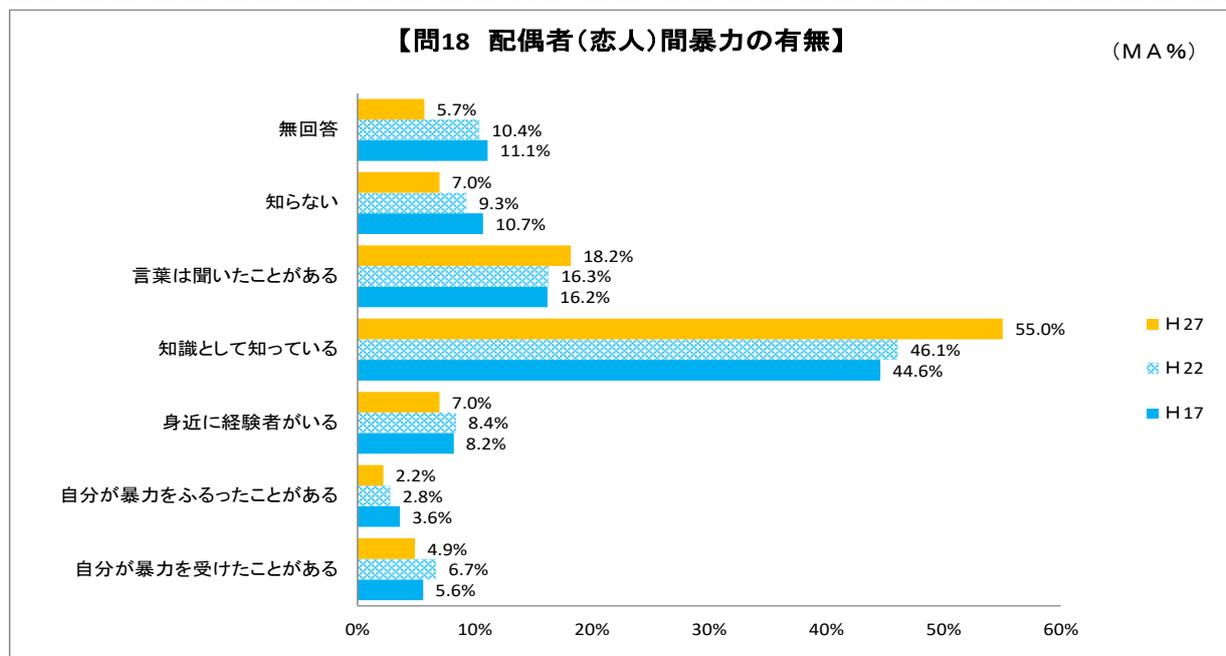
問17. あなた自身に介護が必要となった時、主に誰に介護をしてもらいたいと思いますか？（1つだけに○を）



介護をしてもらいたい人としては、「妻」が26.2%と最も高く、次いで「施設での介護」22.5%、「ヘルパーなどの介護従事者」が15.0%となっている。

5 DVについて

問18. あなたは配偶者や恋人からの身体的・心理的な暴力（ドメスティック・バイオレンス（DV））について、経験したり、見聞きしたことはありますか？（あてはまるものすべてに○を）

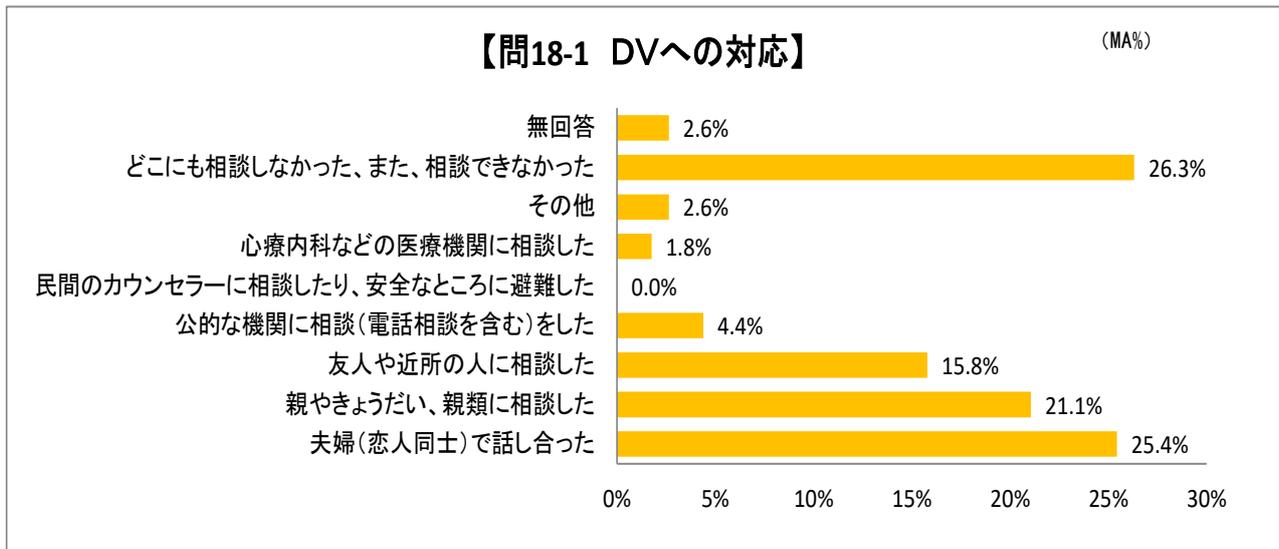


「知識として知っている」が55.0%と最も高く、次いで、「言葉は聞いたことがある」が18.2%、「身近に経験者がいる」と「知らない」が共に、7.0%となっている。

前回調査と比較し、「知識として知っている」が最も変化し、9.1ポイント増えた。

問18で「1暴力を受けたことがある」、「2暴力をふるったことがある」と答えた方に伺います。

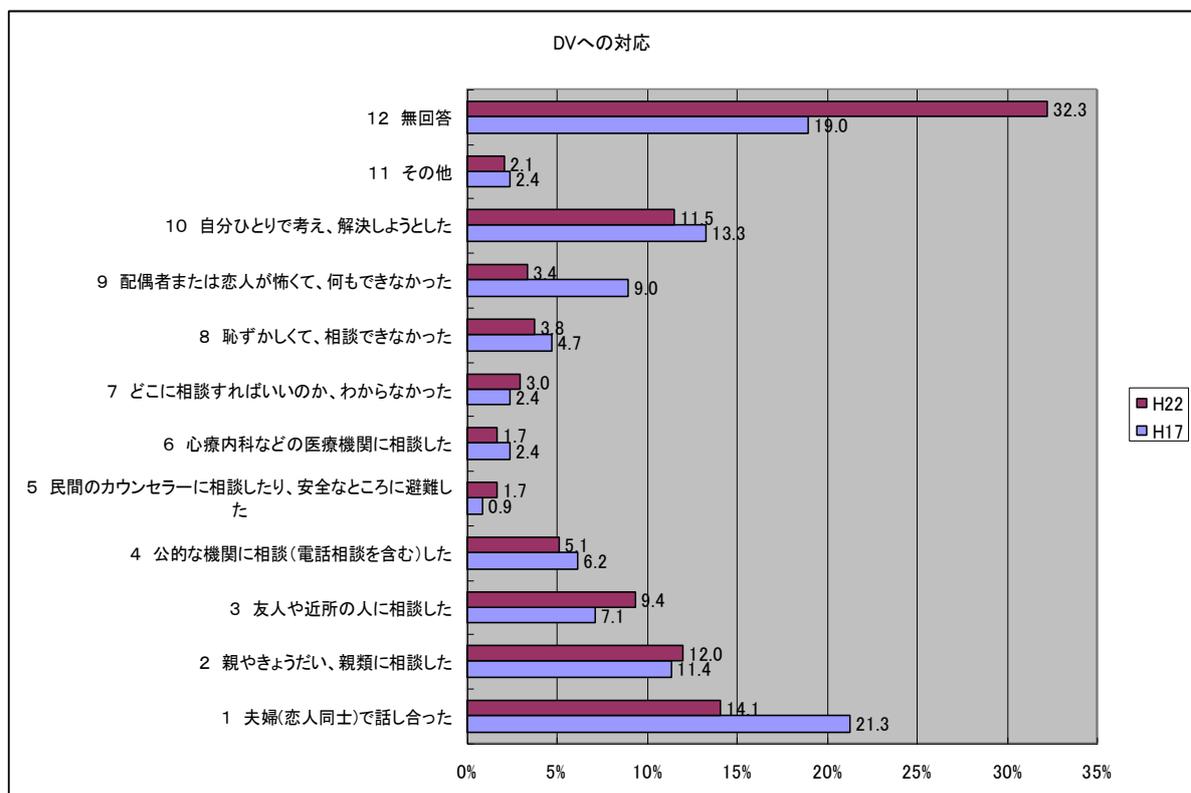
問18-1. その時あなたはどうしましたか？（あてはまるものすべてに○を）



「どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」が26.3%と最も高く、次いで、「夫婦(恋人同士)で話し合った」が25.4%、「親やきょうだい、親類に相談した」が21.1%となっている。

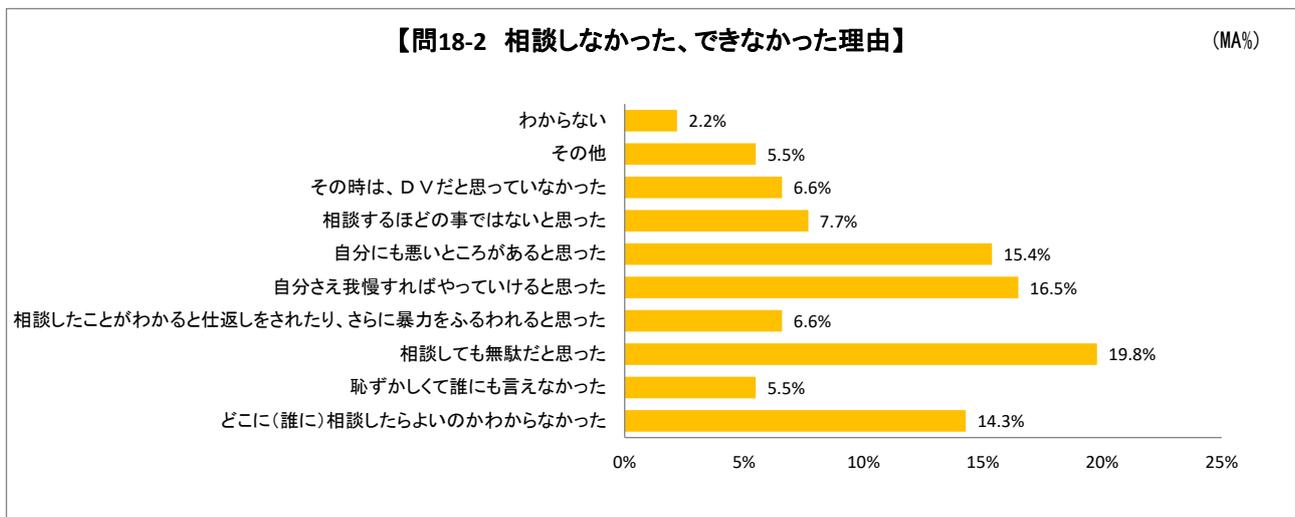
【参考】

前回調査(平成22年)から、質問を分け(問18-1、問18-2)、回答選択項目を変更したので、比較できません。下図は参考掲載です。



問18で「8どこにも相談しなかった、また、相談できなかった」と答えた方に伺います。

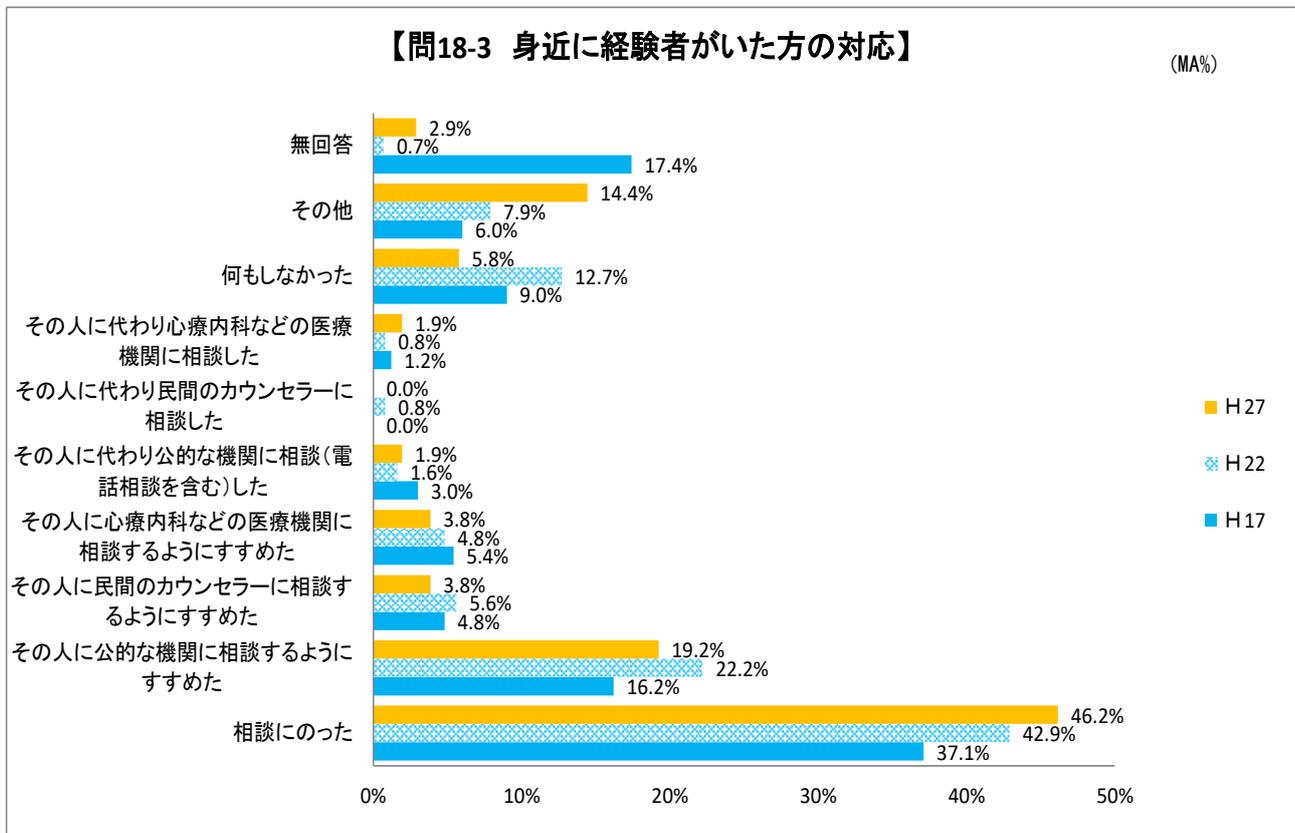
問18-2. どこにも相談しなかった、また、相談できなかったのはなぜですか？（あてはまるものすべてに○を）



「相談しても無駄だと思った」が19.8%と最も高く、次いで「自分さえ我慢すればやっていけると思った」が16.5%、「自分にも悪いところがあると思った」が15.4%となっている。

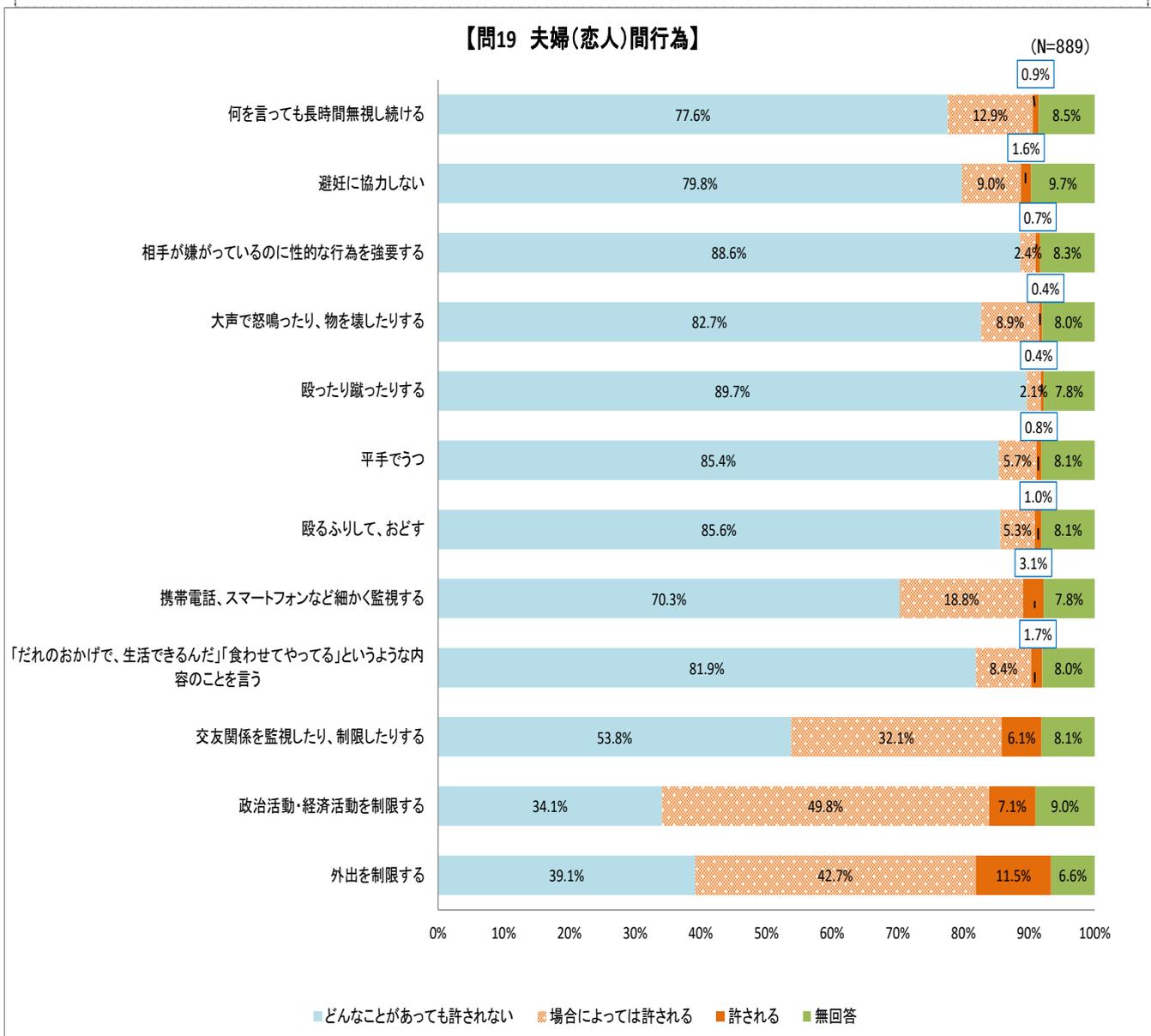
問18で「3「身近に経験者がいる」と答えた方に伺います。

問18-3. その時あなたはどうしましたか？（あてはまるものすべてに○を）



「相談にのった」が46.2%と最も高く、次いで「その人に公的な機関に相談するようにすすめた」が19.2%となっている。

問19. あなたは、夫婦（恋人）関係における次のような行為をどのように思いますか？
 (①～⑫のそれぞれについて、1つだけに○を)

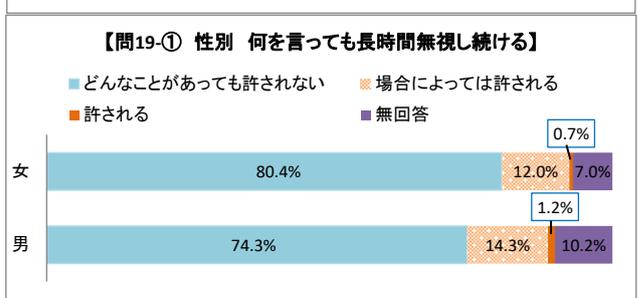
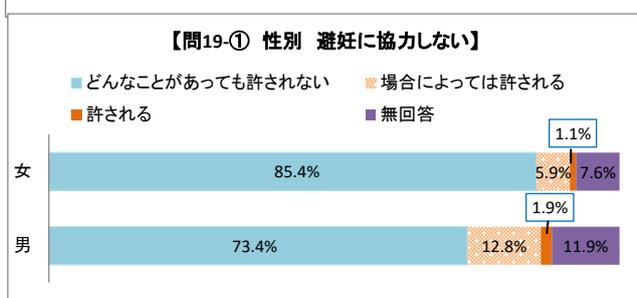
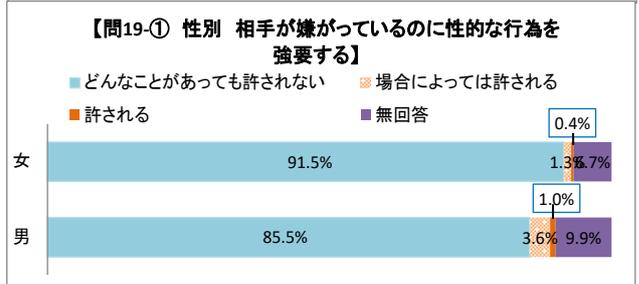
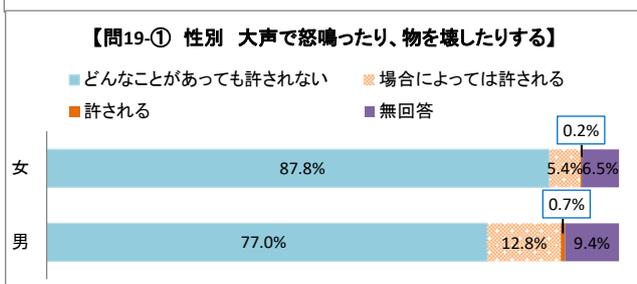
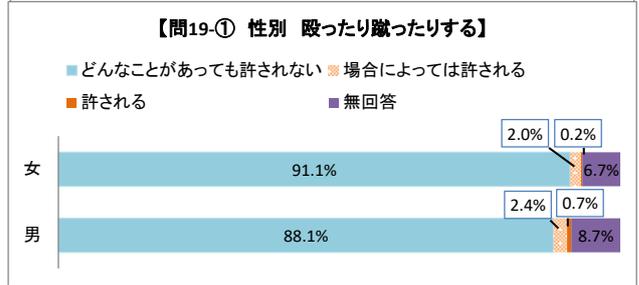
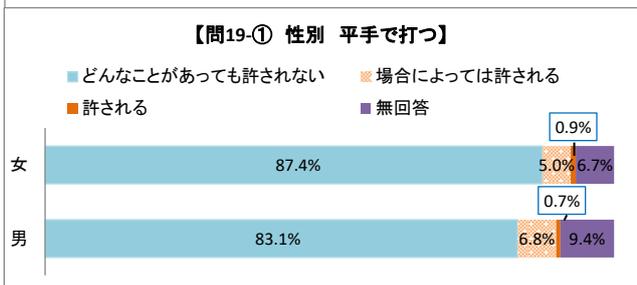
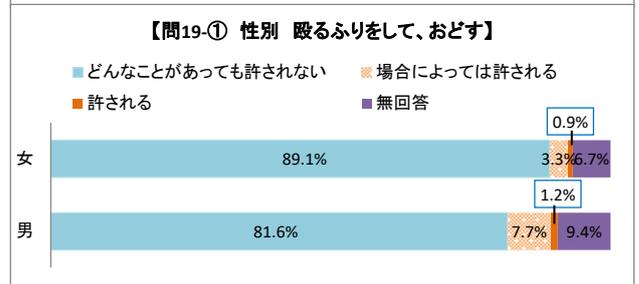
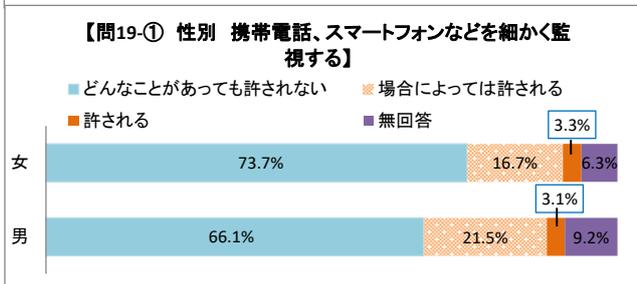
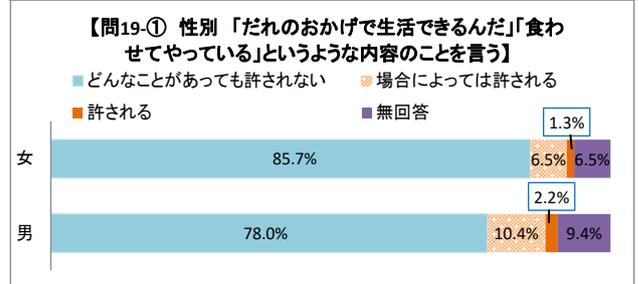
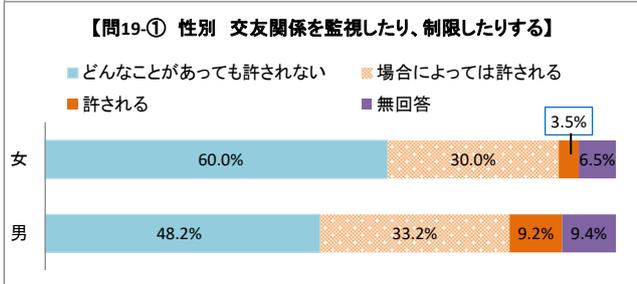
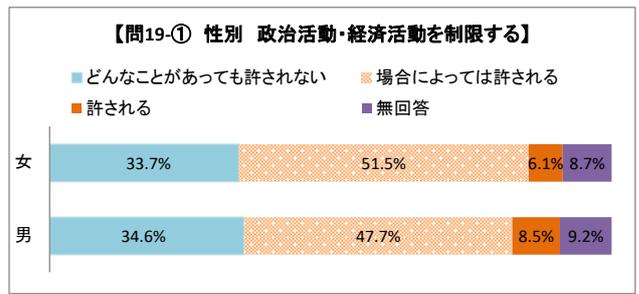
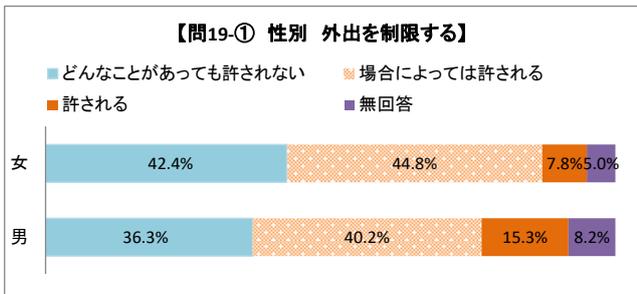


「政治活動・経済活動を制限する」と「外出を制限する」は、「場合によっては許される」が多いが、その他の項目では、「どんなことがあっても許されない」が多い。

「どんなことがあっても許されない」と回答のあった質問項目のうち、最も高いのは、「殴ったり蹴ったりする」で82.7%、次いで「相手が嫌がっているのに性的な行為を強要する」が88.6%、「殴ったふりして、おどす」が85.6%となっている。

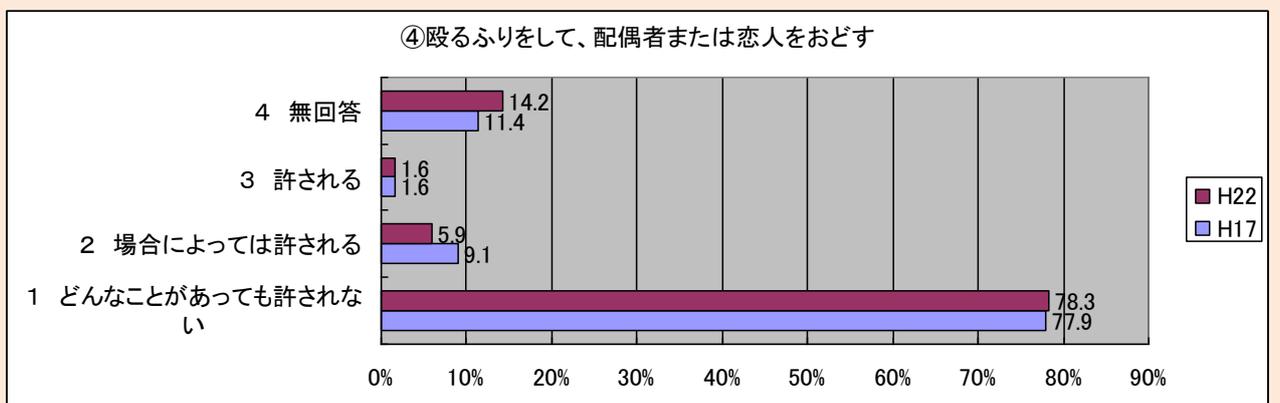
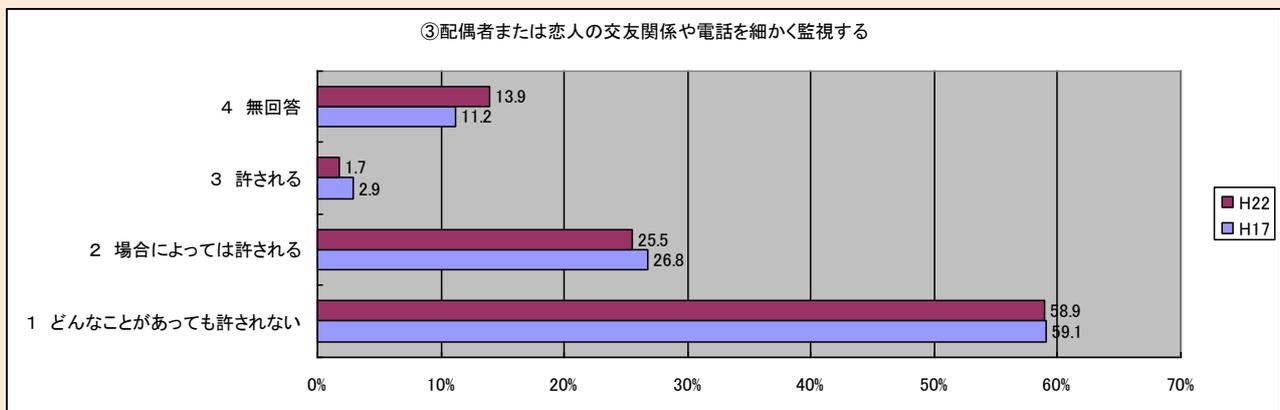
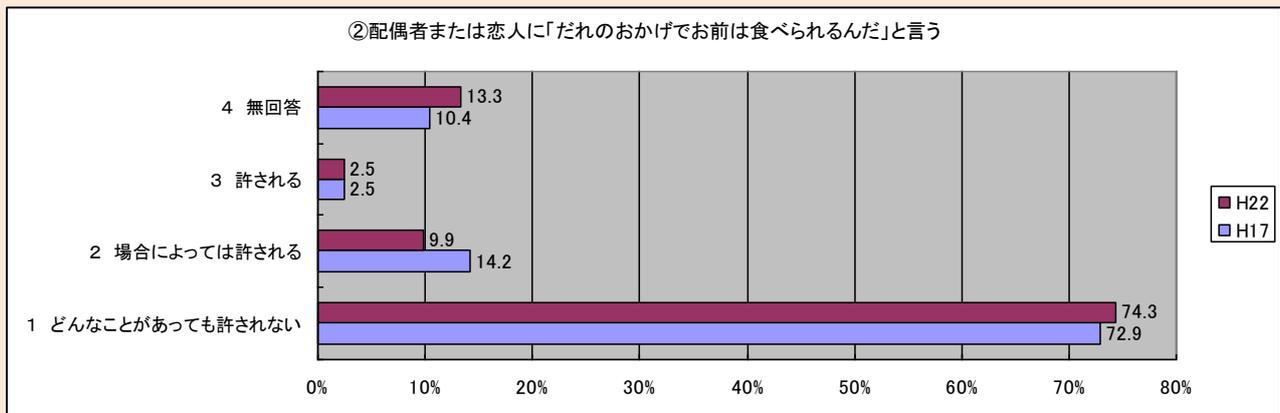
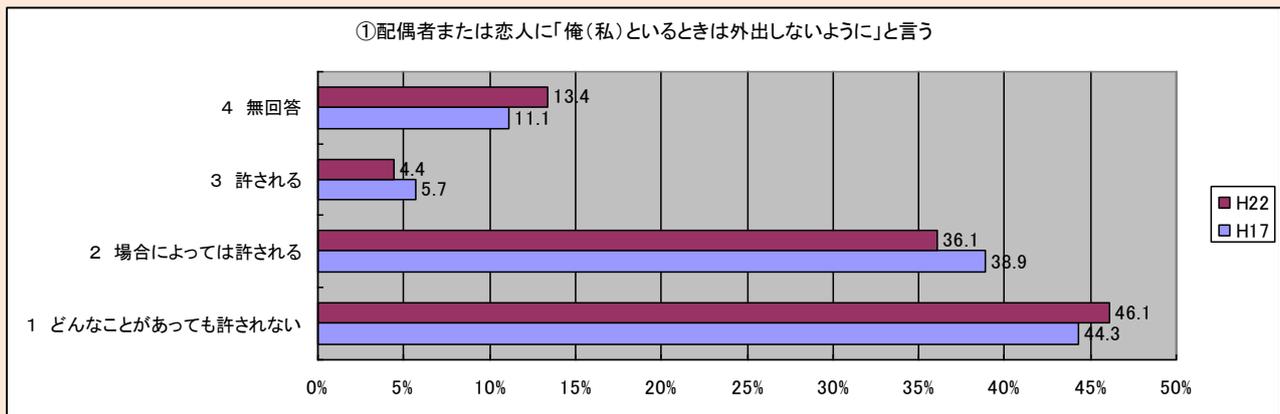
「場合によっては許される」と回答のあった質問項目のうち、最も高いのは、「政治活動・経済活動を制限する」で49.8%、次いで「外出を制限する」が42.7%、「交友関係を監視したり、制限したりする」が32.1%となっている。

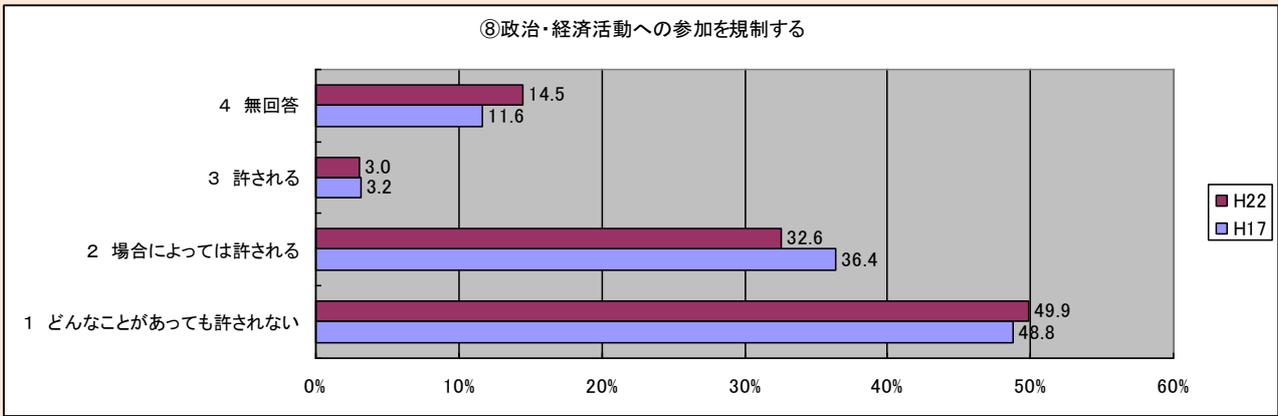
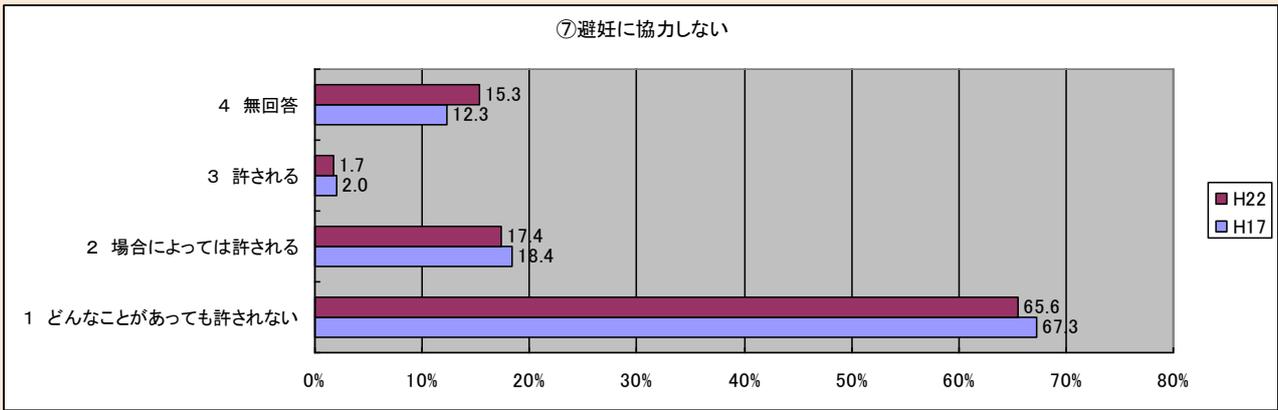
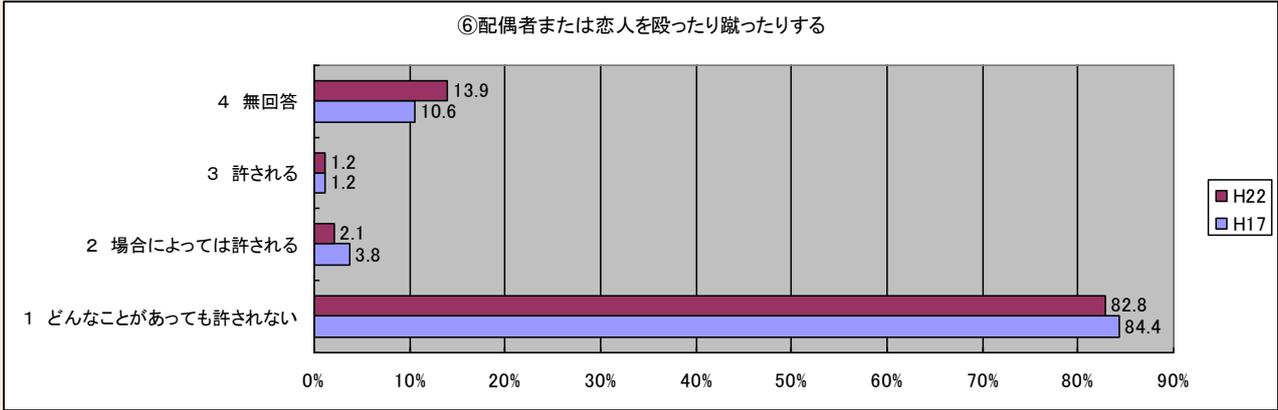
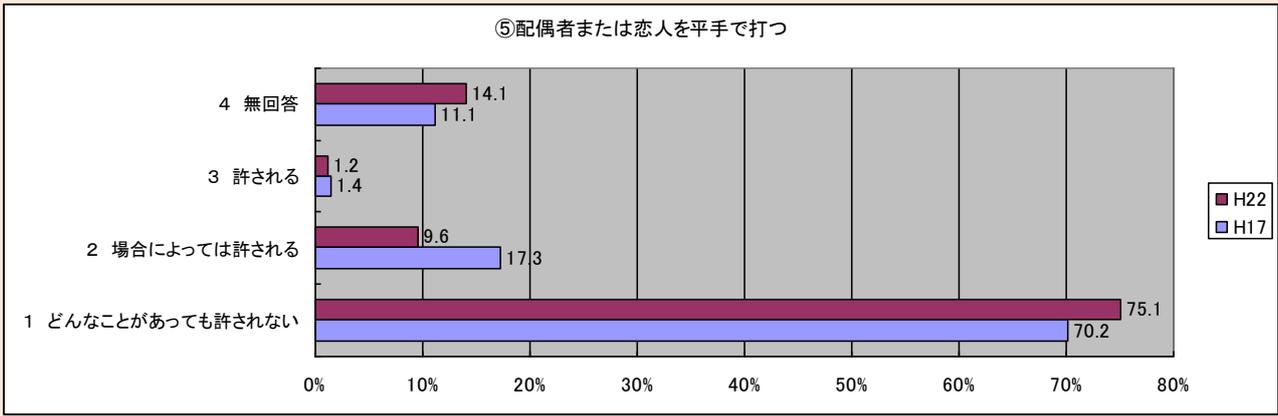
「許される」と回答のあった質問項目のうち、最も高いのは、「外出を制限する」で11.5%、次いで、「政治活動・経済活動を制限する」が7.1%、「交友関係を監視したり、制限したりする」が6.1%となっている。



性別にみると、女性の方が、男性より「政治活動・経済活動を制限する」の項目を除く全ての質問項目において、「どんなことがあっても許されない」と感じる方が多い。

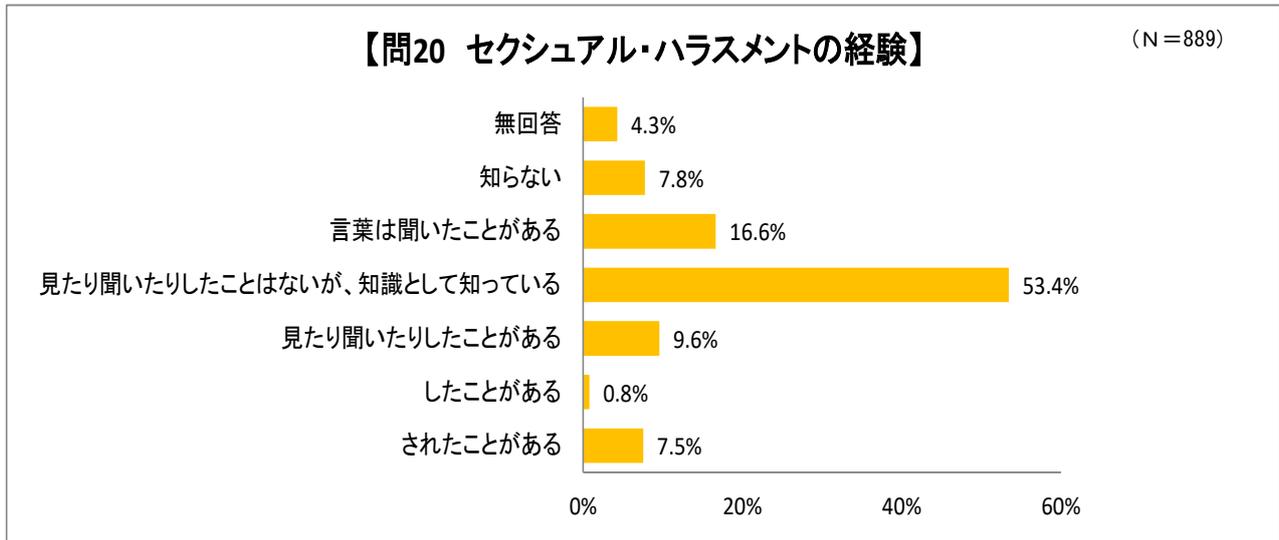
【参考】 前回調査から回答選択項目を一部変更したので、比較できません。下図は参考掲載です。



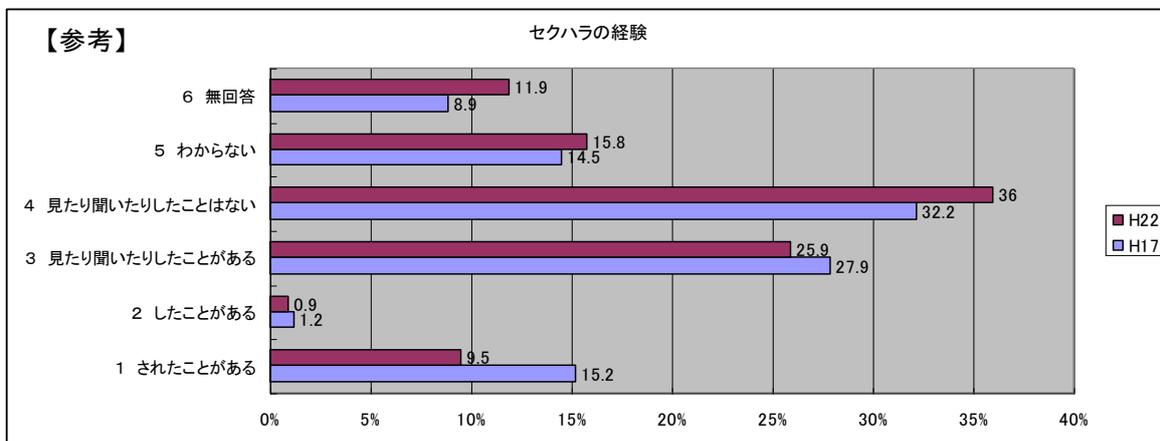


6 セクシャルハラスメントについて

問20. 職場などで、セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）が人権を侵害するとして問題になっていますが、あなたはセクシュアル・ハラスメントを経験したり、見聞きしたことがありますか？（1つだけに○を）



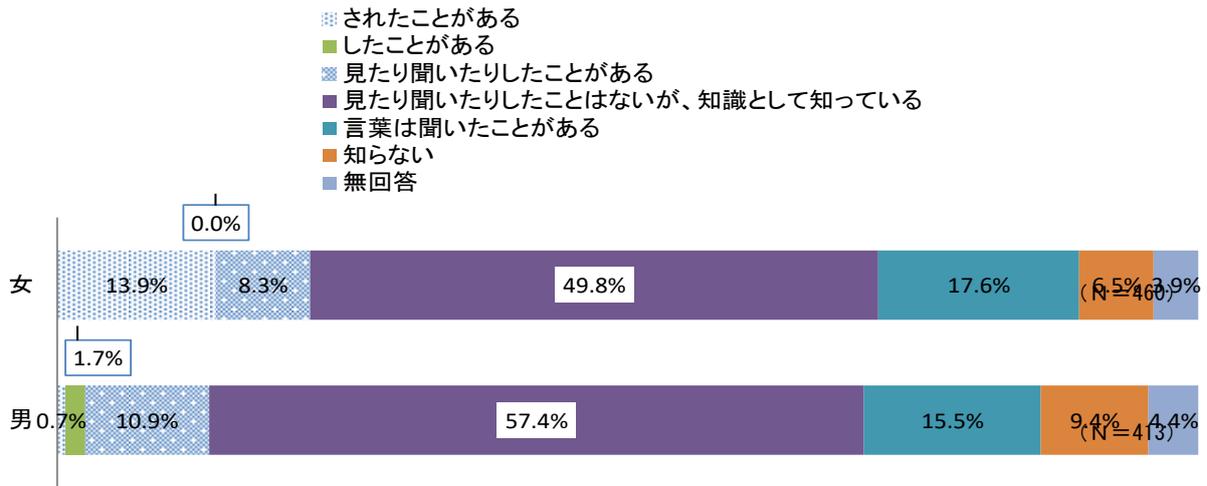
「見たり聞いたりしたことはないが、知識として知っている」が53.4%と最も高い、次いで、「言葉は聞いたことがある」が16.6%となっている。



【参考】

前回調査（平成22年）から、回答選択項目の内容を変更したため、比較できません。
上図は、参考掲載です。

【問20-① 性別 セクシュアル・ハラスメントの経験】



も高く、次いで、「言葉は聞いたことがある」となっている。

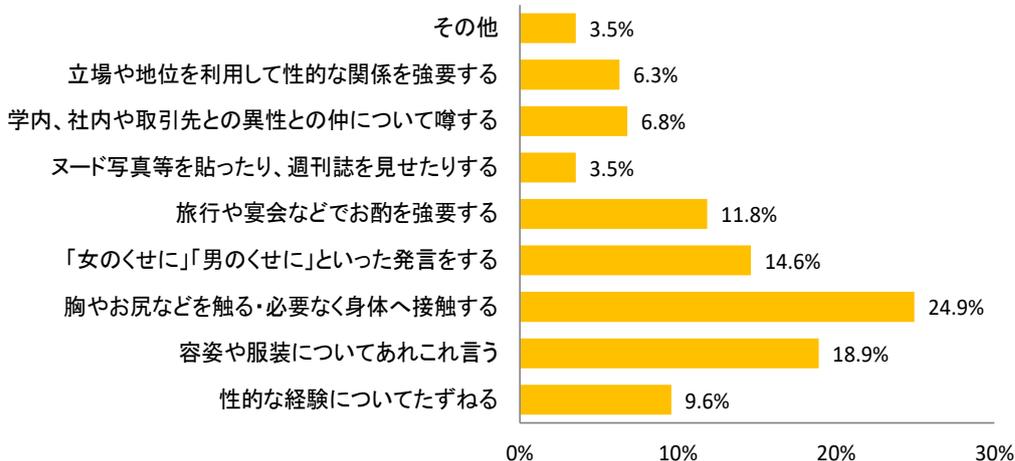
男女間で最も差が見られた回答項目は、「されたことがある」で、女性の方が男性より、13.2ポイント上回った。

問20で「1されたことがある」「2したことがある」「3見たり聞いたりしたことがある」と答えた方に伺います。

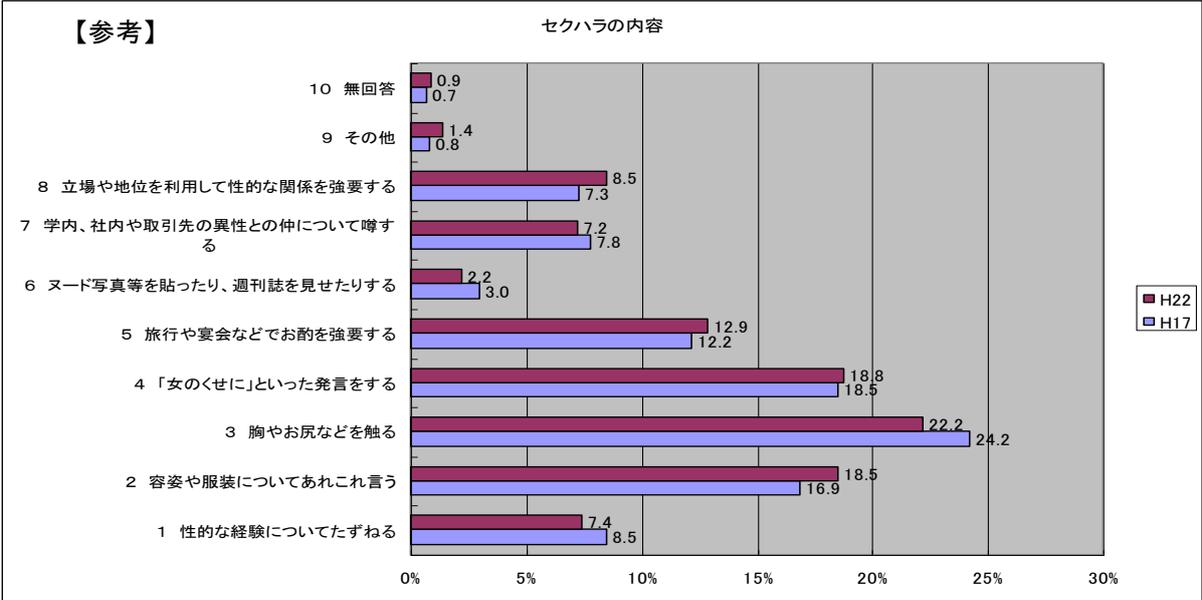
問20-1. それはどのような内容ですか？（あてはまるものすべてに○を）

【問20-1 セクシュアル・ハラスメントの内容】

(MA%)



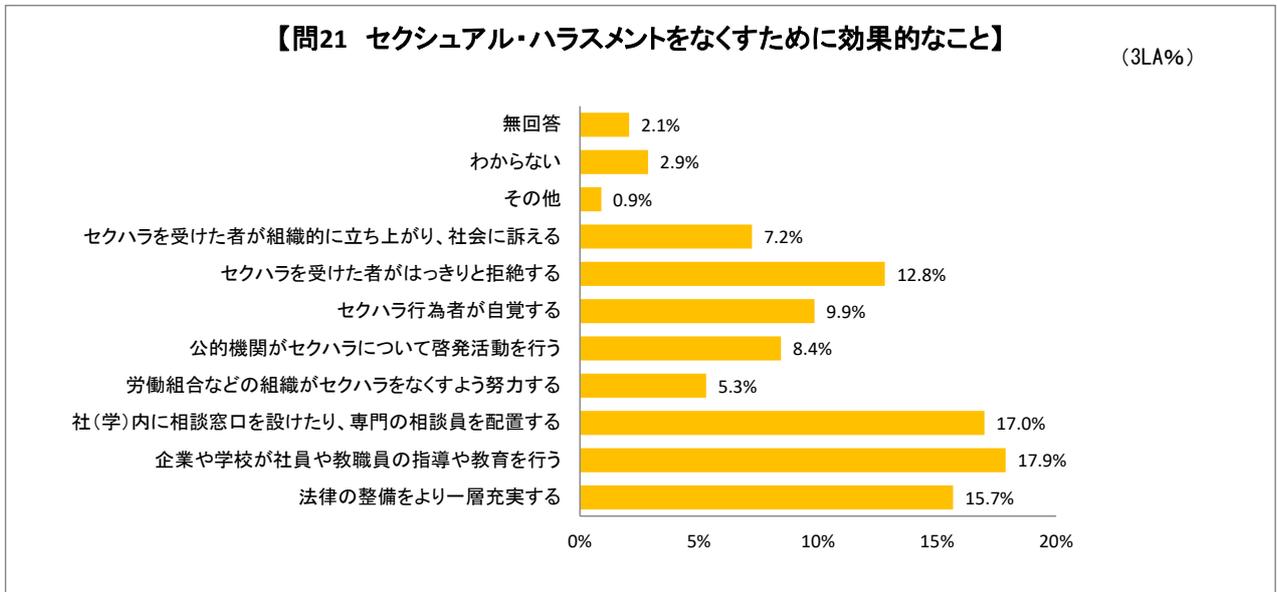
セクハラの内容としては、「胸やお尻などを触る・必要なく身体へ接触する」が、24.9%と最も高く、次いで、「容姿や服装についてあれこれ言う」が18.9%、「女のくせに」「男のくせに」といった発言をする」が14.6%となっている。



【参考】

前回（平成 22 年）調査から、回答選択項目の一部を変更したので、比較できません。上図は、参考掲載です。

問 2 1. あなたは、セクシュアル・ハラスメントをなくすためにはどのようなことが効果があると思いますか？（3 つまでに○を）

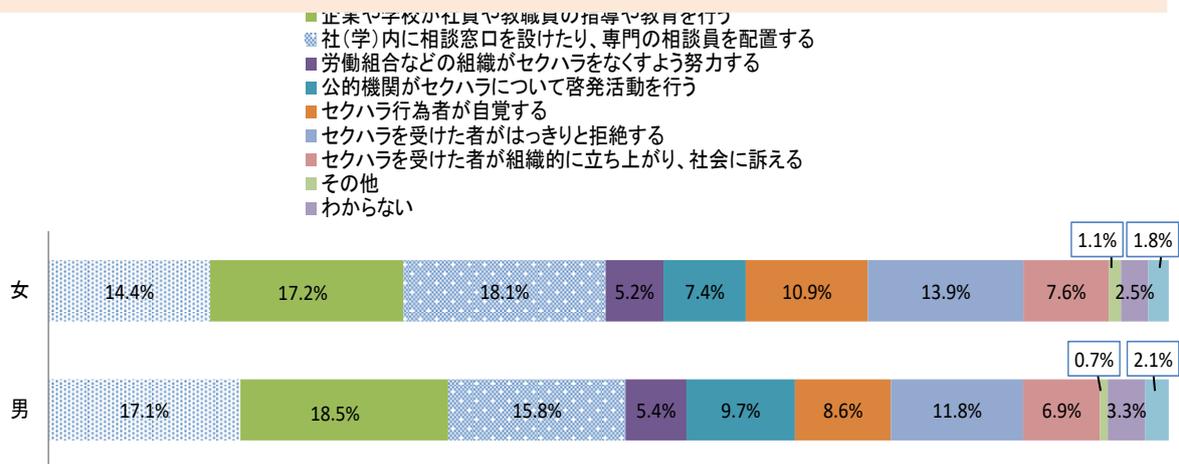
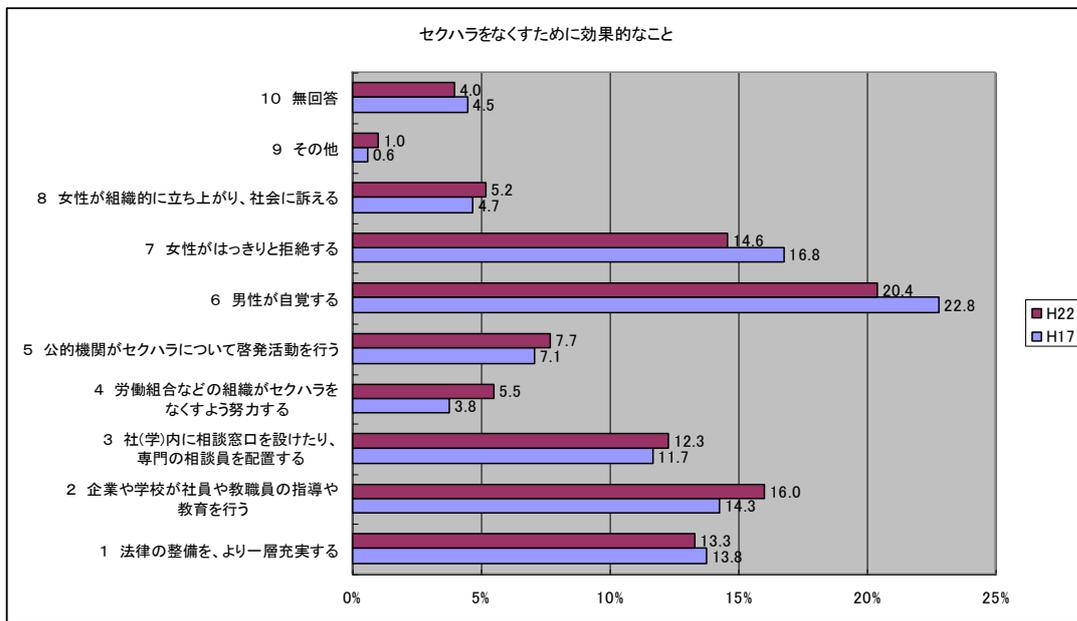


セクシュアル・ハラスメントをなくすための効果的なことは、「企業や学校が社員や教職員の指導や教育を行う」が 17.9%と最も高く、次いで、「社（学）内に相談窓口を設けたり、専門の相談員を配置する」が 17.0%、「法律の整備をより一層充実する」が 15.7%となっている。

【参考】

前回調査から、回答選択項目を一部変更したので、比較できません。

下図は、参考に掲載します。

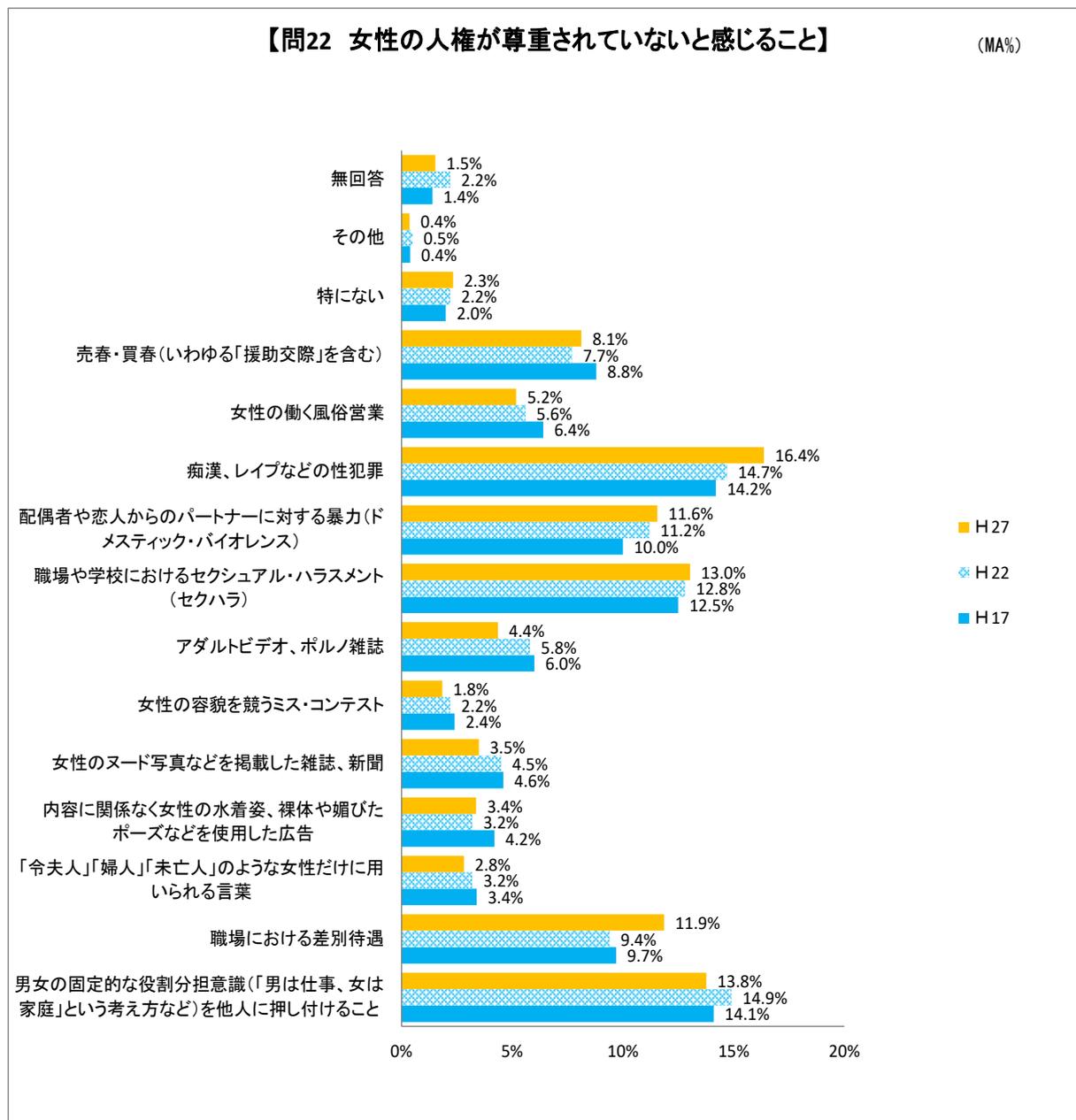


性別では、女性では、「社（学）内に相談窓口を設けたり、専門の相談員を配置する」が18.1%と最も高く、次いで「企業や学校が社員や教職員の指導や教育を行う」が17.2%、「法律の整備をより一層充実する」が14.1%となっている。

男性では、「企業や学校が社員や教職員の指導や教育を行う」が18.5%と最も高く、次いで「法律の整備をより一層充実する」が17.1%、「社（学）内に相談窓口を設けたり、専門の相談員を配置する」が15.8%となっている。

7 女性の人権について

問22. あなたが、女性の人権が尊重されていないと感じるのは、どのようなことについてですか？（あてはまるものすべてに○を）

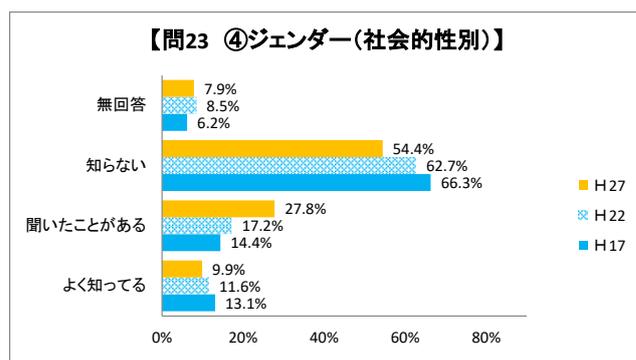
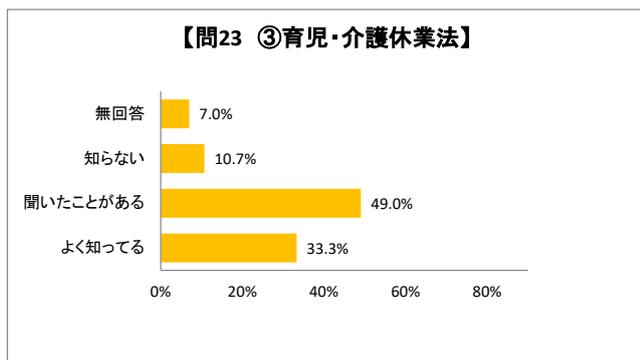
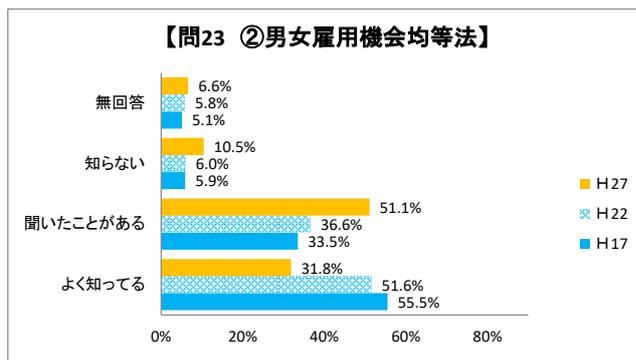
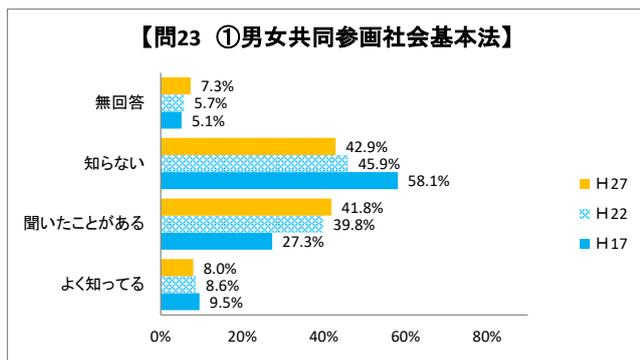


「痴漢、レイプなどの性犯罪」が16.4%と最も高く、次いで「男女の固定的な役割分担意識(「男は仕事、女は家庭」という考え方など)を他人に押し付けること」が13.8%、「職場や学校におけるセクシュアル・ハラスメント(セクハラ)」が13.0%となっている。

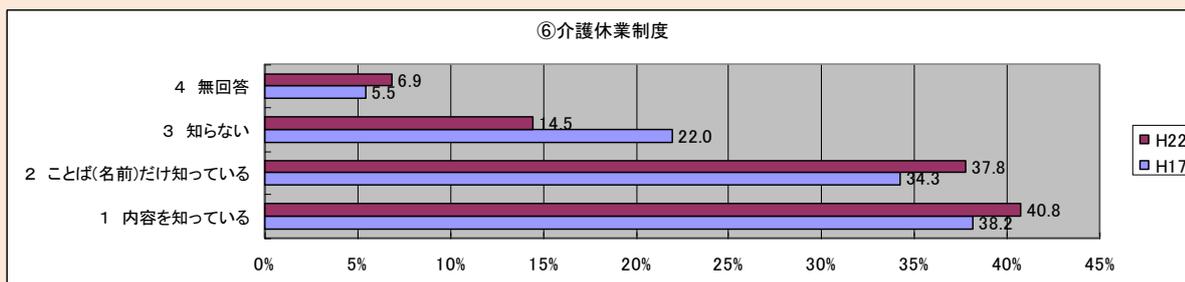
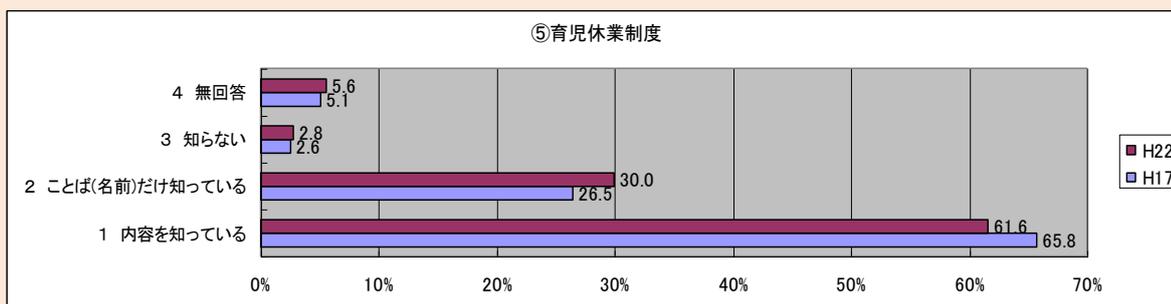
8 男女平等について

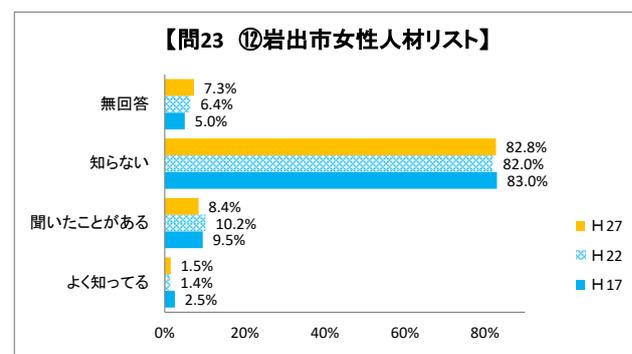
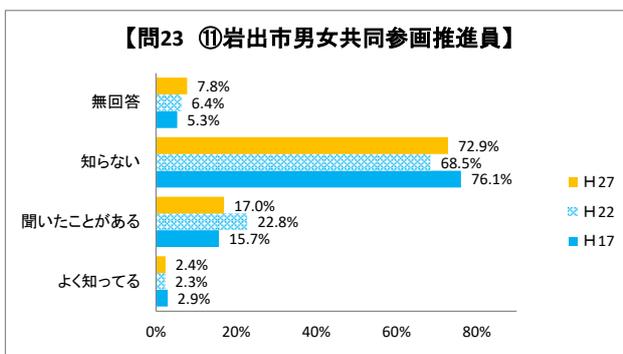
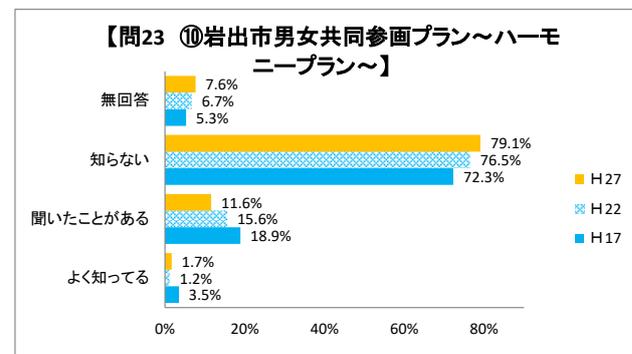
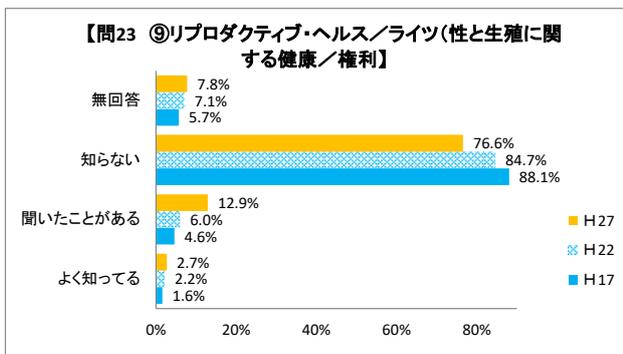
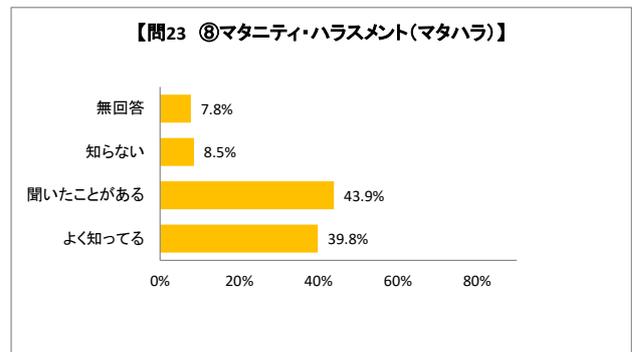
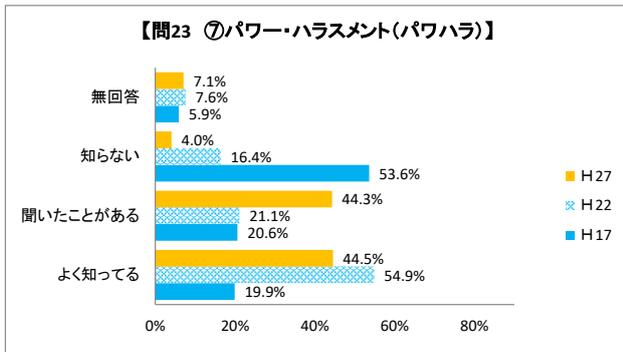
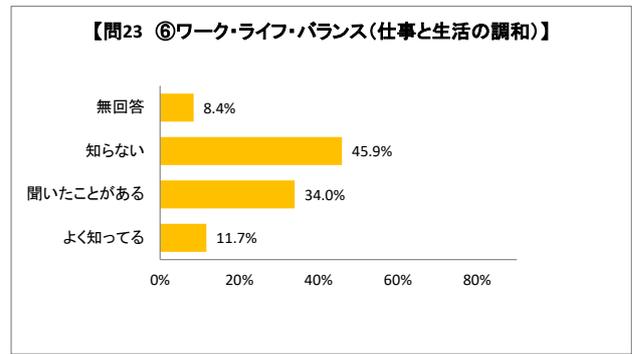
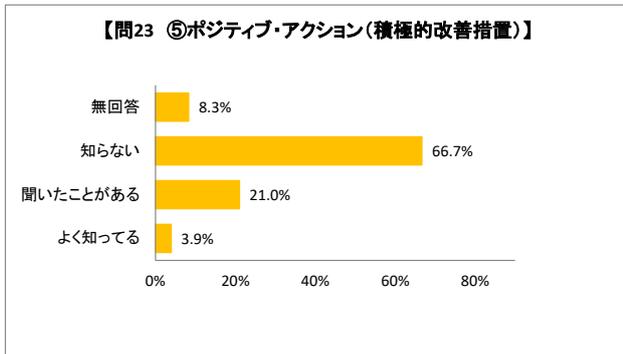
問23. 次の男女共同参画社会づくりに関連する「ことば」や「ことがら」について、ご存じですか？（①～⑫のそれぞれについて、1つだけに○を）

「③育児・介護休業法」については、前回（平成22年）調査において、質問項目を変更した。また、「⑤ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」「⑥ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」「⑧マタニティ・ハラスメント（マタハラ）」の3項目については、新たに設定した。



【参考】 育児休業制度、介護休業制度については、前回調査（平成22年）から、質問を変更しています。下図は、参考掲載です。





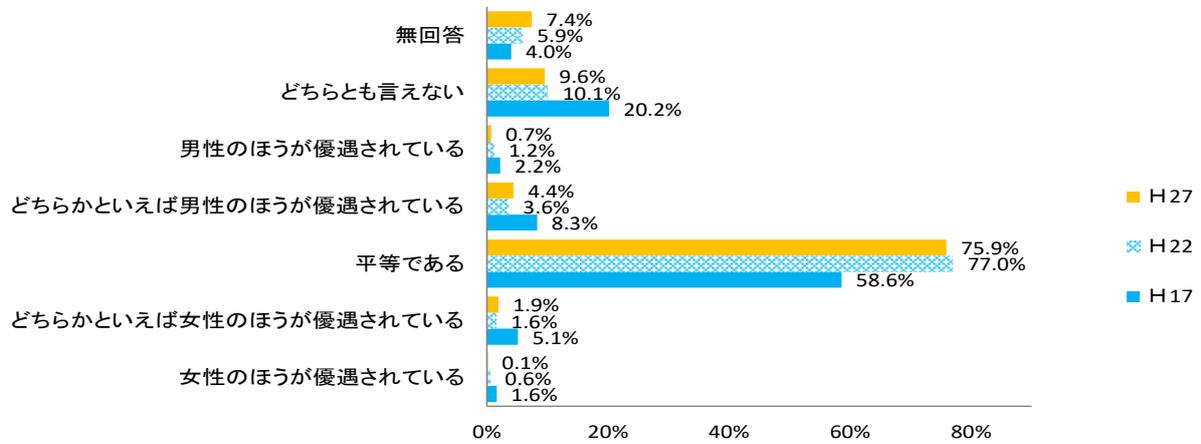
「よく知っている」「聞いたことがある」の割合が多い質問項目では、「⑦パワー・ハラスメント(パワハラ)」が88.8%と最も高く、「⑧マタニティ・ハラスメント(マタハラ)」が83.7%、「②男女雇用機会均等法」が82.9%、「③育児・介護休業法」が82.3%の順となっている。

「知らない」と回答した割合が多い質問項目では、「⑫岩出市女性人材リスト」が82.8%が最も高く、「⑩岩出市男女共同参画プラン～ハーモニープラン～」が79.1%、「⑨リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康/権利)」が76.6%、「⑪岩出市男女共同参画推進員」が72.9%、「⑤ポジティブ・アクション(積極的改善措置)」が66.7%の順となっている。

問24. 次の①～⑨の項目において男女平等だと思いますか？（それぞれについて1つだけに○を）

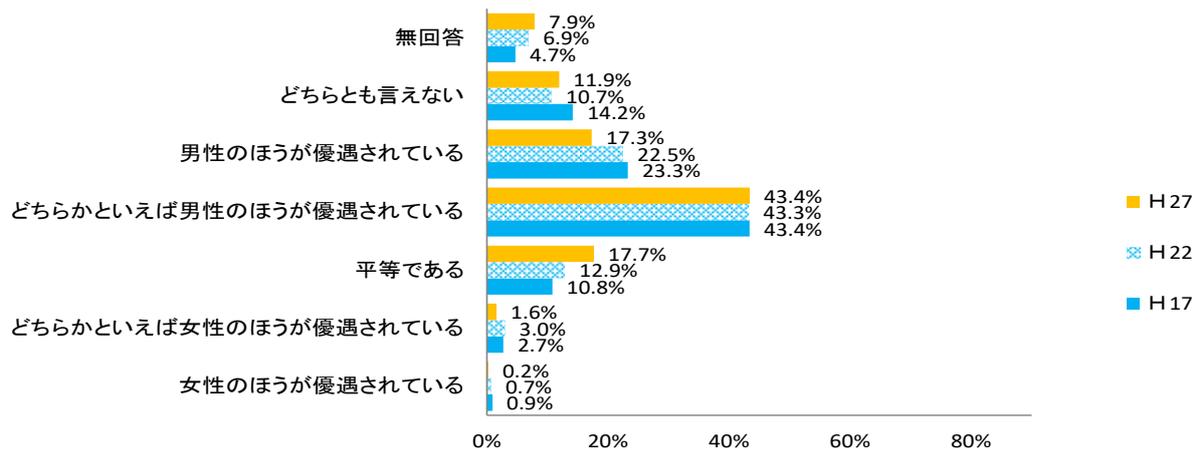
【問24 ①学校教育を受ける場では】

(N=889)



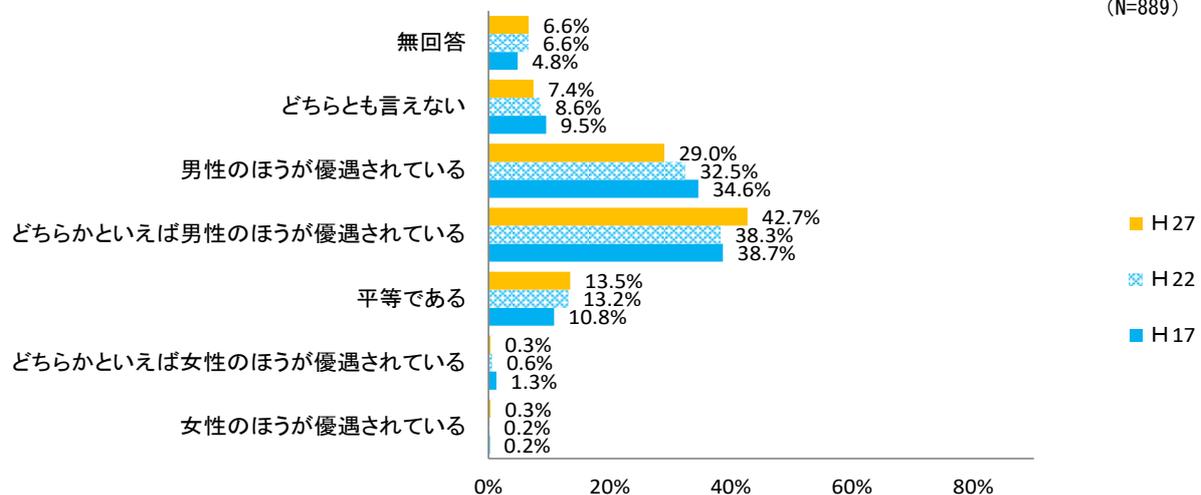
【問24 ②雇用の機会や働く分野では】

(N=889)



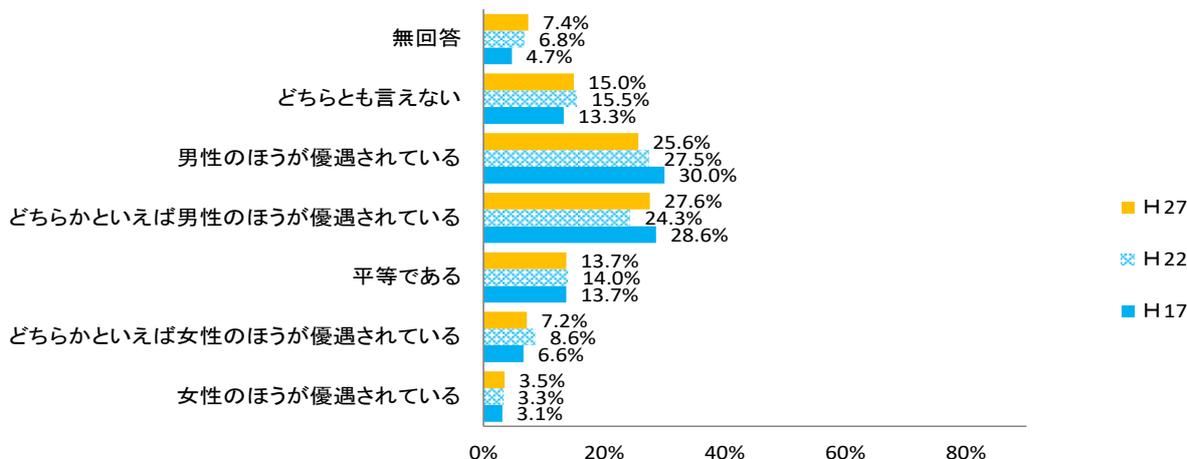
【問24 ③賃金や待遇では】

(N=889)



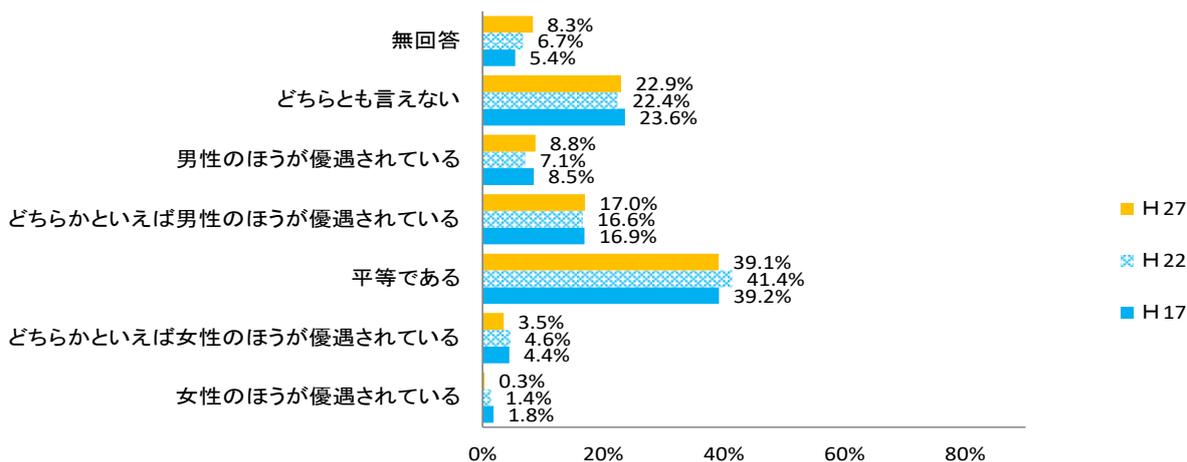
【問24 ④家庭生活(家事・育児・介護面)では】

(N=889)



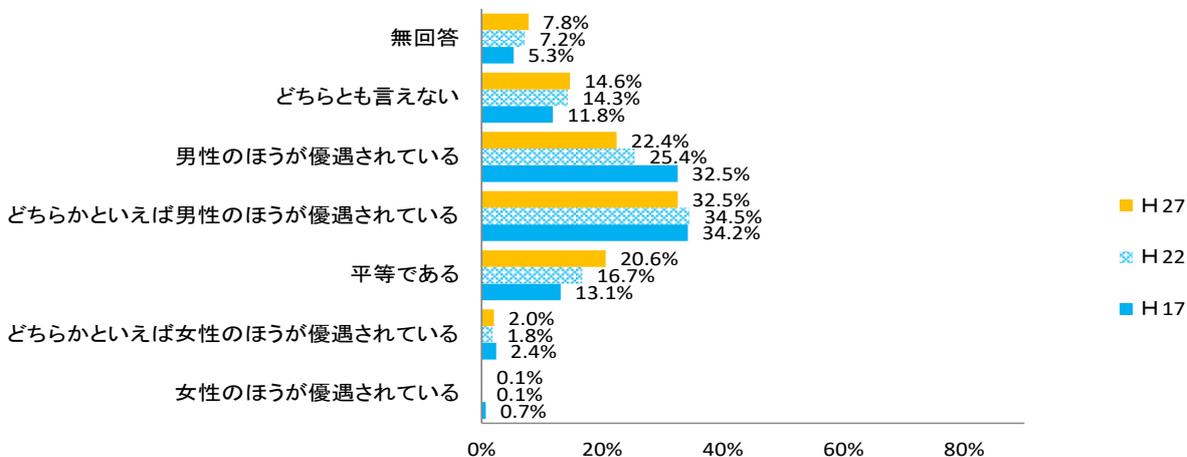
【問24 ⑤地域活動、社会活動への参加では】

(N=889)



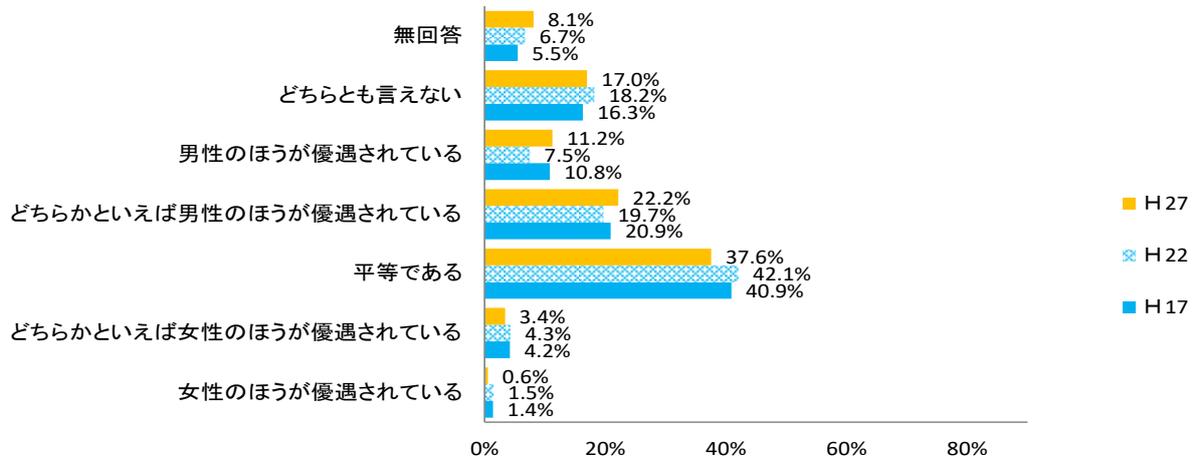
【問24 ⑥社会通念・習慣・しきたりでは】

(N=889)



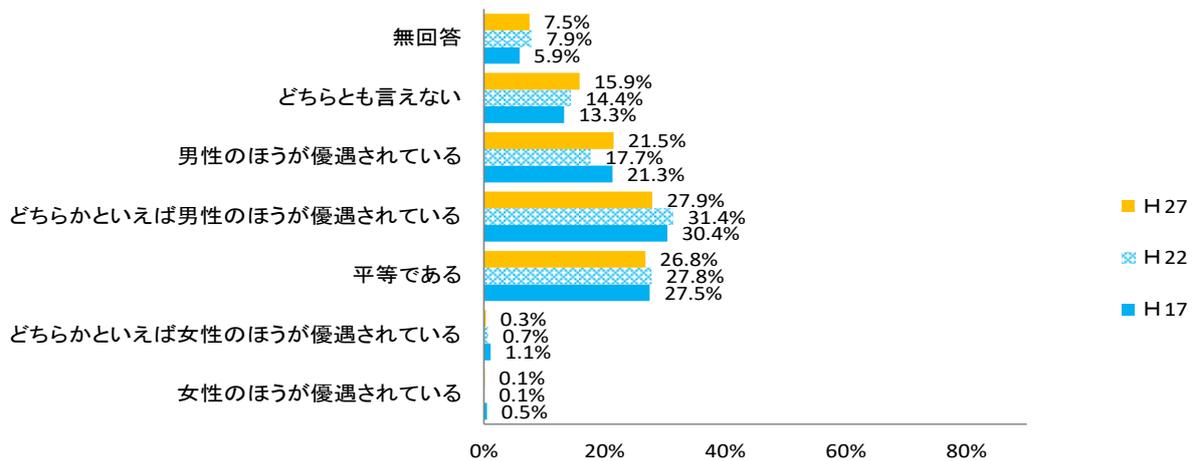
【問24 ⑦法律や制度の上では】

(N=889)



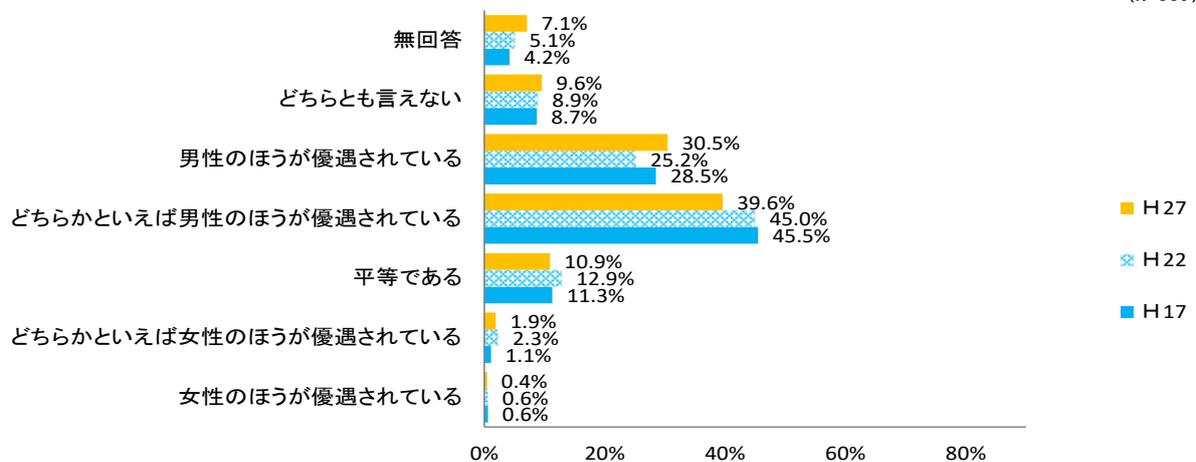
【問24 ⑧政治・経済活動への参加では】

(N=889)



【問24 ⑨全体的にみて、わが国の男女の地位は】

(N=889)



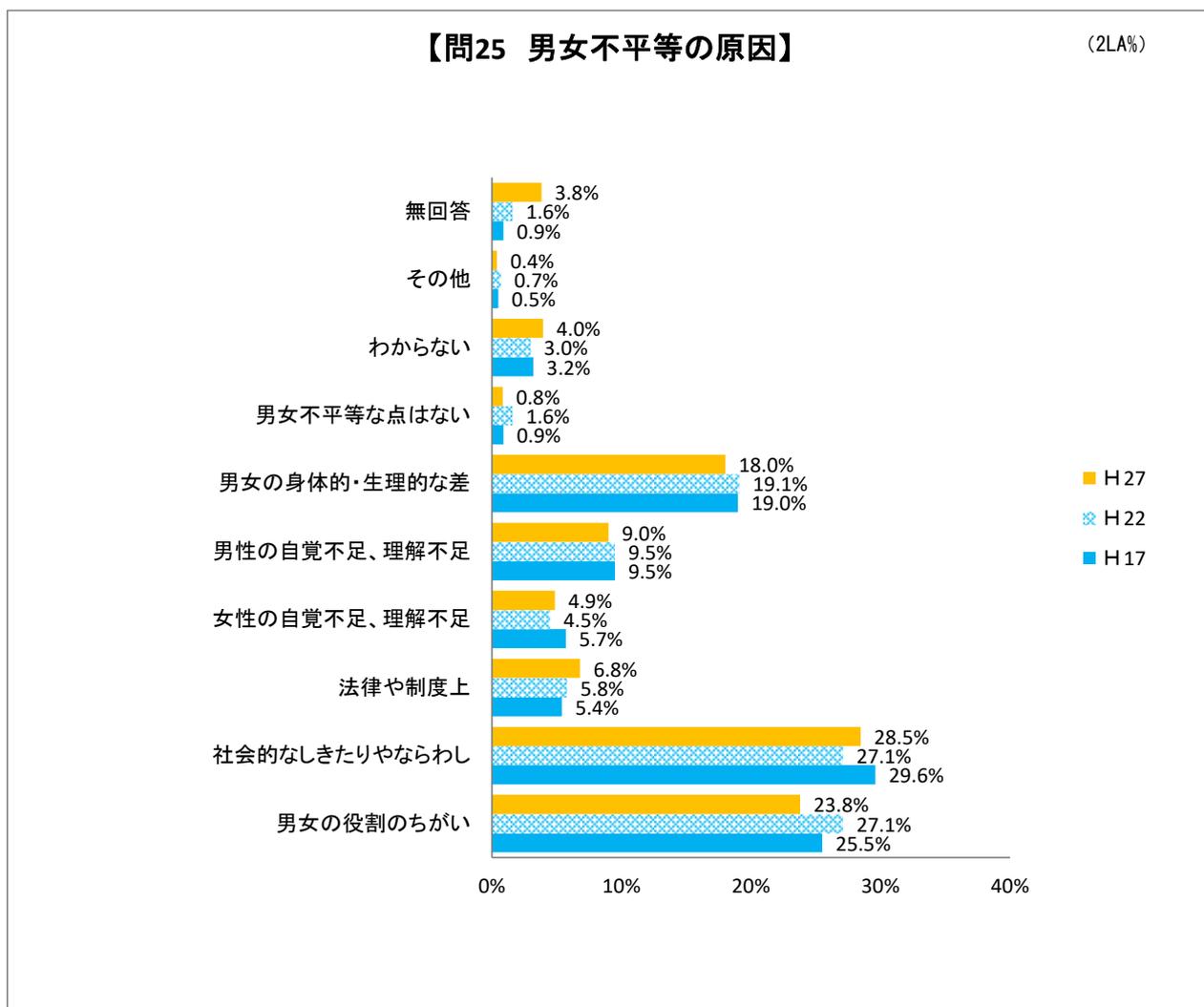
「平等である」と感じている方が多いのは、「①学校教育を受ける場」「⑤地域活動、社会活動への参加」「⑦法律や制度」となっている。それ以外は、「男性優遇」と感じている方が多い。

「平等である」の答えが最も多かったのは、「①学校教育を受ける場」で、75.9%となっている。

「男性の方が優遇されている」「どちらからといえば男性のほうが優遇されている」を合わせた『男性優遇』と感じているは、「③賃金や待遇」が最も高く、71.7%で、次いで、「⑨全体的にみて、わが国の男女の地位」が70.1%となっている。

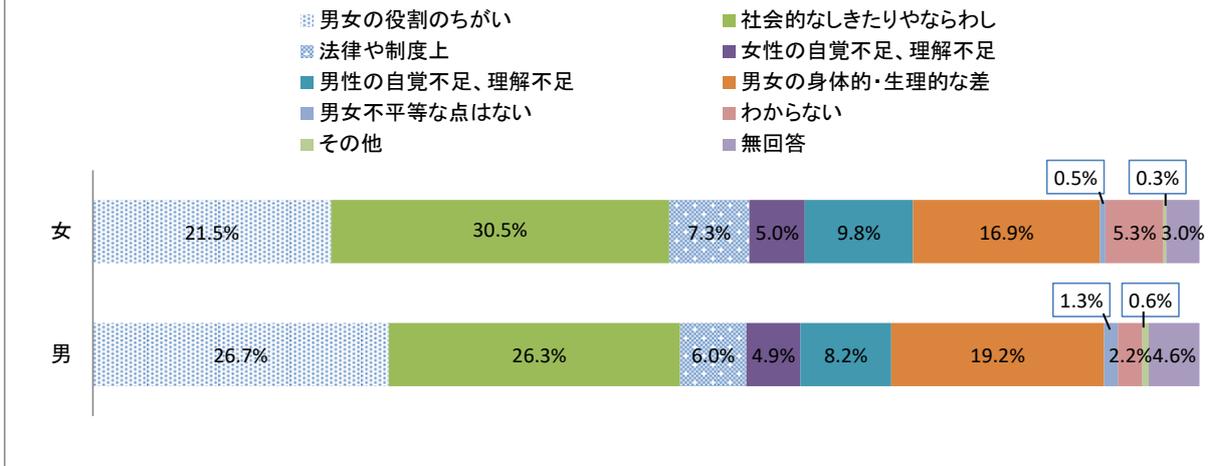
「男性の方が優遇されている」と感じている方が最も多いのは、「⑨全体的にみて、わが国の男女の地位」となっている。

問25. 社会のいろいろな面で男女不平等な点があるとすれば、その原因はどこにあるとお考えですか？（2つまでに○を）



「社会的なしきたりやならわし」が28.5%と最も高く、次いで「男女の役割のちがい」が23.8%、「男女の身体的・生理的な差」が18.0%となっている。

【問25-① 性別 男女不平等の原因】

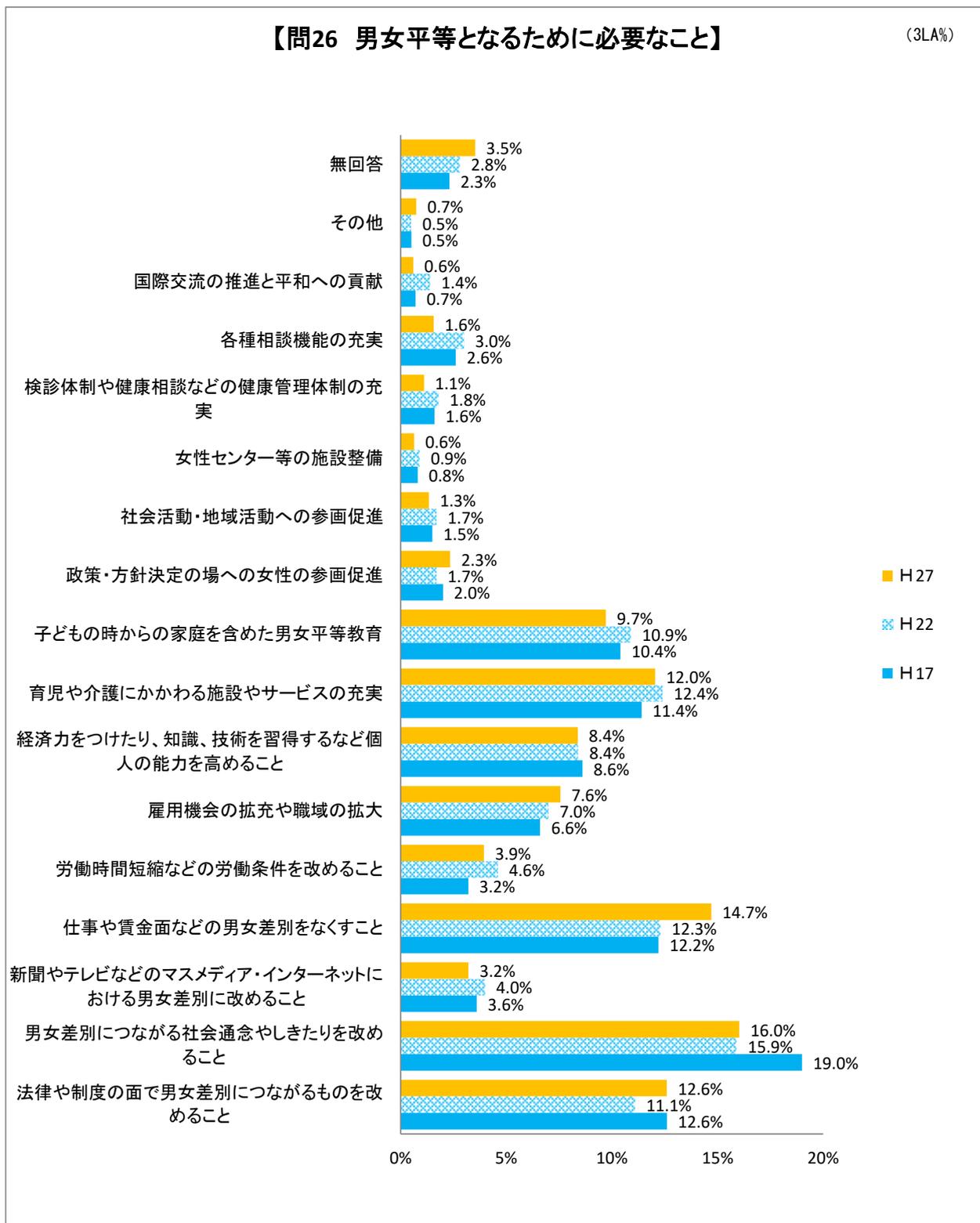


男女別では、女性では、「社会的なしきたりやならわし」が30.5%と最も高く、次いで、「男女の役割のちがい」が21.5%、「男女の身体的・生理的な差」が16.9%となっている。

男性では、「男女の役割のちがい」が26.7%と最も高く、次いで「社会的なしきたりやならわし」が26.3%、「男女の身体的・生理的な差」が19.2%となっている。

男女間で最も差が見られた回答項目は、「男女の役割のちがい」で、男性の方が女性より、5.2ポイント上回った。

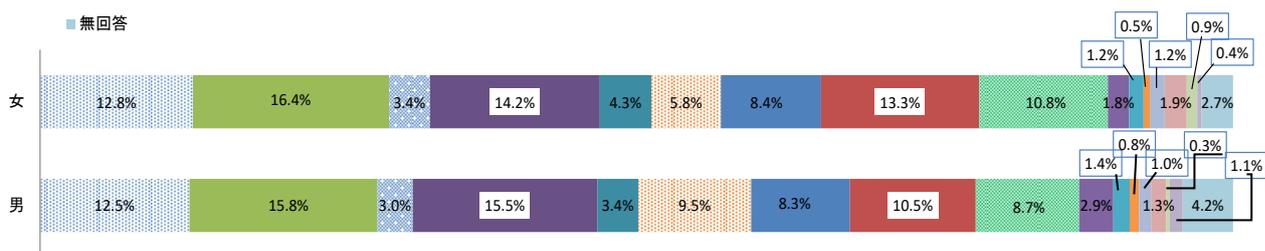
問26. 今後さらに男女平等となるために重要なことはどんなことだと思いますか？
(3つまでに○を)



「男女差別につながる社会通念やしきたりを改めること」が16.0%と最も高く、次いで「仕事や賃金面などの男女差別をなくすこと」が14.7%、「法律や制度の面で男女差別につながるものを改めること」が12.6%となっている。

【問26-① 性別 男女平等となるために必要なこと】

- 法律や制度の面で男女差別につながるものを改めること
- 新聞やテレビなどのマスメディア・インターネットにおける男女差別に改めること
- 労働時間短縮などの労働条件を改めること
- 経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど個人の能力を高めること
- 子どもの時からの家庭を含めた男女平等教育
- 社会活動・地域活動への参画促進
- 検診体制や健康相談などの健康管理体制の充実
- 国際交流の推進と平和への貢献
- 無回答
- 男女差別につながる社会通念やしきたりを改めること
- 仕事や賃金面などの男女差別をなくすこと
- 雇用機会の拡充や職域の拡大
- 育児や介護にかかわる施設やサービスの充実
- 政策・方針決定の場への女性の参画促進
- 女性センター等の施設整備
- 各種相談機能の充実
- その他



性別にみると、女性では、「男女差別につながる社会通念やしきたりを改めること」が16.4%と最も高く、次いで「仕事や賃金面などの男女差別をなくすこと」が14.2%、「育児や介護にかかわる施設やサービスの充実」が13.3%となっている。

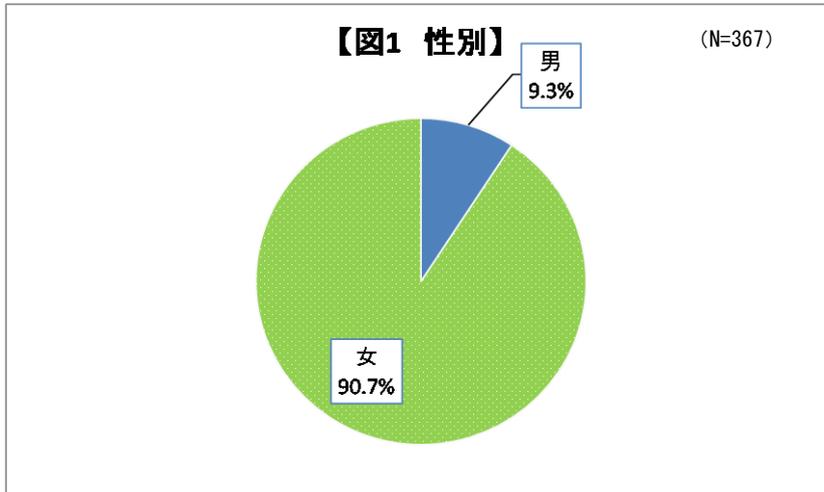
男性では、「男女差別につながる社会通念やしきたりを改めること」が15.8%と最も高く、次いで「仕事や賃金面などの男女差別をなくすこと」が15.5%、「法律や制度の面で男女差別につながるものを改めること」が12.5%となっている。

男女間で最も差が見られた回答項目は、「雇用機会の拡充や職域の拡大」で、男性の方が女性より、3.7ポイント上回った。

2. 調査結果（子育て世帯用）

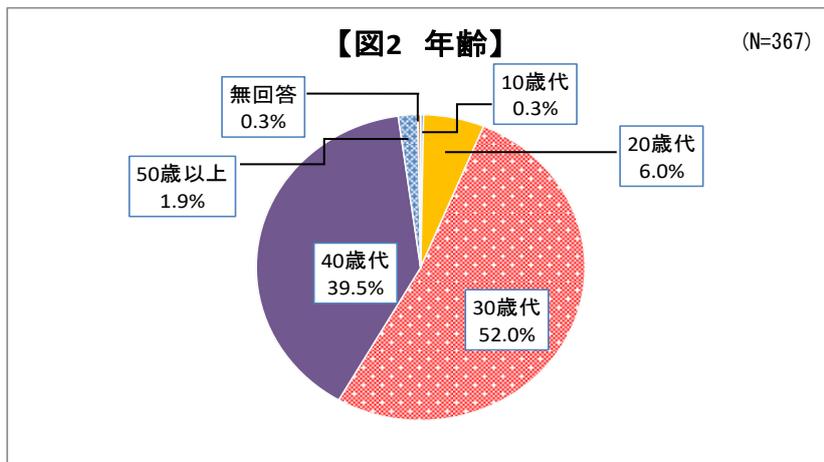
回答者自身について

Q 1. あなたの性別は？（1つだけに○を）

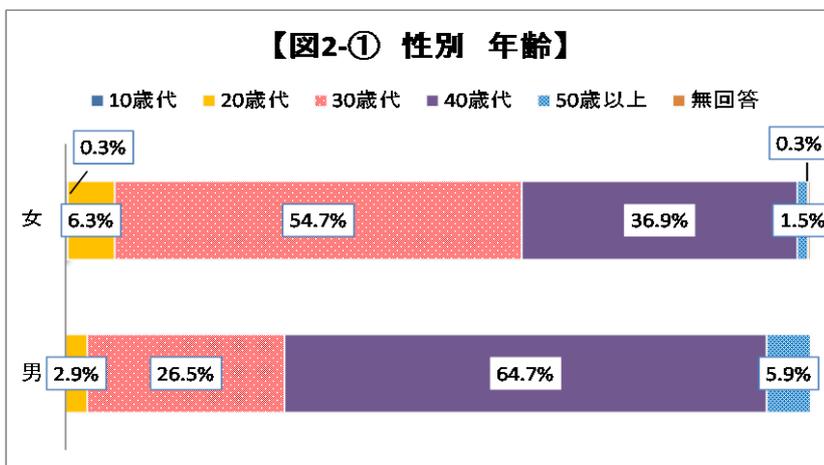


性別としては、「男性」が9.3%に対し、「女性」が90.7%となっている。

問 2. あなたの年齢は？（1つだけに○を）

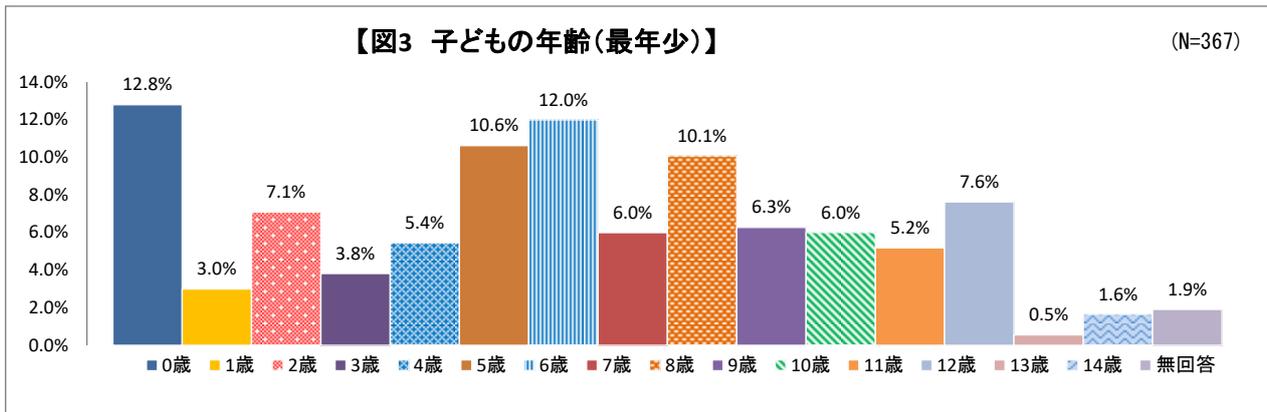


年齢としては、「30歳代」が52.0%と最も高く、次いで「40歳代」が39.5%、「20歳代」が6.0%となっている。



性別にみると、女性は「30歳代」が最も高く、次いで「40歳代」、男性では、「40歳代」が最も高く、次いで「30歳代」となっている。

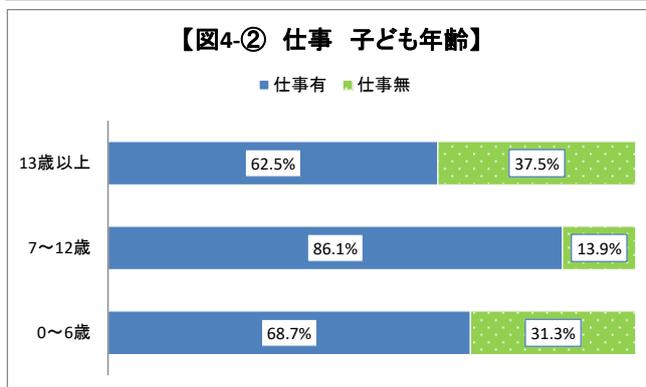
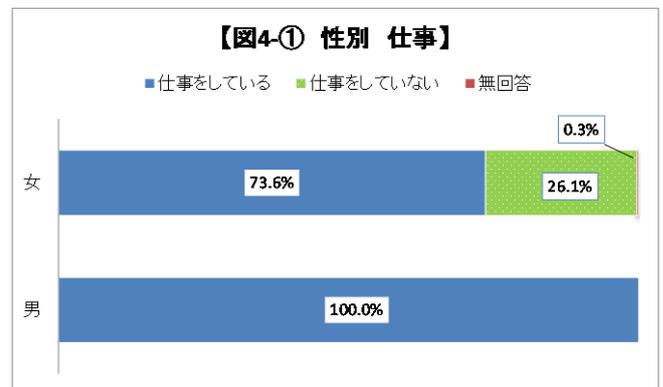
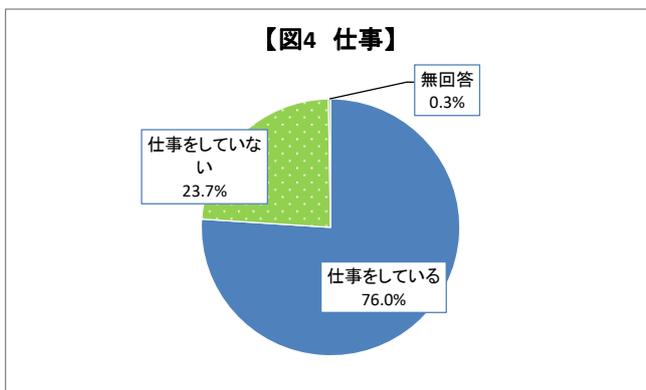
問3. あなたのお子さん（2人以上のお子さんがいらっしゃる場合は、末のお子さん）の生まれた年月をご記入ください



子どもの年齢としては、「0歳」が12.8%と最も高く、次いで「6歳」が12.0%、「5歳」が10.6%、「8歳」が10.1%となっている。

2 仕事について

問4. あなたは、現在収入を得る仕事をしていますか。（1つだけに○を）

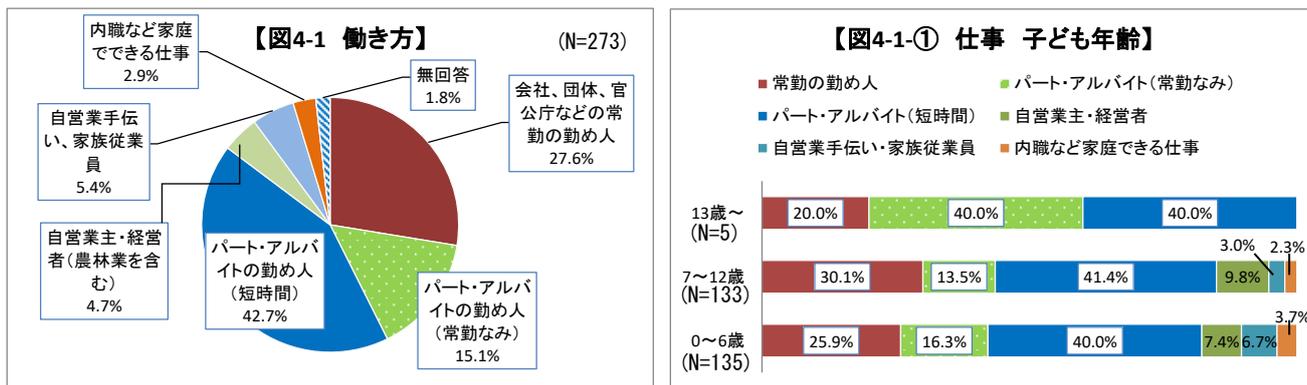


「仕事をしている」が76.0%、「仕事をしていない」が23.7%となっている。性別にみると、女性は、「仕事をしている」が7割台（73.6%）を占め、男性は、「仕事をしている」が100%となっている。

また、「仕事をしている」率は、子どもの年齢別にみると、「7～12歳」が、最も高い。

問4で「1仕事をしている」と答えた方に伺います。

問4-1. それは、どのような働き方ですか。(1つだけに○を)



働き方としては、「パート・アルバイト(短時間)」が42.7%と最も高く、次いで「常勤の勤め人」が27.5%、「パート・アルバイト(常勤なみ)」が、15.1%となっている。

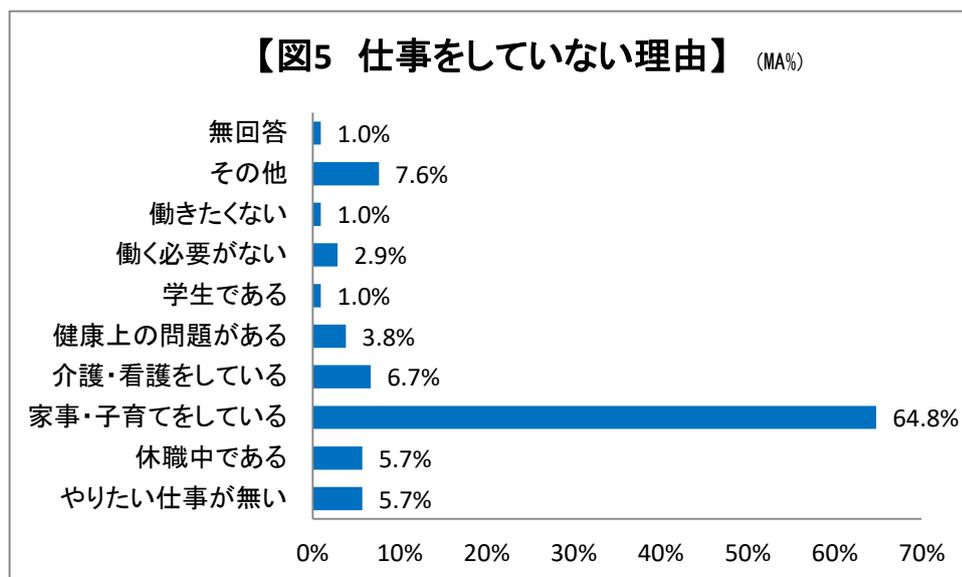
また、子どもの年齢別にみると、全ての年齢区分で、「パート・アルバイト(短時間)」が約4割となっている。

「0～6歳」「7～12歳」では、「パート・アルバイト(短時間)」が最も高く、次いで「常勤の勤め人」となっている。

「13歳～」では、「パート・アルバイト(常勤なみ)」と「パート・アルバイト(短時間)」が同率で、それぞれ40.0%である。

問4で「2仕事はしていない」と答えた方に伺います。

問5. あなたが仕事をしていないのはどうしてですか?(あてはまるものすべてに○を)



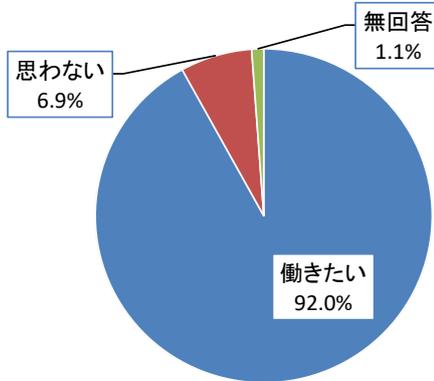
仕事をしていない理由としては、「家事・子育てをしている」が64.8%と最も高く、次いで、「その他」7.6%、「介護・看護をしている」6.7%となっている。

問4で仕事はしていないと答えた方に伺います。

問6. あなたは、今後、適当な仕事があれば働きたいと思えますか？（1つだけに○を）

【図6 今後の労働意欲】

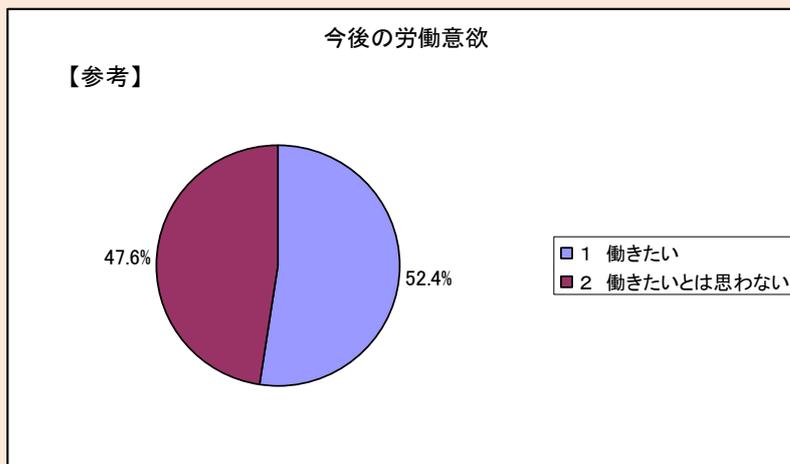
(N=87)



「働きたい」が約9割を占める。

【参考】

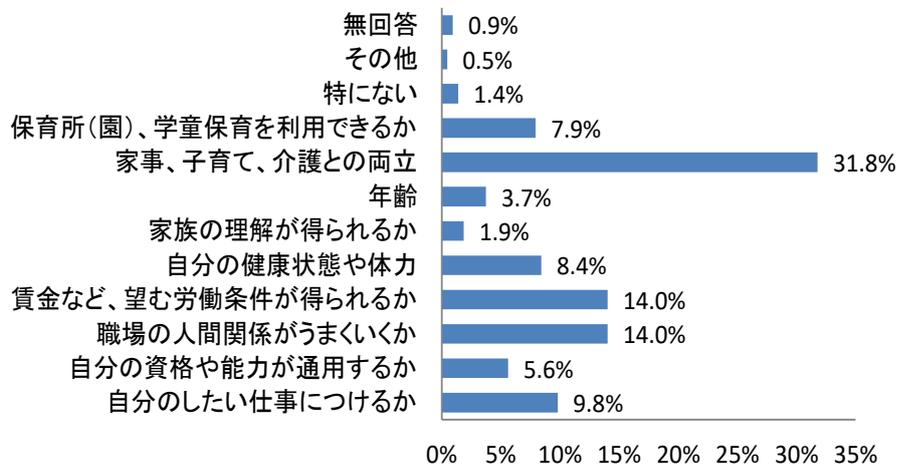
今後の労働意欲について、前回調査（平成22年）は、一般（20歳以上抽出）を対象に、質問をしているため比較できません。下表は参考掲載です。



問6で「1働きたい」と答えた方に伺います。

問6-1. 働きたいと思ったとき、気がかりなことは何ですか？（3つまでに○を）

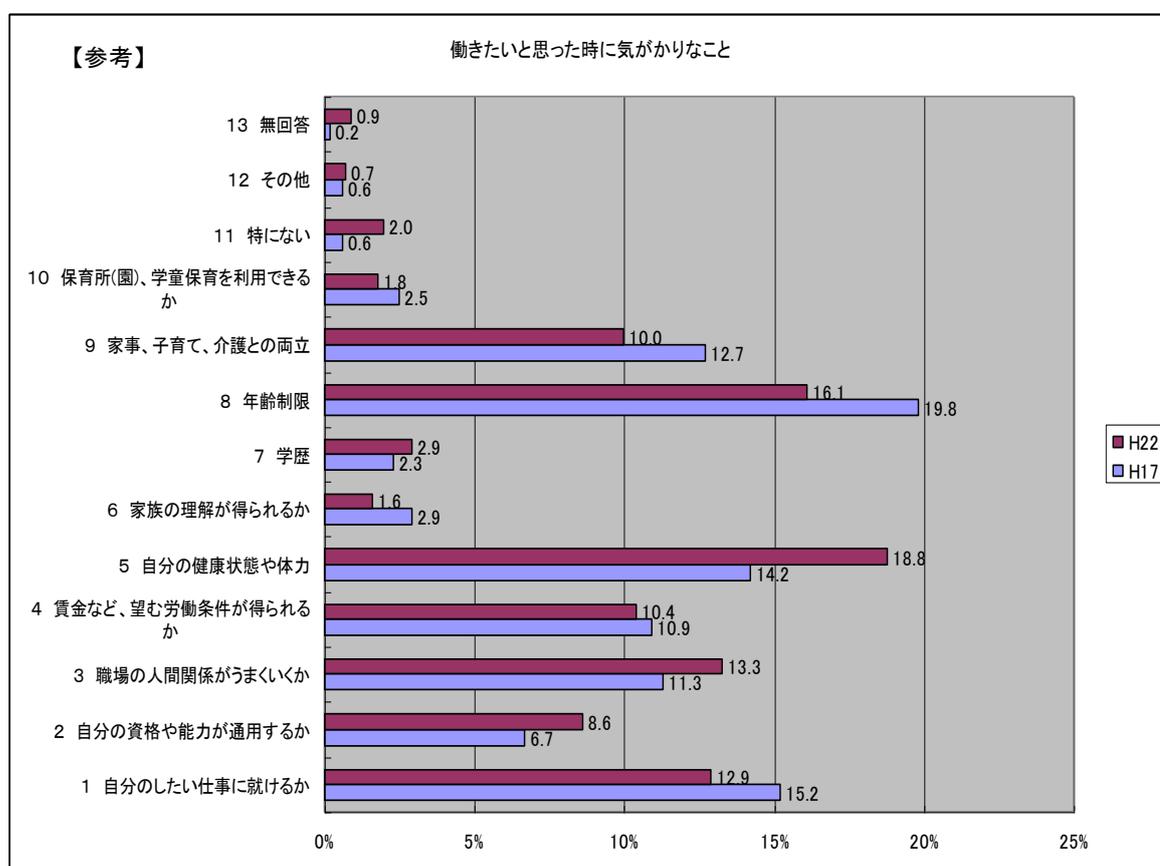
【図6-1 働きたいと思った時に気がかりなこと】 (3LA%)



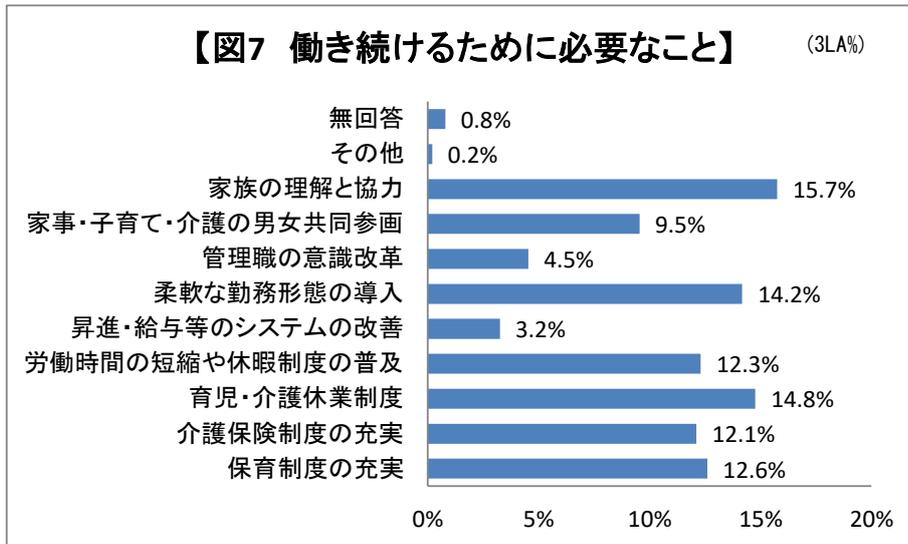
気がかりなこととしては、「家事、子育て、介護との両立」が31.8%と最も高く、次いで、「賃金など、望む労働条件が得られるか」、「職場の人間関係がうまくいくか」がともに14.0%となっている。

【参考】

働きたいと思った時に気がかりなことについて、前回（平成22年）・前々回（平成17年）は、一般（20歳以上抽出）を対象に、質問をしているため比較できません。右表は参考掲載です。



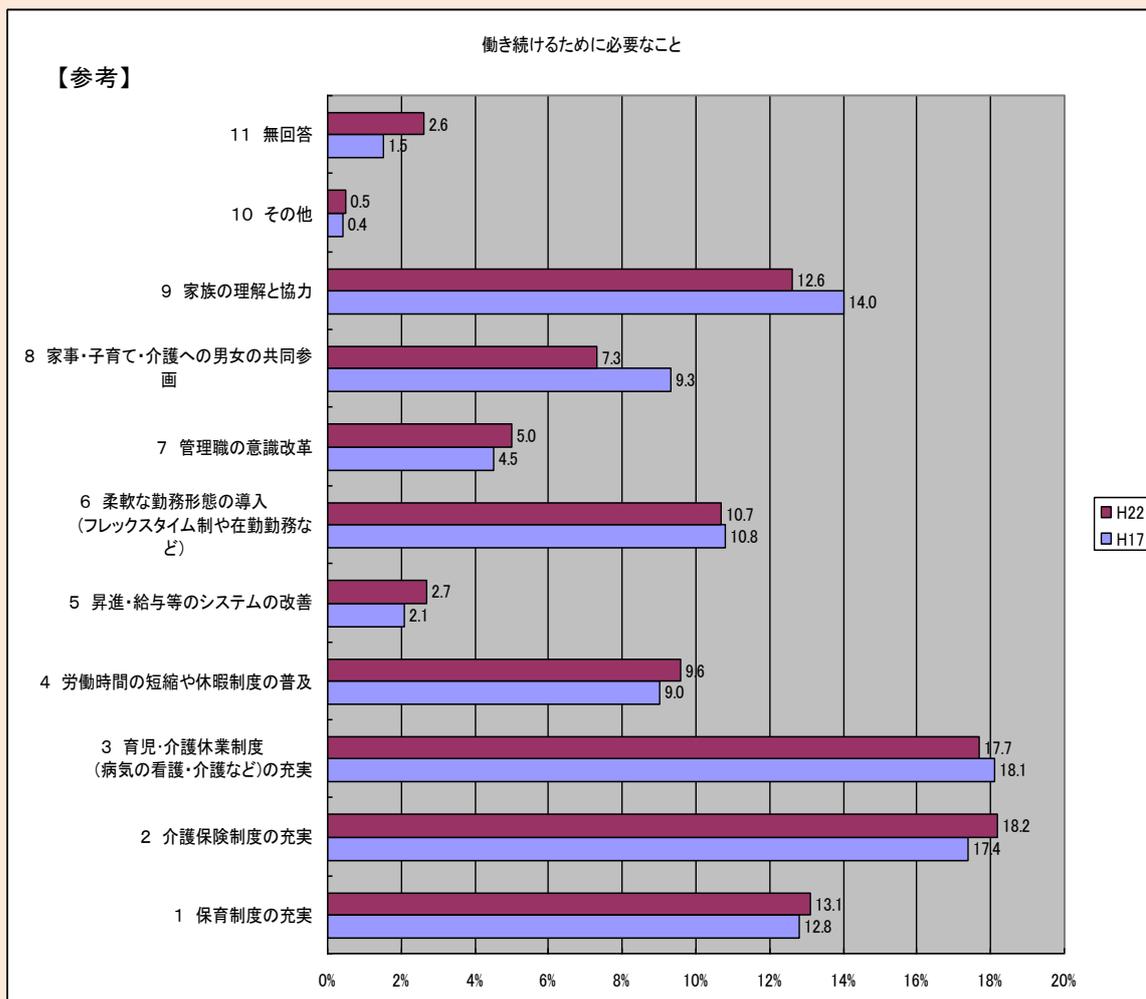
問7. 結婚や出産、子育てに際して、あるいは、介護をしなければならなくなったときに、働き続けるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか？（3つまでに○を）



働き続けるために必要なこととしては、「家族の理解と協力」が、15.7%と高く、次いで、「育児・介護休業制」14.8%、「柔軟な勤務形態の導入」14.2%となっている。

【参考】

働き続けるために必要なことについて、前回（平成22年）・前々回（平成17年）は、一般（20歳以上抽出）を対象に、質問をしているため比較できません。下図は、参考掲載です。



3 日常生活や子育てについて

問8. あなたは、女性の生き方について、

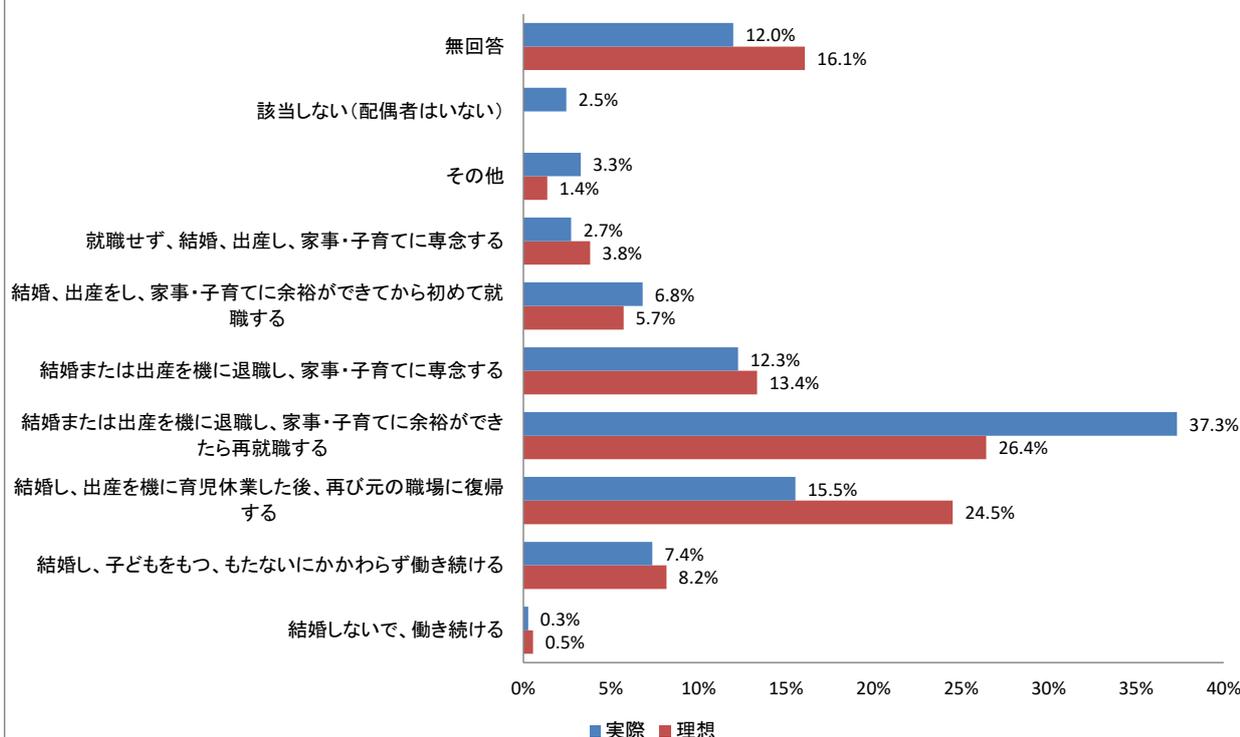
(1) どのような生き方が理想ですか？(男性もお答えください。)

(2) あなた(女性)の実際の生き方は、次のどれにあたりますか？(男性は、あなたの配偶者についてお答えください。配偶者のおられない方は⑨を選択してください。)

((1)(2)それぞれに○は1つずつ)

【図8 女性の生き方 仕事と結婚、出産、子育てについて】

(3LA%)



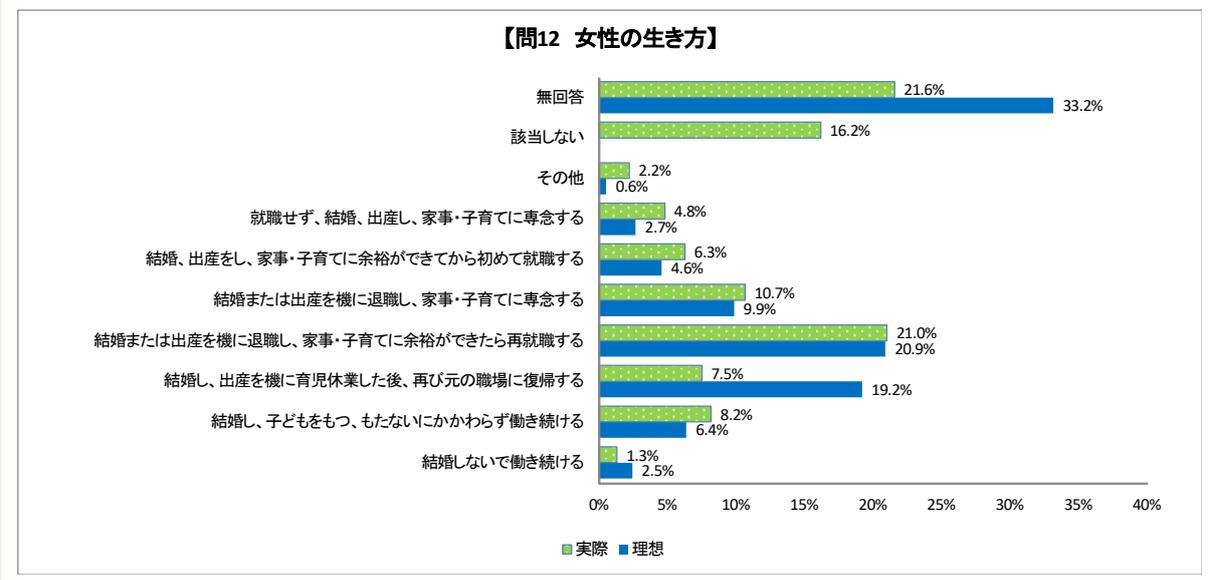
実際も理想も、「結婚または出産を機に退職し、家事、子育てに余裕ができたなら再び就職する」が最も多い。

理想は、「結婚または出産を機に退職し、家事、子育てに余裕ができたなら再び就職する」が、26.4%で最も高く、「結婚し、出産を機に育児休業した後、再び元の職場に復帰する」24.5%が続く。

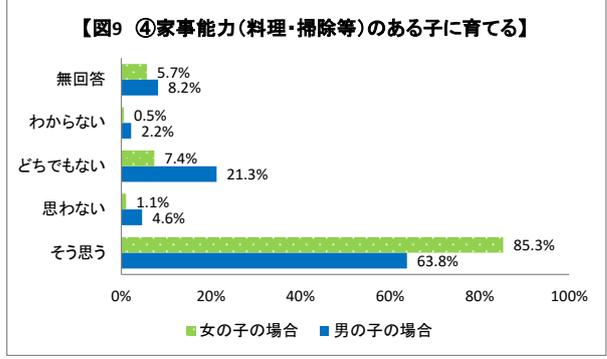
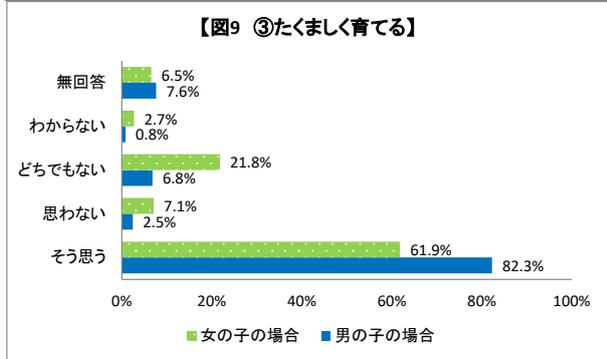
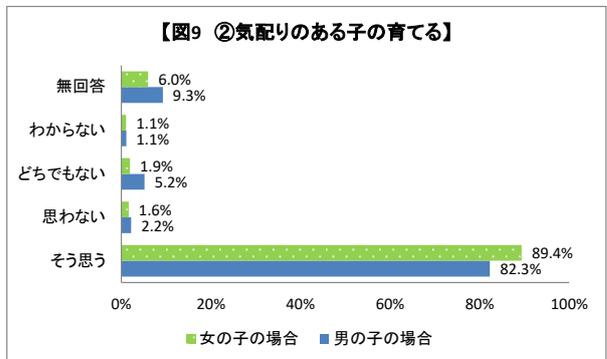
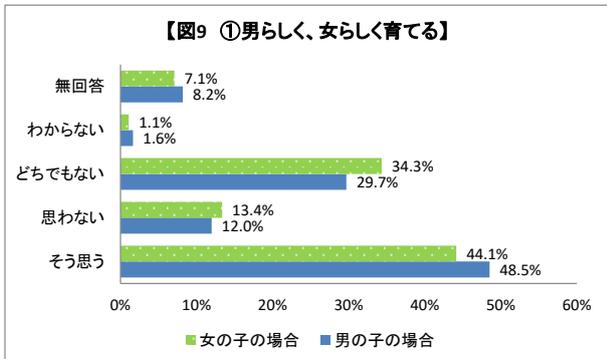
実際は、「結婚または出産を機に退職し、家事、子育てに余裕ができたなら再び就職する」が、37.3%と最も高く、「結婚し、出産を機に育児休業した後、再び元の職場に復帰する」が、15.5%と続く。

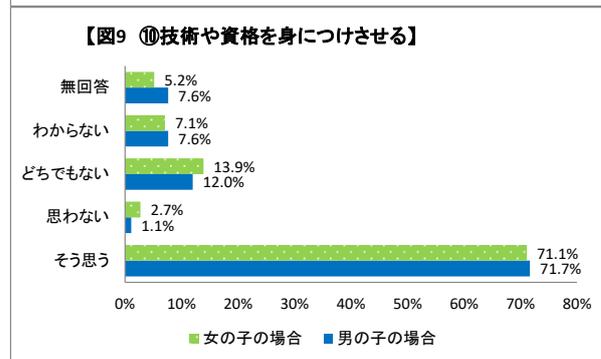
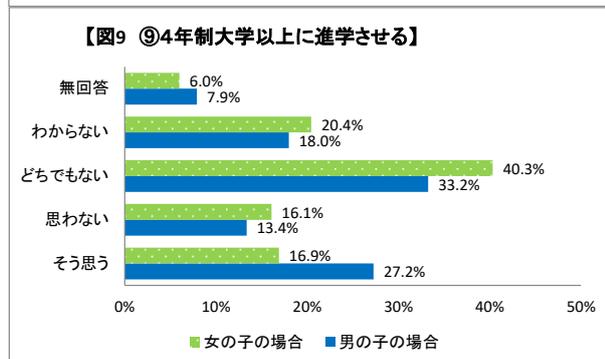
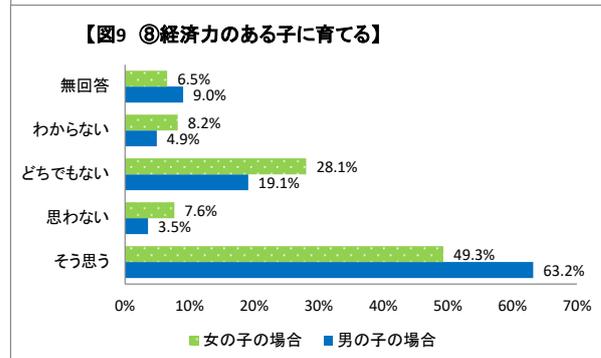
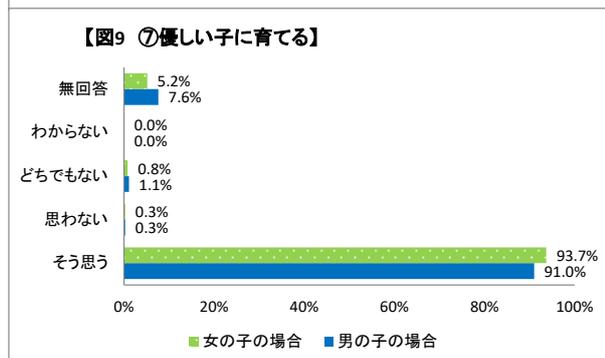
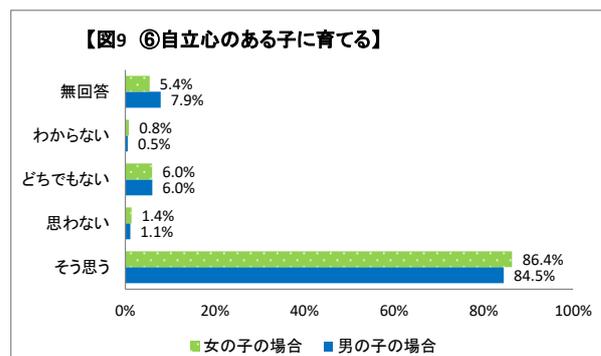
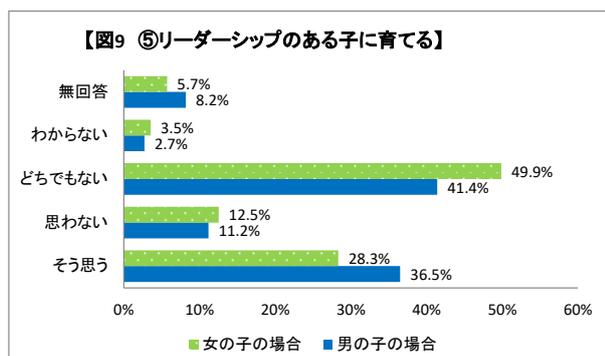
【参考】

女性の生き方理想と実際について、一般（20歳以上抽出）を対象にも、質問をしています。一般の結果下表は再掲です。（P21）



問9. 子育てについて、あなたのご意見をおたずねします。あなたのお考えに最も近いものを選んでください。（男の子の場合と女の子の場合のどちらもご記入ください）





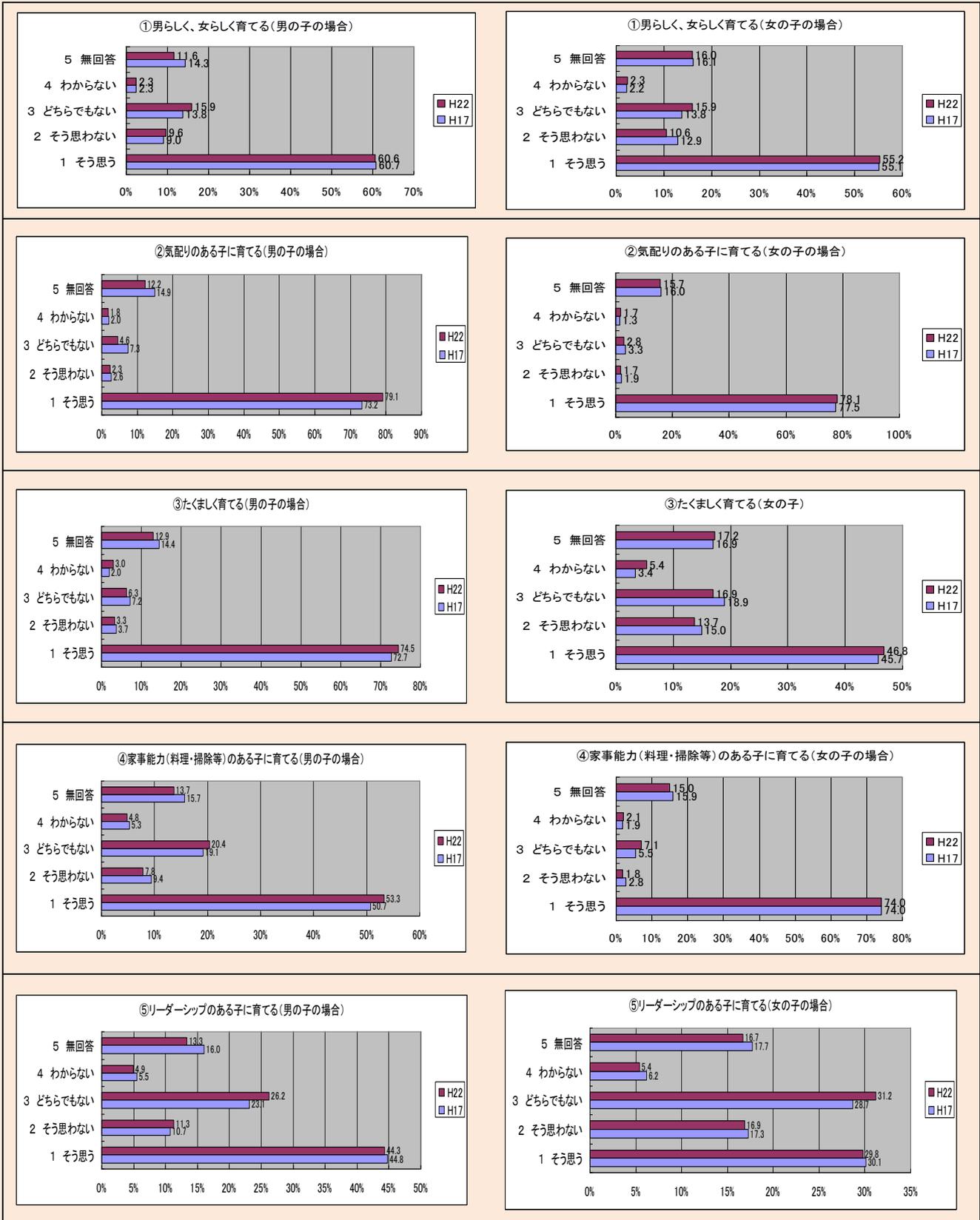
「リーダーシップのある子に育てる」と「4年制大学以上に進学させる」以外は、「そう思う」が多い。

各質問の回答項目の最も高いもので、子どもの性別による差が大きいものとしては、「家事能力」料理・掃除等）のある子に育てる」が 21.5 ポイントと最も高く、続いて「たくましく育てる」が 20.4 ポイント、「経済力のある子に育てる」が 13.9 ポイントとなっている。

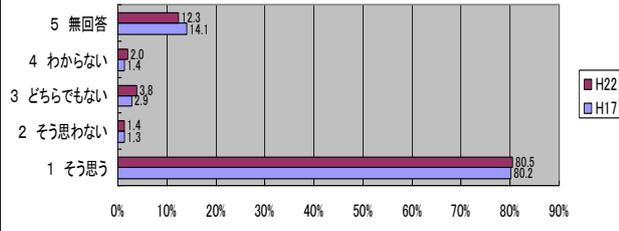
また、各質問の回答項目の最も高いもので、子どもの性別による差が小さいものとしては、「技術や資格を身につけさせる」が 0.6 ポイント、「自立心のある子の育てる」が 1.9 ポイント、「優しい子に育てる」が 2.7 ポイントの順となっている。

【参考】

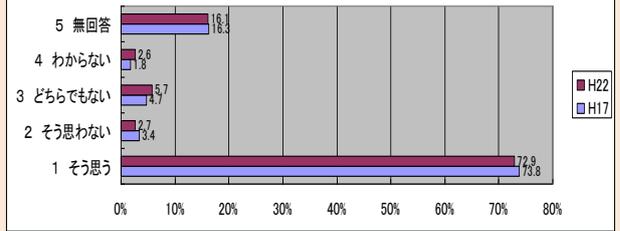
子育てについて、前回（平成 22 年）・前々回（平成 17 年）は、一般（20 歳以上抽出）を対象に、質問をしているため比較できません。下表は参考掲載です。



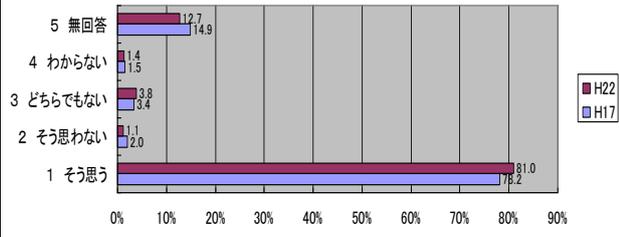
⑥自立心のある子に育てる(男の子の場合)



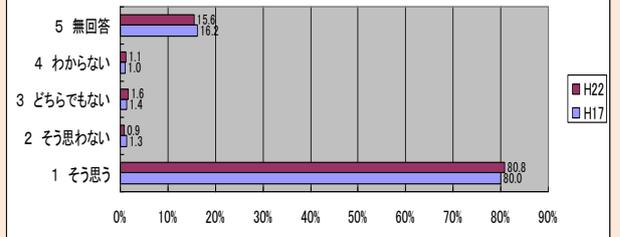
⑥自立心のある子に育てる(女の子の場合)



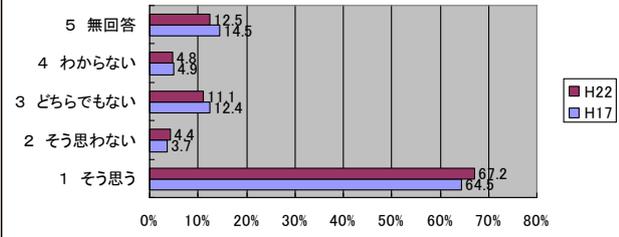
⑦優しい子に育てる(男の子の場合)



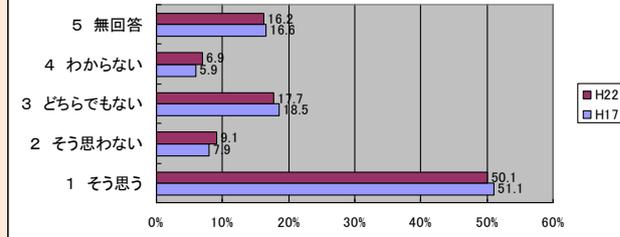
⑦優しい子に育てる(女の子の場合)



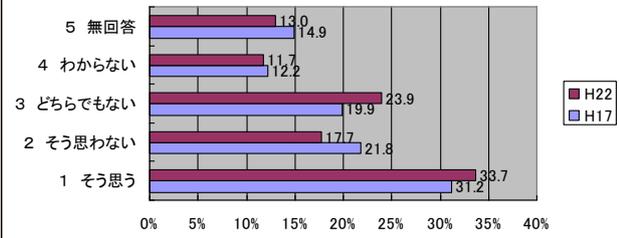
⑧経済力のある子に育てる(男の子の場合)



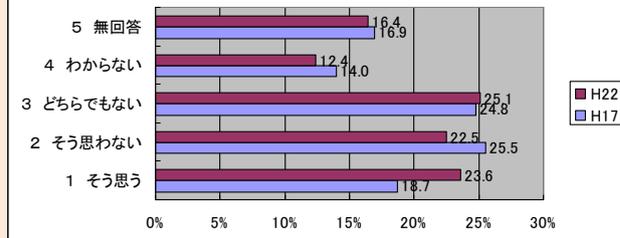
⑧経済力のある子に育てる(女の子の場合)



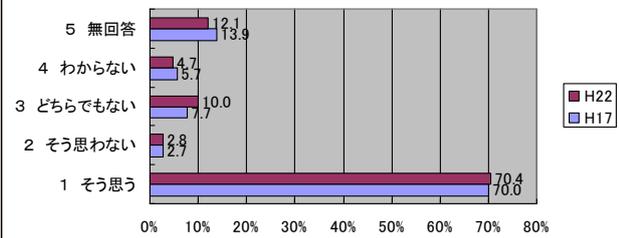
⑨4年制大学以上に進学させる(男の子の場合)



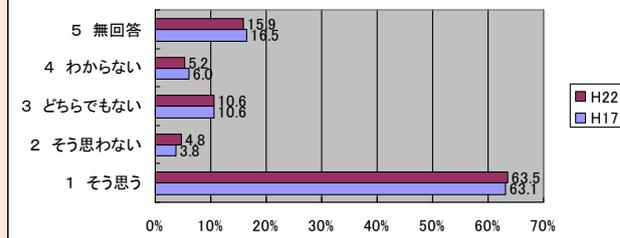
⑨4年制大学以上に進学させる(女の子の場合)



⑩技術や資格を身につけさせる(男の子の場合)

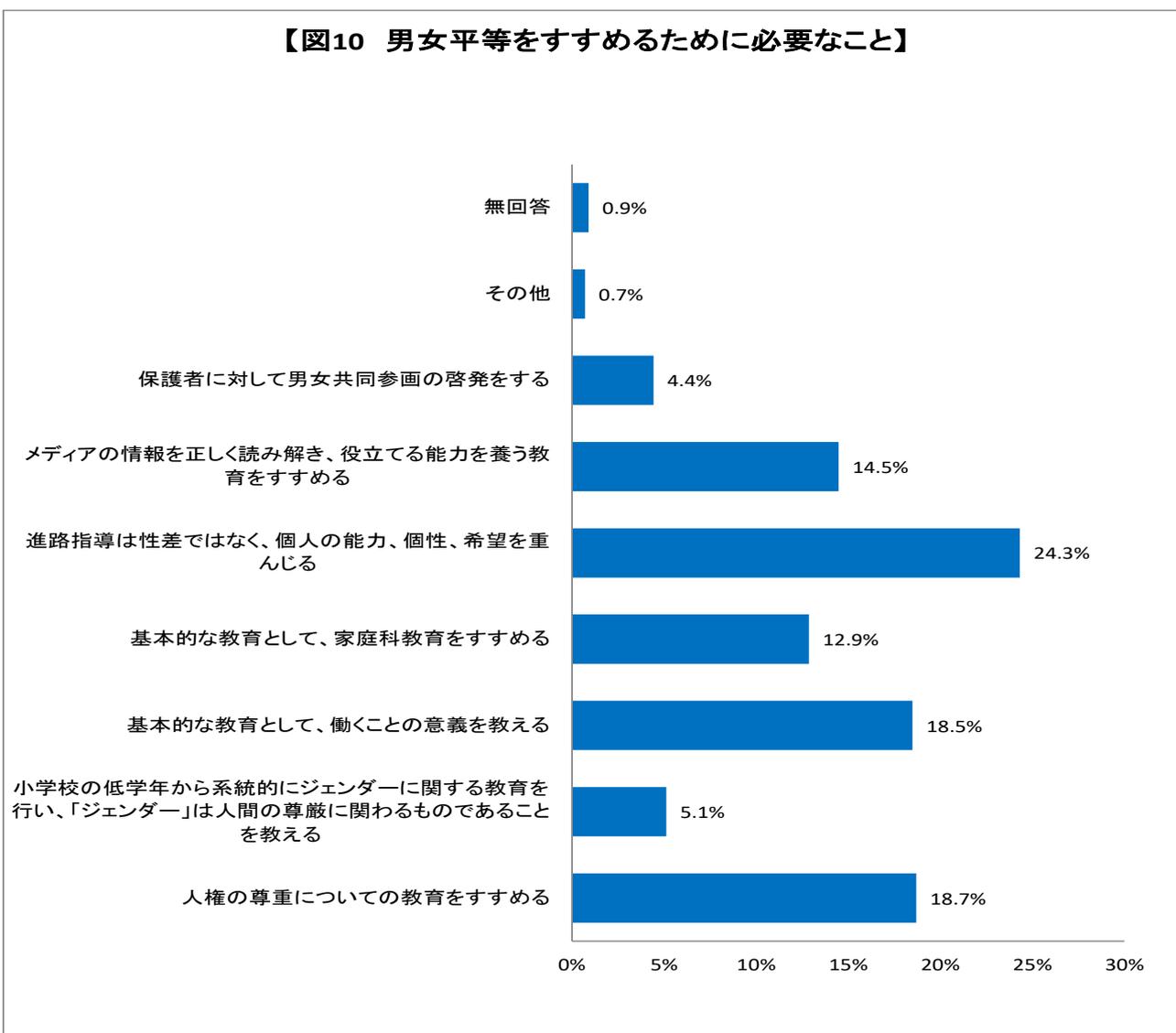


⑩技術や資格を身につけさせる(女の子の場合)



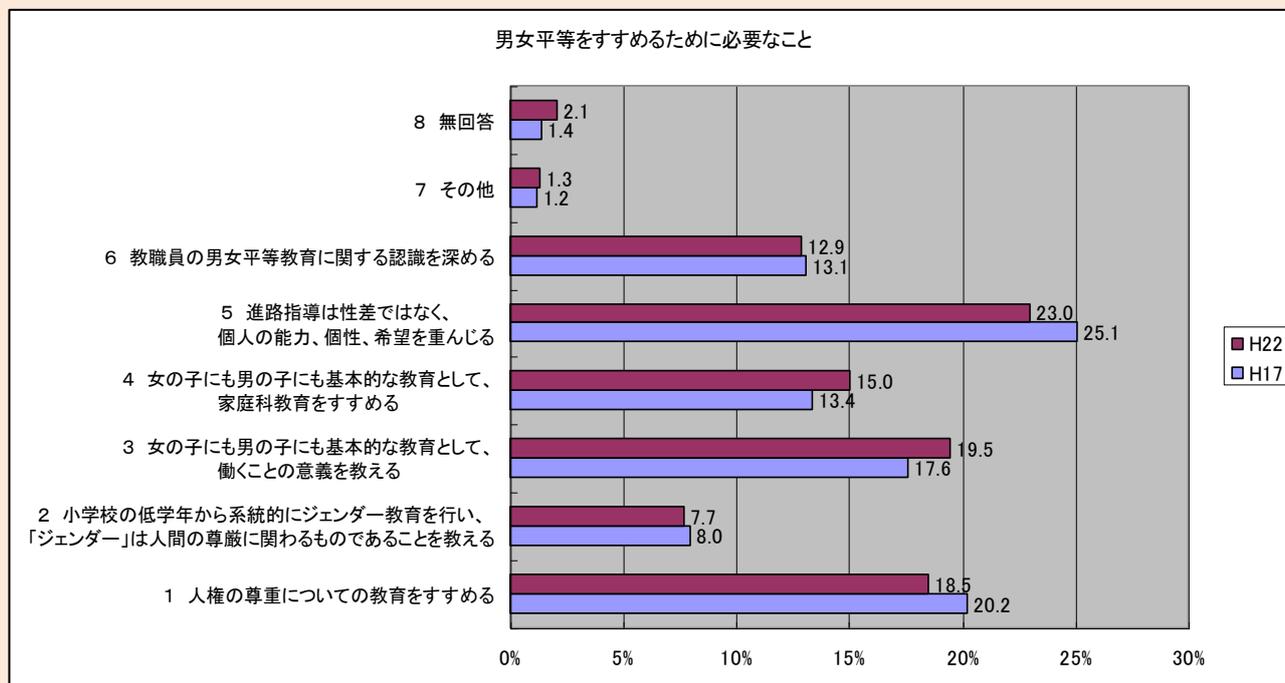
問10. 男女平等をすすめるためには、小中学校では、どのような取り組みが必要だと思いますか？（あてはまるものすべてに○を）

【図10 男女平等をすすめるために必要なこと】



男女平等をすすめるための学校での取組としては、「進路指導は性差ではなく、個人の能力、個性、希望を重んじる」が 24.3%と最も高く、次いで、「人権の尊重についての教育をすすめる」18.7%と、「基本的な教育として、働くことの意義を教える」18.5%となっている。

【参考】 男女平等をすすめるための学校での取組について、前回（平成 22 年）・前々回（平成 17 年）は、一般（20 歳以上抽出）を対象に、質問をしているため比較できません。また、一部質問を変更しています。下図は参考掲載です。



男女共同参画に関する第4次住民意識調査報告書

岩出市 市長公室

〒649-6292

和歌山県岩出市西野209番地

TEL : 0736-62-2141

FAX : 0736-63-5229

e-mail : koushitsu@city.iwade.lg.jp